

特色GPシリーズ6

『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発

2007. 10

名古屋大学高等教育研究センター

特色GPシリーズの刊行にあたって

名古屋大学高等教育研究センターは、1998年4月の創設以来、高等教育の質的向上を目指した研究・開発を行うとともに、その成果を、名古屋大学内にとどまらず、他大学・他センターをはじめとする学外諸機関に対しても積極的に公表してきました。幸い、その多くは、みなさまから広範な支持をいただくことができました。

こうした活動が評価され、2004年度には、文部科学省が推進する「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に、当センターが中心となって名古屋大学全体で取り組みを進めてきた「教員の自発的な授業改善の促進・支援—授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成」が採択されました。この取り組みは、教員が自ら進んで授業を改善する活動を促進することを目的としたものであり、授業改善の方法論の開発、そして具体的な実践手段の提供を通じて、授業改善に必要不可欠のスキルである「授業デザイン力」を、個々の教員が自分に適したやり方で身につけることを支援しようとするものです。特色GPでは、これまでの取り組みの内容をさらに充実させるとともに、その成果を学内外に広く普及させることが課題です。当センターは、こうした課題を遂行するために、新たなプロジェクトを立ち上げました。これは、オンライン・ティーチングティップスである『成長するティップス先生』と、ウェブ上でシラバス作成を支援するツールである『ゴーイングシラバス』のさらなる充実・展開を中心に据え、さらに、これらに関連する試みとして、学生の学習支援のための「スタディティップス」の研究・開発、またこれらのツールを生かした新たなFDプログラムの研究・開発までも射程に含めるプロジェクトです。

当センターは、高等教育の現場で生じる諸課題に即応しうる研究・開発を目指してきました。したがって、本プロジェクトの最終的な成果の多くもまた、研修プログラム・サービス・ツールといった形で提供されることとなります。しかしながら、こうした最終成果に至る過程で積み上げられた研究や作業それ自体にも、他の研究活動やプロジェクトへとつながる知見・示唆が少なからず含まれるものと考えられます。こうした点を踏まえて、われわれは、開発の最終成果のみならずそのプロセスをもこれまで以上に積極的に学内外に公表すべく、ここに「特色GPシリーズ」を新たに刊行することにいたしました。

本シリーズを通じて、高等教育研究者をはじめ、授業改善に日々取り組んでおられる教育関係者、さらには高等教育に関心をお持ちの方など、広範な方々に当センターの情報を提供していく予定です。みなさまからのご意見・ご批判を頂戴し、今後の研究開発活動やその成果のいっそうの改善に役立てていきたいと考えております。どうかご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2005年4月

高等教育研究センター長
戸田山 和久

はじめに

— 『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』を開発して—

この報告書のねらいは、制作スタッフがどのような議論と準備を経て新入生のためのスタディティップス開発に漕ぎ着けたのかという「メイキング・オブ」の過程を白日の下にさらすことにある。こうした開発研究のプロセスは論理だけでうまく説明できるわけではない。堂々巡りの一方で、論理の飛躍もある。異なる価値観や背景をもったスタッフが議論することによる化学反応があり、予期せぬ落とし穴もある。そこがおもしろいし、難しいところでもある。この報告書で一番重要なところは、最終成果物である学会発表論文やスタディティップス本体よりもむしろ、その後ろに資料として掲載されている膨大なミーティング記録である。この記録こそが、研究開発における試行錯誤の過程である。

私たち高等教育研究センターのスタッフが追求したのは、かつて授業支援のあり方を考えながらティーチングティップス『成長するティップス先生』を制作した時の方法と同様に、名古屋大学として新入生に伝えるべきメッセージとは何かを、制作スタッフ自身が自問自答することであった。これまで大学は新入生に対して学生便覧やオリエンテーションを行ってきたが、その内容は受講登録のような事務情報で占められており、大学としての期待やメッセージを伝えるというにはほど遠かった。スタディティップスの要諦は事務情報ではない。大学が新入生に対して何を期待しているか、大学で学ぶことにどのような意義があるのか、どのように学んだらよいのかというアカデミックなメッセージを、歓迎の気持ちとともに彼らに明確に伝えることである。

制作するにあたっては、高等教育研究センターでは事前に諸外国の数多くのスタディティップスを参考にして試作品を作り、学生にモニターしてもらった。さらに、学内の教員や在学生から名古屋大学で学習する上での具体的なアドバイスを提供してもらった。学生のモニター結果からわかったことは、諸外国の大学が導入しているスタディティップスは初年次セミナーの教科書として用いられているケースが一般的であり、ハンドブックとして用いるには文章・分量ともに重厚すぎるということである。そこで名古屋大学版では、より簡潔で具体的なメッセージを打ち出しながら、同時に国内有数の研究総合大学で学ぶことの意義やアカデミズムの楽しさをどう伝えるかを工夫することとした。

名大版の開発にあたっては、2005年9月にスタディティップス研究会の名称を *eager circle* (熱血集団) をもじって「イーグル」と命名した。開発のプロセス(4ステージ)おおよそ次の4つの時期に分けられる。第1期(2005年9月~10月)は大学生の発達に関するさまざまな理論や研究成果をレビューし、名大版を制作する上での知見を得ることである。特にアメリカでは大学生の発達論に関して多様な研究がなされており、それらは高等教育研究の分野ではほとんど日本に知られていないことがわかった。特に印象的だったのは、大学生活の成功は学習の適応だけでなく、人間関係をはじめとする社会的な適応に大きく

依存しているという専門家の指摘である。この考え方は、特に第2号「自発的に学ぼう」を制作する際に大いに役に立った。

第2期（同11月～12月）は、既存のスタディティップスを構成する要素を分解し、名大スタディティップスの基本要素を抽出すると同時に、基本コンセプトを策定することである。この時期のハイライトは11月15日に行った中津川合宿である。合宿では、「学識ある市民になろう」という基本コンセプトを定め、すでに一定の学習能力・意欲を備えた学生の意識をさらに高めるという基本姿勢を設定した。また、大学とはどういうところか、何を学ぶところなのかを説明する「大学論」と、大学でいかに学ぶかを具体的に示す「学習論」の二本立てで構成することを決めた。

第3期は定めたコンセプトに基づいて執筆・編集することである（同12月～2006年3月）。第1号『「学識ある市民」をめざして』では全体の構成を全員で話し合った上で、戸田山、中井、鳥居の3人が分担して執筆し、それを近田が全体を通してリライトし、その内容をさらに全員でチェックした。第2号「自発的に学ぼう」では近田が全体を執筆して、夏目が監修し、それを全員で何度もチェックする方法をとった。この相互に書き直すという手法は『成長するティップス先生』以来、当センターがとってきた伝統である。このため、文責はスタッフ個人に特定されず、組織としての高等教育研究センターが負うものである。

第4期（2006年4月～2007年3月）はできあがったスタディティップス2006年版の広報と2007年版への改訂作業である。広報媒体としては、学生生活ガイダンス、学内ニューズレター、高校生向け大学案内、高等教育研究センターの季刊ニューズレターなどを活用した。また名大ホームページの教育支援情報コーナー、大学ポータルMyNU、名古屋大学オープンコースウェア『名大の授業』などでも案内・紹介してもらった。

2007年版への改訂では、実験授業のティップスを精選し、この内容に関するコラムや教員アドバイス、イラストなどを追加することとした。1年生に実施したアンケート調査結果から、理科系学生の評価が文系学生に比べてやや低くなっており、本ティップスの対象が講義やセミナーなどに限られていることが、その主たる理由ではないかと考えたからである。改善したのは内容面だけでない。配布方法についても、全学教育担当教員（約900人）に配布した上で、全学教育FDの場で紹介し、授業での活用を促した（2006年版では教員には希望者のみに配布）。新入生に対しては、3月中下旬の入学手続き時に配布し、春休み中に目を通すように奨励した（2006年版では4月の学生生活ガイダンス時に配布）。

このスタディティップスを制作する過程では、多くの学内教員から具体的な助言と激励をいただいた。特に2007年版を作る過程において実験授業の学習ティップスを検討する際に、教養教育院の実験担当の先生方からは懇切丁寧なアドバイスをいただいた。記して御礼申し上げたい。

高等教育研究センター教授 夏目達也

研究組織

(2007年10月現在)

戸田山和久	名古屋大学高等教育研究センター	センター長
夏目 達也	同	教授
近田 政博	同	准教授 (プロジェクトチーフ)
中井 俊樹	同	准教授
鳥居 朋子	鹿児島大学教育学部	准教授
齋藤 芳子	名古屋大学高等教育研究センター	助教
岡田久樹子	同	研究アシスタント

研究発表一覧

学会発表

- ・近田政博「初年次教育におけるスタディティップスの位置づけー名古屋大学の取り組み」第26回大学教育学会ラウンドテーブル、2004年6月12日。
- ・近田政博『『大学でどう学ぶか』を学ぶ授業実践とその課題ー名古屋大学全学教養科目の事例ー』第27回大学教育学会、2005年6月12日。
- ・近田政博・夏目達也・中井俊樹・鳥居朋子「大学コミュニティへの適応を促進する新入生向け学習支援教材の開発ー『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例より」第28回大学教育学会、2006年6月11日。
- ・近田政博「高等教育研究における開発型アプローチの可能性と課題」日本教育工学会シンポジウム発表、東京工業大学、2007年6月16日。

雑誌論文

- ・近田政博「大学で学ぶことの意味を考えさせるための教材ー『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発」キハラ株式会社マーケティング部編『LISN』No.129、2006年、11-13頁（査読なし）。
- ・近田政博・戸田山和久・夏目達也・中井俊樹・鳥居朋子「大学での学びを促進する全学新入生向け教材の開発ー『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例よりー」名古屋大学高等教育研究センター編『名古屋高等教育研究』第7号、2007年、125-145頁（査読付）。

招聘講演・研究会など

- ・近田政博「学生は何を求めているか」第1回ランチタイムFD（名古屋大学高等教育研究センター主催）、2005年5月13日。
- ・近田政博「初年次教育の質をどう高めるかー目標設定、評価指標、実践手法ー」早稲田大学教育総合研究所セミナー、2005年7月21日。

- ・近田政博「名古屋大学における初年次教育の展開－実践と課題」第1回大学教育改革フォーラム in 東海、2006年3月4日。
- ・近田政博「研究大学の新入生にはどのような学習支援が必要か－『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発事例より」九州大学、2006年3月23日。
- ・近田政博「大学での学びを促進するための教材開発－新入生のためのスタディティップス」関西国際大学学習支援センターシンポジウム、2006年9月5日。
- ・近田政博「大学生の発達を促すコミュニケーションのあり方とは？」静岡大学、2006年9月28日。
- ・近田政博「新入生の学習参加度を高めるための戦略：『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発」大阪工業大学、2006年10月16日。
- ・近田政博「学習支援教材としてのスタディティップス」桜美林大学、2006年10月17日。
- ・近田政博「今日の大学生の学習状況と学習志向」院生のための大学教授法研修会（名古屋大学高等教育研究センター主催）、2006年11月15日。
- ・近田政博「新入生の学習意欲を高めるための方法－名古屋大学の初年次教育事例」同志社大学、2006年12月19日。
- ・近田政博「名大生の現状と学習支援のあり方」名古屋大学平成19年度第1回全学教育担当教員FDでの話題提供、2007年4月3日。
- ・近田政博「新入生の学習参加度を高めるための方法－『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発と普及－」石川県立大学、2007年7月25日。

目 次

はじめに

研究組織

研究発表一覧

I. 論文

大学コミュニティへの適応を促進する新入生向け学習支援教材の開発ー『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例よりー 3

II. 研究成果物

名古屋大学新入生のためのスタディティップス①「学識ある市民」をめざして（2007年版） 23

名古屋大学新入生のためのスタディティップス②「自発的に学ぼう」（2007年版） 41

III. 資料

資料1. ミーティング議事録 83

資料2. スタディティップス 2006年版の表紙・裏表紙 163

資料3. 平成18年度学生生活ガイダンスでのスタディティップス 2006年版の紹介文 164

資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録 165

資料5. 広報媒体および新聞記事 174

資料6. スタディティップス開発に関連する講演資料 179

I . 論文

大学コミュニティへの適応を促進する新入生向け学習支援教材の開発ー『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例よりー

大学コミュニティへの適応を促進する新入生向け学習支援教材の開発

－『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例より－

近田政博（名古屋大学高等教育研究センター）

夏目達也（同上）

中井俊樹（同上）

鳥居朋子（同上）

1. 本発表の目的

近年、日本においても大学生の学習を促すための書籍・ガイドブックが数多く出版されている。それらの多くは、個別的な学習スキル（文献検索、レポート作成、プレゼンテーションなど）の習得を主たる目的としている¹。ここで対象とされるのは、本をあまり読まず、学習態度は受け身的で、ただし授業には比較的まじめに出席するような現代の平均的な大学生像ではないだろうか。たしかに、発表者の勤務する名古屋大学においてもこうした学生は少なくない。しかしながら、そもそも大学で学ぶことの意味・意義を説くことなしに、こうした個別の学習スキルを説明するだけで、大学生は果たして主体的に学習したり、大学コミュニティに参加したりするようになるのであろうか。

名古屋大学高等教育研究センターでは、新入生が主体的な学習者になるためのきっかけを提供することをめざして、『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』（以下、名大スタディティップス）を2006年3月に制作し、18年度の新入生全員に配布した。本発表では、同センターがどのようなねらいをもってこのスタディティップスを制作したのか、従来の学習ガイドと比較して、このスタディティップスがどのような新規性をもっているのか、制作上のねらいがどの程度達成されたのか、について検討する。あわせて、スタディティップスを制作するに至った動機や他大学の制作状況についても紹介する。

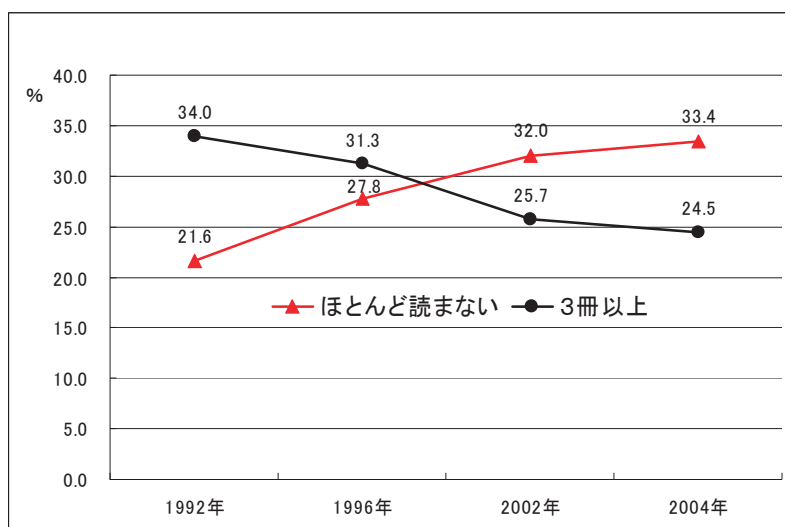
2. なぜスタディティップスなのか？－開発の背景と動機－

スタディティップス(study tips)とは、大学生の学習スキル向上・態度形成を目的とした学習ガイド・ノウハウ集の通称である。他にも、スタディガイドやスタディスキルズなど、さまざまな呼称がある。ティップス(tips)とはノウハウやコツのことである。本発表では、特に新入生の大学生活や学習への移行・適応(transition)を目的としたものに限定する。スタディティップスは、初年次教育やオリエンテーションの教科書として用いられる場合もあれば、自学自習用のハンドブックとして制作される場合もある。つまり、スタディティップスとは、大学生に必要な学習スキルを説明するガイドであると同時に、新入生を大学という新しいコミュニティに取り込んでいくための「ポータル」(入口)でもある。本発表で問題提起したいのは、この後者の目的を満たすためにはどのような要素が必要なのかということである。

¹AERA MOOK(2004)『勉強のやり方がわかる。』朝日新聞社など。このほか、有志の大学教員が制作したものは枚挙に暇がなく、内容的に優れたものも多い。たとえば最近では、藤田哲也編著(2006)『大学基礎講座 改増版』北大路書房など（執筆者の多くは京都光華大学の教員）。

これまで教員向けの教授法・授業デザインの研究を進めてきた名古屋大学高等教育研究センターが²、新入生用の学習支援教材を制作しようと考えた第一の理由は、大学生の学習状況が近年、大きく変化していることである。たとえば、名大生の授業出席率は近年になって上昇している。今や、90%以上の授業に出席しているという学生は、全体の3分の2(66.4%)に上る³。大学生の授業出席率が上昇しているのは名古屋大学に限らず、全国的な傾向であるという(武内清、2005)⁴。その一方で、読書量や課外活動への参加度は漸減傾向にある(図1)。読書量については、ほとんど本を読まない学生が全体の3分の1を占めるようになってきている。体育会系部活動の加入率は全学生の1割程度に過ぎず、文化系サークルを含めた全体でも加入率は3割を切っているという(小川豊昭ほか、2003)⁵。

図1 名大生の月間平均読書量の経年比較(学士課程のみ)



出典：注3と同じ。

つまり、現在の教員が大学生であった頃と比較すると、授業にはまじめに出るが、それ以外の学内活動にはかつてほど積極的でなく、本もあまり読まないというのが、今日の名大生の傾向として読み取れるのである。従来はたとえ授業には出なくとも、サークル活動・部活動や自主的な勉強会などにおける多種多様な人間関係がある種の人格形成機能を果たしてきたと思われるが、今日の大学ではそうした「教室外」の機能が弱体化しつつあることは否めない。とすれば他方で、正課の授業が従来のままでよいのか、という問題が生じられよう。

多くの大学教員が指摘しているように、学生は授業に出席しているからといって、必ずしも主体的・能動的に取り組んでいるとは限らない。むしろ、高校時代と同じく、いわば「習慣のように」授業に出ている学生も少なくないであろう。とすれば、大学側としては学生が授業に出席すること自体で満

² たとえば、池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生－授業デザインの秘訣集』玉川大学出版部、186頁。

³ 名古屋大学『学生生活状況調査報告書』第17回(1992年データ：1993年発行)～21回(2004年データ：2006年発行)のデータを集計。調査方法は5分の1無作為抽出法。2004年調査のサンプルは1244。

⁴ 武内清(2005)「学修と生活のバランス」IDE2005年9月号、13-17頁。

⁵ 小川豊昭ほか(2003)「名古屋大学における現代学生の対人関係について」『名古屋大学学生相談総合センター紀要』3号、71-83頁。ただし、学外での諸活動は含まれていない。

足すべきではなく、学生がいかに主体的・能動的に授業に参加するか、どのようにしたらそれが可能になるか、という点に注目しなければならない。こうした学生の変化に応じた、新しい形の学習支援がどのようなものかを検討する必要があると考えたのである。

第二の理由は、こうした大学生の変化に対して、大学側の学習支援は教員の個人的熱意に大きく依存しており、全学的見地からの組織的な学習支援体制が十分に整備されているとはいえないことである。新入生に対するオリエンテーションをみても、多くの大学では履修登録方法や施設の利用方法に関する事務的な説明で占められており、新入生の学習意欲を喚起するには十分とはいえない⁶。そこで、アカデミックな意味での学習オリエンテーション(方向づけ)をなんらかの形で実施する必要があり、その方法を検討する意義があると考えた。

第三の理由は、日本の初年次教育研究では、教材開発に関する研究はまだほとんど行われていないということである。現状は、諸外国における初年次教育の理念や実施に関する現状分析、あるいは日本の大学での実施状況に関する調査研究が中心となっている⁷。こうした研究において、日本でも初年次教育プログラムを導入する大学が急増しており、その内容は学部専門教育に接続するための基礎教育となっている事例が多いことが指摘されている⁸。いずれにしても初年次教育において、どのような教材を、どのように開発したらよいかについては、日本ではまだほとんど問題提起されていない。実際の教育プログラムは各大学が手探りで模索している状態にあるといつてよい。

第四の理由は、諸外国とくにアメリカでは、教育心理学者らによって大学生の知的発達に関する研究がさかんに行われてきており、発表者らは、日本ではまだほとんど知られていないこうした知見を日本の大学に適用できないかと考えた。アングロサクソン圏諸国(アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど)では、大学の初年次は高校生文化から大学生文化への移行期であり、その過程で新入生は依存的な学習者から自立的な学習者へと成長していくとする認識が一般的になっているようである⁹。

大学生の知的発達に関する理論枠組みについて、代表的なものを紹介しよう。大学生の学業継続についての研究者である Tinto は、社会人類学の「通過儀礼」(rites of passage)の概念を援用して、新入生が大学コミュニティに適応していく過程を「分離期」(separation)、「過渡期」(transition)、「統合期」(incorporation)という3つの段階で説明している。分離期とは高校まで育った地域、家族、友人との別離の時期であり、過渡期とは大学での新しい環境に戸惑い、一時的な混乱状態でもある。そして統合期とは大学での新しい環境や規範を受容していく時期とみなされる。彼によると、新入生が直面する課題は「学問的統合」(academic integration)のみならず、人間関係なども含めた「社会的統

⁶ 名古屋大学の場合、平成18年度の全学新入生オリエンテーションは4月7日に豊田講堂でおよそ1,000人ずつ2グループに分けて実施された。学務企画課が主管し、その大半は生活上の諸注意、履修登録の方法、図書館や学生相談の利用方法など、担当部局の説明で占められている。形態は大部分がレクチャースタイルで、1回がおよそ4時間にわたる。新入生の出席率は9割前後である。このほか、所属学部によるオリエンテーションが別に行われる。

⁷ 初年次教育に関する日本でのまとめた研究成果としては、山田礼子(2005)『一年次(導入)教育の日米比較』東信堂、250頁、平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書(2004)『ユニバーサル高等教育における導入教育と学習支援に関する研究』(研究代表者 濱名篤)などがある。

⁸ これと対照的にアメリカの場合は、新入生の多くが寮生活を体験することもあり、生活面での時間管理や人間関係が重視されている。

⁹ キャロル・マッチ(2005)「高校生から大学生への移行—諸文献、教員、成功した学生からのアドバイスの分析」名古屋大学高等教育研究センター編『初年次オリエンテーションを支援するスタディティップスの開発と活用に関する事業』平成16年度学生支援特別経費成果報告書、15-33頁。

合」(social integration)もまた重要な意味を持っている。両方をスムーズに行うためにも、過渡期において大学から新生に組織的な支援を行う必要があるというのが彼の主張である(Tinto, 1988, 1993)¹⁰。

同じくアメリカの Chickering は、大学生の発達する方向を示すものとして、「7つのベクトル」(the seven vectors)を提唱している。それらは、専門能力を高めること、感情をコントロールすること、個の自立性を高めつつ相互依存の重要性を認識すること、大人としての対人関係を構築すること、アイデンティティを確立すること、目的意識を養うこと、学習上のルールやマナーなどの「知的誠実性」(integrity)を養うこと、である(Chickering, 1993)¹¹。

長年にわたりハーバード大学の学生相談室長を務めた Perry は、大学生の認知面での発達を9つの位相によって説明している。これらは発達段階に対応して、二元性(duality)、多元性(multiplicity)、相対性(relativism)、参加(commitment)という4つのカテゴリーに整理されている。すなわち、学生の思考様式は白黒の二元論（「答は必ず一つ存在する」）から始まり、しだいに多元的な見方ができるようになり（「答は一つとは限らない」）、相対的な文脈の中に位置づけて判断ができるようになり（「この状況では〇〇のように解釈できる」）、やがては自分がその状況の中にどのように参加していくかを主体的に考えるようになるという(Perry, 1968)¹²。

これらの発達理論からは、①大学生の発達は学力だけの問題ではなく、対人関係などを含めた全人的な発達が重要であること、②何を学んだかという内容だけでなく、いかに主体的に学ぶかという態度形成が新生にとって大きな意味を持つこと、などの示唆を得ることができよう。これらはあらためて指摘されるまでもないほど自明のことであるが、日本における従来型の学習ガイドは個別の学習スキルを強調するあまり、これらの点を必ずしも十分には取り上げてこなかった。

上記をまとめると次のように表現できる。明らかな変化を見せつつある大学生の学習態度について、大学としての組織的な対応が必要である。その手始めとして、単なる学習スキルだけでなく、全人的な発達と主体的な学習態度の形成を意図した初年次教育の教材を作成したい、と考えたのである。

3. 日本の大学におけるスタディティップス—その特徴と傾向

ところが近年、日本の大学でも新しい動きが見られるようになった。2004年あたりから、日本の大学でも全学的なスタディティップスを制作するケースが増えているのである。こうした事例としては、発表者が確認できた限りでも信州大学、山形大学、愛媛大学、岡山大学、長崎大学などがある。これらは一様に、自分の大学がどういうところかを新生にわかりやすく紹介し、大学コミュニティに新生を誘うことを主たるねらいとしている。これらのスタディティップスの特徴を比較したのが表1（別紙）である。これらの共通点としては、①新生に自発的に読んでもらうことを意図した内容になっていること（A5サイズのハンドブックあるいはウェブ）、②大学が組織的に制作したものであり、

¹⁰ Vincent Tinto (1988), "Stages of Student Departure: Reflections on the Longitudinal Character of Student Leaving", *The Journal of Higher Education*, vol. 59, no.4, pp.438-455. Vincent Tinto (1993), *Leaving College: rethinking the Causes and Cures of Student Attrition*, The University of Chicago Press, second edition.

¹¹ Arthur W. Chickering, Linda Reisser (1993), *Education and Identity*, second edition, Jossey-Bass. この「7つのベクトル」は、濱名篤、中井俊樹らによって日本に紹介されている。

¹² William G. Perry, Jr. (1968), *Forms of Ethical and Intellectual Development in the College Years: A Scheme*, Jossey-Bass.

全学的な取り組みとして位置づけられること、③新入生にとって親しみやすい文章表現を心がけていること、などを指摘できる。活用方法については、冊子体を制作している大学は一様に新入生全員に配布しているが、授業の教材として組織的に活用している例はほとんどない（信州大学や山形大学で一部の教員が任意で利用している程度）。

内容についてはおよそ大きく二つのタイプに大別される。一つは、高校と大学の違いや大学の学習上の留意事項などについて、大学教員が新入生に語りかける形をとっているタイプである。大学で学ぶ上でのさまざまなスキルが紹介され、教員からのアドバイスがコラムやエッセイとして挿入されている。このタイプでは大学における学習活動が中心となり、生活全般についてはあまり触れていない。仮に、このタイプを「教員主導型」と名付ける。

もう一つのタイプは、教員サイドで企画・お膳立てはするが、先輩学生が中心となってワーキンググループを作り、先輩学生の学習・生活上のアイデアを集めていくという方式である。後輩へのサポートを企画立案していく行為が、先輩学生自身にとっての学習活動でもあるとする考え方である（いわゆる「ピア・サポート」）。この方式では、学習スキルについての説明が少ない代わりに、当該大学に関する情報がたくさん盛り込まれている。さらに、学習面だけでなく生活面にわたっての先輩学生からのアドバイスが多く掲載されているという特徴がある。文章表現も学生の話し言葉に近い言葉で語りかける形をとって、親しみやすい工夫をしている。このタイプを便宜的に「先輩助言型」と名付けよう。

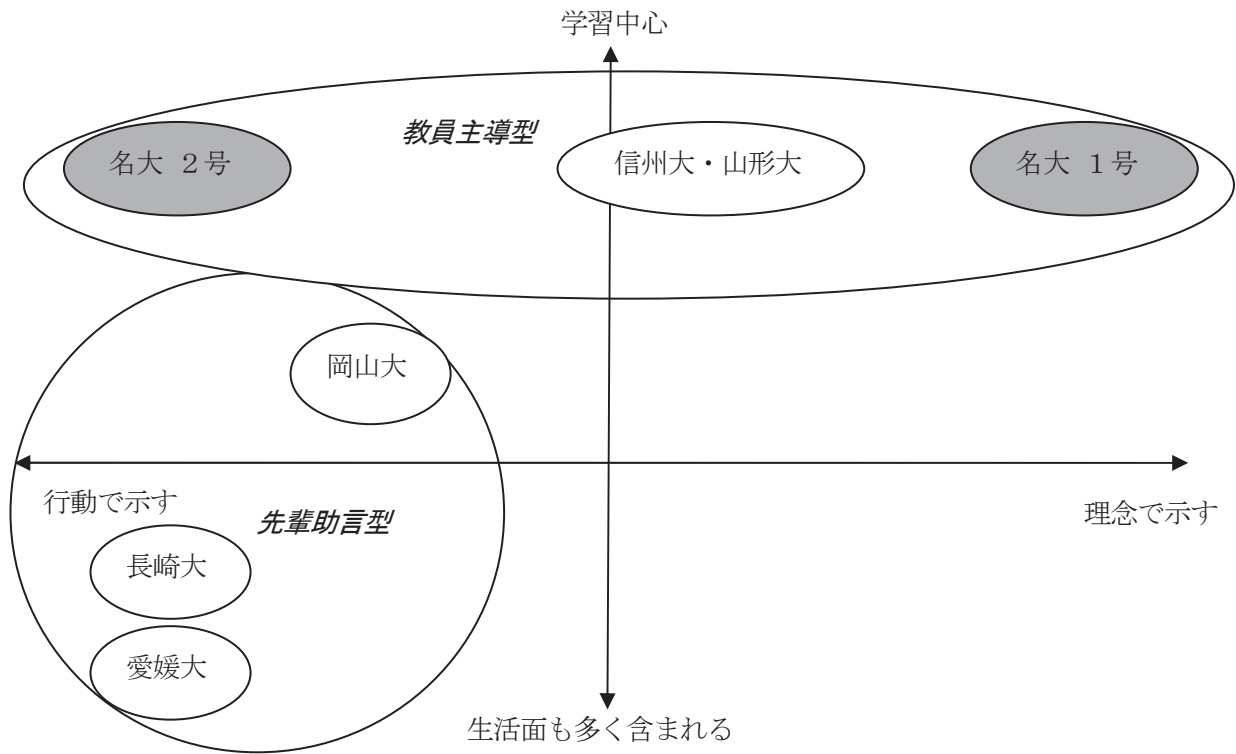
スタディティップスが扱う領域が学習面に限られるか、それとも生活面についても扱っているかを縦軸にとり、内容的に理念・認識を重視しているか、行動を重視しているかについて横軸にとると、図2のようにマッピングできる。教員主導型と先輩助言型で大きく二分されることがみてとれる。

教員主導型（信州大学、山形大学、名古屋大学）のスタディティップスでは、学習に関する内容が中心となっている。信州大学と山形大学のスタディティップスは、理念と行動指針の両方が含まれているが、いずれも「高校と大学の違い」「大学で学ぶことの意味」について冒頭に述べられている。生活面についてはほとんど扱っていない。名古屋大学では全く異なる性格のスタディティップスを2冊制作した。第1号（「学識ある市民」をめざして）では大学で学ぶことの意味・意義について詳述し、第2号（自発的に学ぼう）では学習上の具体的な行動指針として数多くのティップスを示した。

これに対し、先輩助言型のスタディティップスは、学習面だけでなく生活面のアドバイスも重視する傾向にある（愛媛大学、長崎大学）。岡山大学の事例は学生・教職員教育改善委員会という「大学公認の学生主体の正式委員会」¹³を立ち上げ、主に履修システムや学習支援サービスについてわかりやすく紹介している点に特徴がある。

¹³ 岡山大学(2006)『ラーニングチップス 新入生モモの奮闘記』岡山大学教育開発センター編、3頁。

図2 日本の大学で制作されたスタディタイプの類型化



図注：名大1号は『学識ある市民』をめざしての略、名大2号は「自発的に学ぼう」の略。

4. 名大スタディタイプの理念と開発

4.1 名古屋大学高等教育研究センターのミッションと研究開発

名古屋大学高等教育研究センターは1998（平成10）年4月に設立された学内共同教育研究施設であり、「国際的な視野のもとに、高等教育機関の戦略的課題の解決に貢献する」¹⁴ことをミッションとして定めている。これまで全国に先駆けて、教員向けの教授法や授業設計の方法論をまとめたティーチングティップス『成長するティップス先生』や、学生を授業に巻き込むための具体的ノウハウを集約した『ティップス先生からの7つの提案』¹⁵などを開発してきた。現在は、これらを活用した教員研修(FD)プログラムづくりを行っている¹⁶。

しかしながら、教授法についての研究を進めれば進めるほど、その要諦は学生の学習を促進することにあるということがわかってきた。事実、世界の主要な高等教育関連のセンターでは、大学教育の本質は、教えること(teaching)よりもむしろ、学生が「学ぶこと」(learning)をいかに促進するかであるという認識が一般的になっている¹⁷。教育・授業改善の最終的な目標は、学生の学習意欲や学習成

¹⁴ 名古屋大学高等教育研究センター紹介リーフレット2006・2007より。

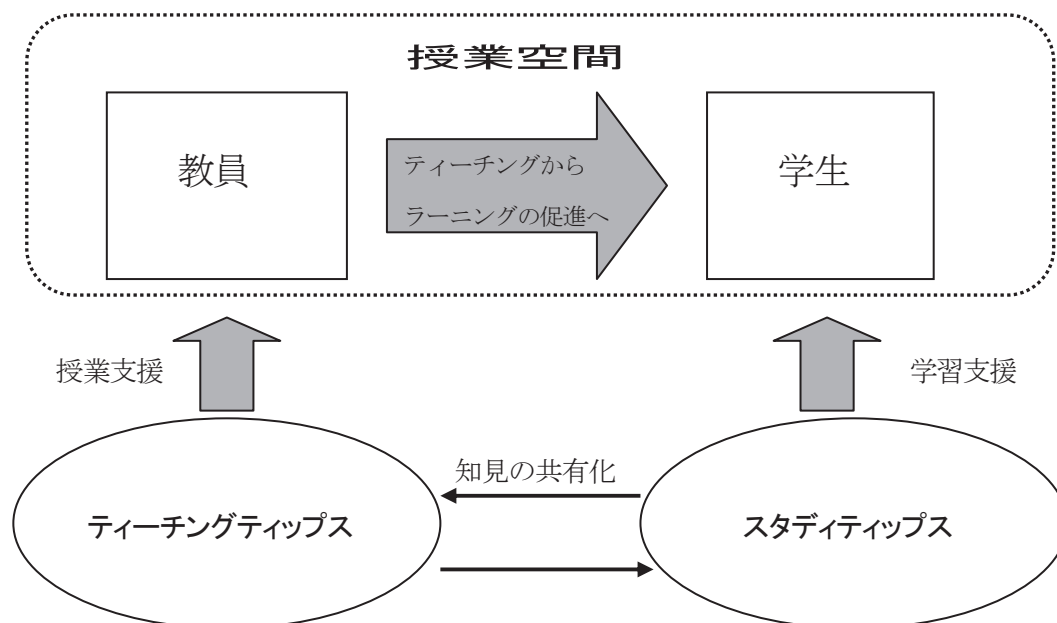
¹⁵ 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『ティップス先生からの7つの提案』プリンテック。教員編、学生編、大学編の3種類がある。

¹⁶ 同センターでは『名古屋大学教員のための教育研修プログラムのご案内』を2006年5月に作成した。

¹⁷ 国際的には、Teaching と Learning を併記する組織・プログラムが多く見られる。たとえば、メルボルン大学高等

果を高めることにある。ティーチングティップスを通して教員にいくら授業改善を訴えてみても、学生への効果は間接的になってしまう。そこで当センターでは長年のティーチングティップス開発で培ってきたノウハウをもとに、学習支援のための具体的な教材を開発し、ティーチングティップスとスタディティップスの両面から授業・学習活動をサポートする方針を打ち出した。これを図式化したのが図3である。

図3 名古屋大学高等教育研究センターにおける授業支援と学習支援の関係



4.2 基本コンセプト

スタディティップスを制作するにあたって留意したのは、「大学で学ぶことの意味」（とくに研究大学で学ぶことの意味）をどう伝えるかということであった。名古屋大学において本気で学ぼうと考えている学生（たとえ1割でも2割でもよいから）に対して、このスタディティップスによって彼らの学習意識をさらに高め、学内のリーダー的存在になってほしいという目標設定を行った。

そこで、国内外にわたる多数の学習ガイドを収集・分析した結果、基礎的な学習スキル（レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など）の紹介だけでは不十分であるということがわかった。そこでスタッフで検討を重ねた結果、次のような論点を整理した。これらの点を扱うことによって、新入生に名古屋大学で学ぶことに誇りを持たせることが重要であると考えた。

教育研究センターでは *Nine Principles Guiding Teaching and Learning in the University of Melbourne: the framework for a first-class teaching and learning environment*. (「メルボルン大学における教育・学習を導く9原則：最高の教育・学習環境づくりのための枠組」)を2002年に制作している。アメリカのカーネギー教育振興財団ではCASTLE(Carnegie Academy for the Scholarship of Teaching and Learning Program in Higher Education)プログラムを提供しており、現在ではIS-SOTLという国際学会(International Society for the Scholarship of Teaching and Learning)が発足している。

- ・ 大学は何のためにあるのか
- ・ 大学で学ぶことの意味は何か
- ・ 教養・学識とは何か
- ・ 大学で身につけるべき態度は何か
- ・ 大学で学ぶ上での倫理は何か

上記のような原理・理念論は従来型のスタディティップスではあまり取り上げてこなかった領域だと思われる（信州大学のケースは例外的であろう）。こうした理念は、ともすると個人的な教育論や信条に還元されてしまう可能性があり、全学的な立場からスタンダードを表現することは容易ではない。日本の大学のスタディティップスの中であまり取り上げられてこなかったのは、こうした難しさがあるかもしれない。

そこで、発表者らは戸田山和久センター長を中心として議論を重ね、「学識ある市民」という基本コンセプトを設定した。本ティップスでは、大学を「学ぶことそのものに価値を置く人々の集まり」¹⁸「人類の知的遺産を保存し、次の世代に伝えるだけでなく、そのリレーを大切に思い、それに新たに参加する人たちも生み出している」¹⁹ところであると定義し、そうした大学で学ぶことの意味は「学識ある市民」を目指すことであると表現している。では、ここで言う「学識」とはどのような能力のことを指すのか²⁰。本ティップスでは、次の4点を挙げている。

- ・ 豊かな知識
- ・ 知識と知識を関連づける能力
- ・ 時間的・空間的に巨大な座標軸
- ・ 科学的なものの考え方

さらに「学識ある市民」に求められる態度として、次の5点を掲げた。

- ・ 人類の知的遺産に対する畏敬の念を持つ
- ・ 知ること、学ぶことへの努力をあきらめない
- ・ 学び、知るための努力が同時に生きる喜びでもある
- ・ 学んだことを人々のために活かそうとする
- ・ 人類の知的遺産を次代に継承するリレー走者であろうとし、そのことを誇りに思っている

また、大学で学ぶ上で守らなければならない「キャンパスの倫理」について、「あなたが他者を自分と同じくらいに尊重して、あなたと他者を結び付けている知を大切にす。それらができて初めて、

¹⁸ 名古屋大学高等教育研究センター編(2006)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス①ー「学識ある市民」をめざして』2頁。

¹⁹ 同上書、11頁。

²⁰ 「学識」という言葉を高等教育研究の世界に普及させたのは次の文献である。E.L.ボイヤー（有本章訳）(1996)『大学教授職の使命』玉川大学出版部。原題は *Scholarship Reconsidered: Priorities of the Professoriate*(1990)である。この中で、有本は鍵概念である *Scholarship* を「学識」と訳出している。ボイヤーの言う「学識」とは「大学教授職であるということ」である。しかし、本来的には *Scholarship* という単語は大学教授職に限らず、学問そのものや学問に取り組む姿勢（奨学金を含む）を包括する概念である。

自由に考え、自由に行動し、自分の意見を自由に他者に伝えるという「大学の自由」を享受することができるのです²¹と基本理念について述べ、次の4点について具体的な事例を挙げて説明した。

- ・ 知への尊敬を払う
- ・ 他者の生命を尊重する
- ・ 他者の人格を尊重する
- ・ 他者の学習を尊重する

こうした「学識ある市民」をめざすことは学士課程全体の目標であり、初年次の学習だけでとうてい達成できるものではない。初年次段階では、このような概念がいかに重要であるかということに気づいてもらうことをねらいとしている。さまざまな研究成果から、初年次教育では新入生の学習意欲を高める上で、入学後最初の半年間がきわめて重要であると指摘されている²²、とすれば、その半年間に大学が新入生にどのようなメッセージを訴えるかが鍵であろう。つまり、「どういう大学生になってほしいか」という理念を大学は新入生に明確に伝える必要があると当センターでは考えた。

4.3 開発プロセス

名大スタディティップスは次のような開発プロセスをたどった。

- ① 国内外のスタディティップスの収集と分析
- ② 試作品の制作とモニタリング
- ③ 名大教員や先輩学生からのアドバイスを収集
- ④ 大学生の発達理論についての調査、知見の共有
- ⑤ 既存のスタディティップスから基本要素の抽出・整理
- ⑥ 基本コンセプトの確定とベンチマーク探し
- ⑦ 執筆、リライト、編集
- ⑧ 配布、広報、モニタリング

①最初に行ったのは、アメリカの大学で用いられている汎用性の高いスタディティップスを収集し、その構造と基本要素を精査することであった²³。その結果、個別の学習スキルを除くと知的思考法に関する内容は、およそ目標設定(career planning)、協同学習(collaborative learning)、時間管理(time management)、批判的思考(critical thinking)の4つの要素から成り立っていることがわかった。そしてアメリカのスタディティップスの主眼が、新入生を依存的な学習者から自立的・能動的な学習者にすることに置かれていることを把握できた。

②この4つの要素を参考にして日本の大学の文脈に合わせて試作品を作成し、これを新入生にモニ

²¹ 前掲書 18、18 頁。

²² たとえば、溝上慎一(2005)「大学新入生の学業生活への参入過程—学業意欲と授業意欲」『京都大学高等教育研究』第 10 号、67-87 頁。濱名篤(2004)「日本における初年次教育の課題—大学新入生調査結果より—」前掲科研報告書 7、65-83 頁など。

²³ 手始めに、アメリカにおける初年次教育のパイオニアであるガードナーらによるスタディティップスを参考にした。John N. Gardner & A. Jerome Jewler (2003), *Your College Experience : Strategies for Success*, Fifth Edition, Thomson Wadsworth.

ターしてもらった。その結果わかったことは、第一に、アメリカのスタディティップスのスタイルは内容的には良いが、まとまりごとの文章が長すぎて、読むのが苦痛だという意見が相次いだことである。これは、アメリカのスタディティップスの多くが新入生セミナーなどの授業教材として作られていることに大きく起因している。発表者らは制作したスタディティップスをできるだけ多くの新入生に自発的に読んでもらうことを念頭に置いていたので、ハンディで薄い小冊子にするのが良策であると判断した²⁴。また、内容面でも短いまとまりごとにメッセージを明確する方針を立てた。つまり、名実ともにティップス化するということである。

第二にわかったことは、一般的な学習ガイドでは当たり前すぎてインパクトに乏しいという指摘が多かったことである。学生からは、むしろ名古屋大学の教員や先輩学生からの肉声のアドバイスを聞きたいという要望が多かった。そこで、高等教育研究センターですべての内容を制作するのではなく、「全学の教員・学生の知見を共有する」という方針を定め、アンケートなどの方法でアドバイスを収集した(③)²⁵。第三は、スタディティップスの内容が何らかの理論的な根拠に基づくものでないと、学生に対して十分な説得力を持ち得ないということである。そこで、前述したような学生の発達理論について調べ、その知見を活用することとした(④)。また、国内の大学におけるスタディティップスについても検討した結果、扱う対象を学習面に限定することによって、生活面のサポートに力を入れている事例(たとえば愛媛大学のスタディティップス)と競合しない方針をとった。

⑤次に、既存のスタディティップスを構成している要素を再度抽出し、それらを KJ 法で分類した。これを参考にして、他大学との違いを出す上で、「研究大学にふさわしいスタディティップス」に必要な要素について議論を重ねた。こうした作業を進めていく過程で、次のような問題意識が生まれている(2005年11月8日のミーティング)。

- ・なぜ社会の中で大学が重要なのか
- ・なぜ大学では研究をするのか
- ・なぜ教養が必要なのか、なぜ学ぶ必要があるのか
- ・大学教員はどういう存在なのか

これらの問題提起は従来型の学習ガイドが扱う範疇を超えているが、研究大学のスタディティップスという特色を出すためにも必要であるという認識を共有した。これらが前述した基本コンセプトへと発展していった。

⑥基本コンセプトについては前述した通りである。直面した問題のうち最も困ったことは、研究大学の新生入生にとって必要な学習上の理念は何かという問題について、的確なベンチマーク対象を得られなかったことである²⁶。我々が掲げた「大学で学ぶことの意味」のような理念は、既存のスタディ

²⁴ ウェブ化についても検討したが、より多くの新入生に読ませるためには小冊子の方がよいと判断した。

²⁵ 教員や先輩学生からのアドバイスは、前掲報告書9に掲載した。

²⁶ 比較的参考になったのが次の文献である。Britt Andreatta (2005), *Navigating the Research University: A Guide for First-Year Students*, Thomson Wadsworth. 同書では研究大学は他大学と何が異なるのか、全人的な発達とはどういうことかについて、Tinto の学説に基づいて説明がなされている。このほか、アメリカの大学における初年次教育のパイオニアであるサウスカロライナ大学の初年次セミナー(University 101)のテキスト *Transitions: Tools for Success: Today and Tomorrow* (University of South Carolina) も、自分の大学に誇りを持たせるための工夫が随所になされている。サウスカロライナ大学では、Carolinian Creed という名の学生綱領を定めており、このテキストの中でも丁寧で紹介している。しかし、両書とも構成上は教科書として授業でじっくり読ませるように作られており、まとまって長い文章を読む習慣が十分についていない日本人学生に自発的に読ませるという目的においては、必ずしも十分な参考には

ティップスではほとんど扱われていないため、参考となるような事例をほとんど見つけることができず、スタッフ間で検討を重ねながら草案を練っていった。また、高い理念を掲げる一方で、できるだけ多様な背景・能力・志向の新入生に読んでもらえるよう、入学後から夏休みに入るまでの学習プロセスに沿った実践ノウハウを4つの章（授業から学ぶ、本から学ぶ、人から学ぶ、学習習慣をつける）にまとめて提供することとした。

⑦本文の執筆は、まとまった部分ごとにライターを決めて、草稿を持ち寄り、スタッフ全員で議論して書き直すという方法をとった。これを4～5往復繰り返し、最終的に発表者がリライトして文体を統一した。その過程で、教員によるコラム（15個）やチェックリストなどを作成・追加した。

⑨できあがったスタディティップスを新入生の学生生活オリエンテーションの場で全員に配布した（2006年4月7日）。さらに、その後まもない2006年4月下旬、新入生向け特定の授業（全学教養科目）において、スタディティップスの感想や改善意見について受講生にアンケート調査を実施した（後で詳述する）。学内の教員には当センターのニューズレター²⁷などを通して広報し、希望者には無料配布した。いくつかのマスメディアでも紹介された²⁸。ただし、初年次科目（基礎セミナーなど）での活用までには至っていない。

スタッフ全員でチームを組んで各人の役割を決め、先行研究の調査、ベンチマーク、基本コンセプト策定、執筆内容の全体討議、完成後のモニタリングという手順は、ティーチングティップス制作以来、当センターが行ってきた教材開発の方法に準拠している。

4.4 新規性と位置づけ

完成した名大スタディティップスを他大学のスタディティップスと比較すると、次のような新規性を指摘できる。①大学で本気で学びたいと考えている新入生をターゲットにして、学ぶことの意味・意義、学ぶ上での目標（「学識ある市民」になること）を示したこと、②大学で学ぶ上での倫理・マナーおよびルールについての大事さを訴えたこと、③主体的に学ぶための方法論を、すぐに実行可能なティップス（48個）として具体的に示したこと、④名古屋大学の教員・先輩学生の実践ノウハウをティップスに沿った形で整理・提供したこと、などである。

したがって、名大スタディティップスを既存のスタディティップスの中に位置づけると、図2からわかるとおり、教員主導型の事例の一つであると言えよう。学習中心か、それとも生活面が含まれているかどうかという点では、名大スタディティップスは明らかに学習面だけに限定している。また、教員中心か先輩学生によるアドバイスが中心かという点については、基本的には名大教員の視点から、大学とは何か、大学で学ぶことの意味は何か、どんな学習方法が適切かを説明するという方法をとっている。ただし、第1号と第2号では目的が異なっている。第1号では高い学習意識をもった学生をさらに知的刺激を与え、他の学生を導くような存在になってもらうことを期待しているのに対し、第2号では新入生全体の底上げをねらい、学びの具体的なノウハウを簡潔に示した。

ならなかった。

²⁷ 名古屋大学高等教育研究センター編『かわらばん』2006年春号、2006年5月。このほか、名古屋大学の全学ニューズレター『名大トピックス』や高校生向けの名大パンフレットでも紹介される予定である。

²⁸ 読売新聞（2006年4月6日）、中日新聞（2006年4月25日）。

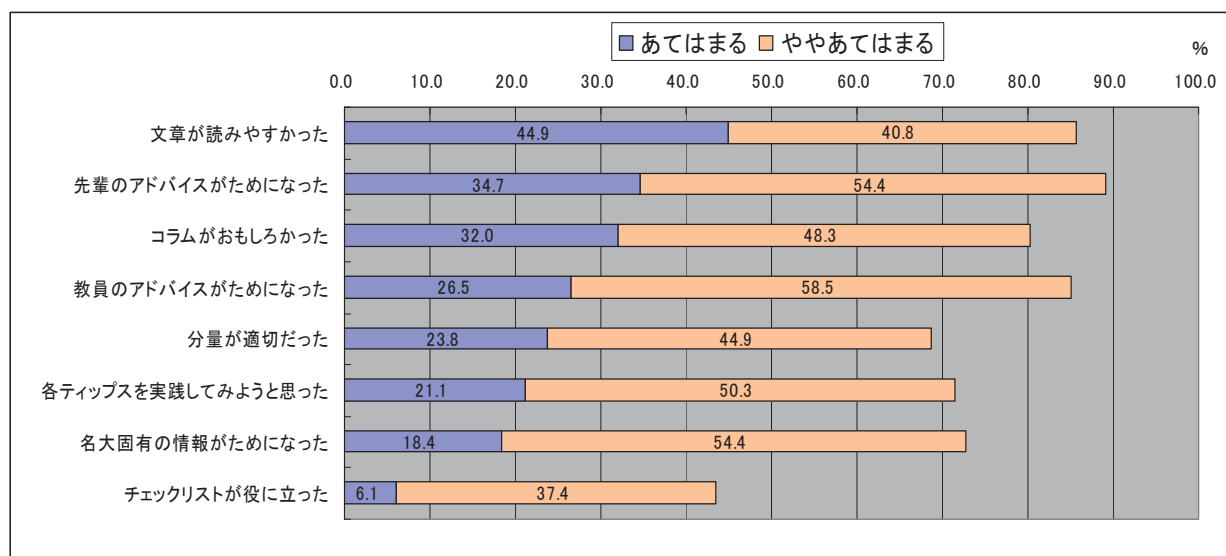
5. 名大スタディティップスに対する新入生の反応

2006年4月25日、名大スタディティップスについて新入生を対象にアンケートを実施した。高等教育研究センターと学生相談総合センターが共同担当している全学教養科目「大学でどう学ぶかー名大と名大生について知ろう」（1年生前期、全学部対象）において、スタディティップスを事前に読んでくることを義務づけた上で、当日の受講生を対象に選択式と記述式の両方で実施した。得られた結果は次年度以降の改訂に活用する予定である。データの信頼性を高めるため、「スタディティップスを読んだかどうか」の設問で、「読んでいない」および無回答の受講生データを削除した。

最終的なサンプル数は147人であり、新入生総数2,224人の6.6%にあたる。その内訳は工学部が79人(53.7%)と最も多い。平成18年度新入生に占める工学部生の割合は35.1%と3分の1を超えるが、サンプルはそれを上回っている。次いで、文学部(19人)、経済学部(18人)、情報文化学部(11人)、理学部(7人)、法学部(5人)、教育学部(4人)、医学部(2人)、農学部(2人)の順であった。

設問の内容は、①スタディティップスの編集形態、②内容、③理解度、④改善を希望する点、⑤続編で取り上げてほしいトピックス(本発表では取り上げない)、の5つに大別される。回答方法は、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の4択方式をとった。このうち、肯定的な回答(「あてはまる」と「ややあてはまる」の両方)について集計した。

図4 名大スタディティップスの編集形態についての新入生の感想

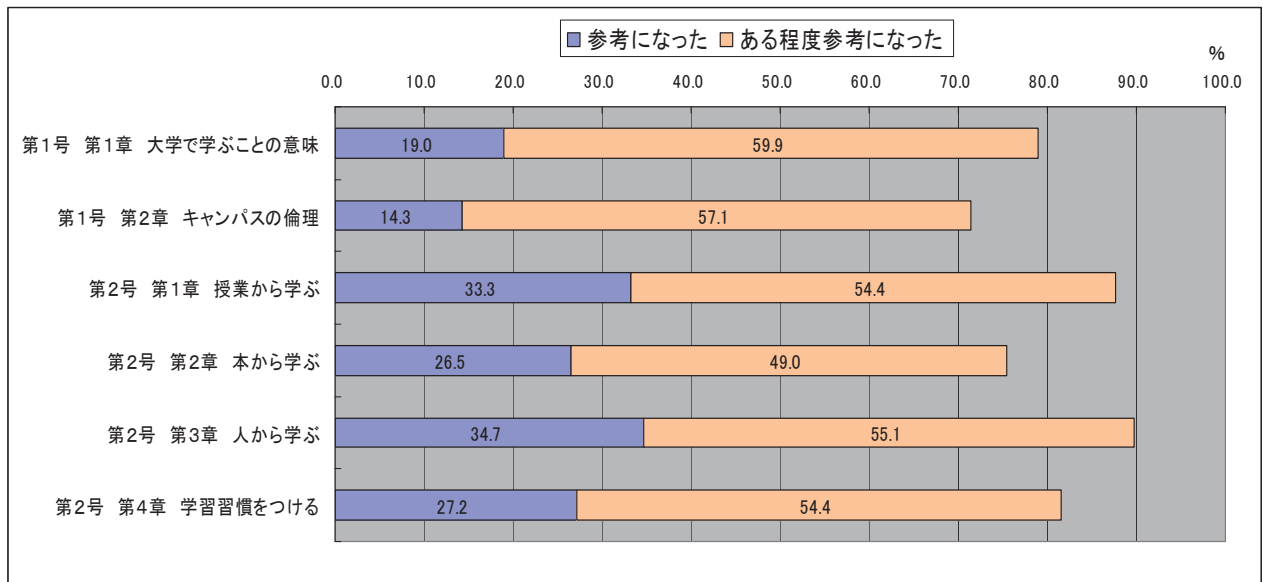


①スタディティップスの編集形態に関する感想では、編集上のさまざまな工夫について新入生がどのように受け止めたかについて尋ねた。具体的には、分量の適切さ、文章の読みやすさ、コラムのおもしろさ、各ティップスを読んで実践したいと思ったか、名古屋大学固有の情報がためになったか、先輩からのアドバイスがためになったか、教員からのアドバイスがためになったか、各章末のチェックリストが役に立ったか、の8項目である。

図4では、新入生による評価が高かった順に質問項目を並べてみた。ここから読み取れることは、本文やコラム、先輩・教員からのアドバイスなどは読み物としてはそれなりに読みやすく、おもしろいという意見が多かった。これらの項目の肯定的な意見は80%を超えている。ただし、それを実践し

てみたいと思うか、あるいはすぐに実践することには必ずしもつながっていない。実践してみようと思ったのは約7割、「チェックリストが役に立った」という回答を、実際にティップスを自分で試してみた人であると好意的に解釈した場合、4割少々にすぎない。つまり、おもしろいと感じた（8割強）>実践してみようと思った（約7割）>実践した（約4割）、という関係がみてとれる。

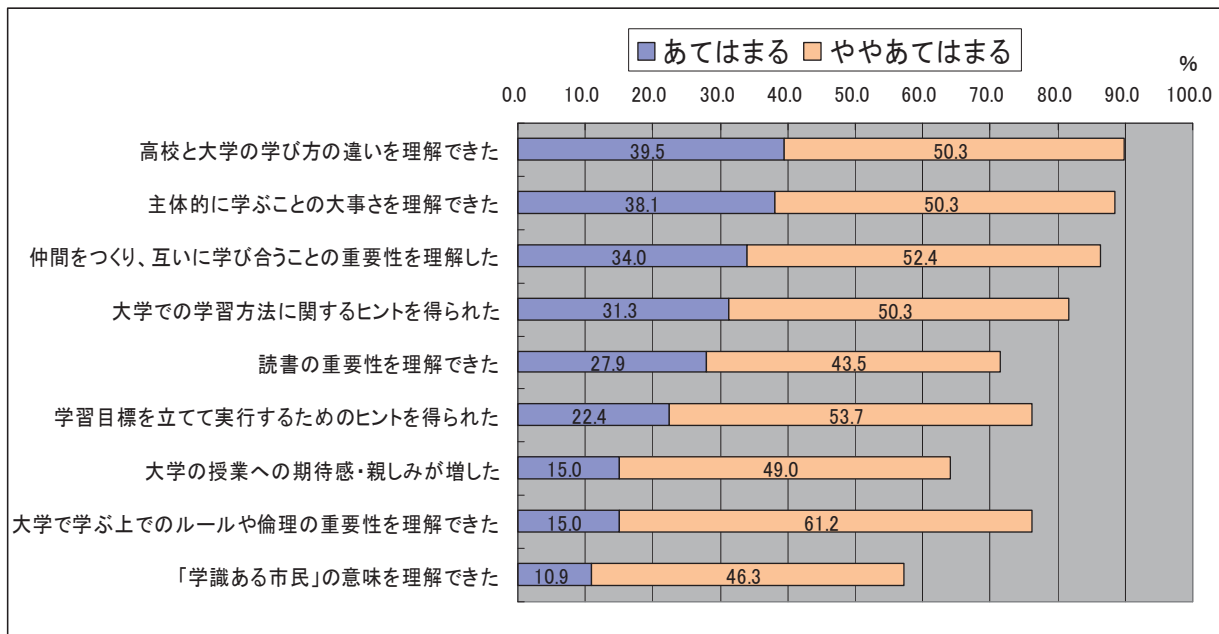
図5 名大スタディティップスの内容についての新入生の感想



②内容に関する感想では、第1号、第2号の章ごとに、参考になったかどうかを尋ねた（全6章）。図5はその結果を掲載順に配列したものである。章によって評価に差があることがわかる。図6からは、大学で学ぶことの意味や倫理を扱った第1号よりも、学びの実践ノウハウについて紹介した第2号の方が総じて高い評価を得ていることがわかる。特に、第1章「授業から学ぶ」と第3章「人から学ぶ」の肯定的回答は9割近い。肯定的回答が最も低かったのは、第2号第2章「キャンパスの倫理」である。この中で「あてはまる」とする積極的肯定の回答は約14%にすぎない（「ややあてはまる」を合計すると全体の70%を超えている）。

③理解度に関する感想では、スタディティップスの内容に即して、高校と大学の学び方の違いが理解できた、主体的に学ぶことの大事さを理解できた、仲間を作り互いに学び合うことの重要性を理解した、大学での学習方法に関するヒントを得られた、学習目標を立てて実行するためのヒントを得られた、読書の重要性を理解できた、大学で学ぶ上でのルールや倫理の重要性を理解できた、大学の授業への期待感・親しみが増した、「学識ある市民」の意味を理解できた、などについて尋ねた。図6はその結果を評価の高かった順に並べたものである。

図6 名大スタディティップスへの理解度についての新入生の感想



これによると、高校と大学の違いや、主体的に学ぶことの大事さ、仲間とともに学ぶ合う大事さ、大学での学習方法のヒントなどについては、一定の知見が得られたと新入生は受けとめているようだ。しかし、だからといって名大の授業に期待感や親しみが増したという回答はそれほど多くない。「学識ある市民」理念への理解については、積極的肯定（「あてはまる」）の割合は小さいが、「ややあてはまる」を含めると約 57%になる（「あまりあてはまらない」も 35.4%と多い）。同様に、大学で学ぶ上でのルールや倫理の重要性についての理解についても、積極的肯定意見（「あてはまる」）は 15%にとどまっているが、肯定的評価の合計は 76%に達する。全体的にみれば、すべての項目において肯定的評価が過半数を得られたことは、発表者らの期待以上であった。

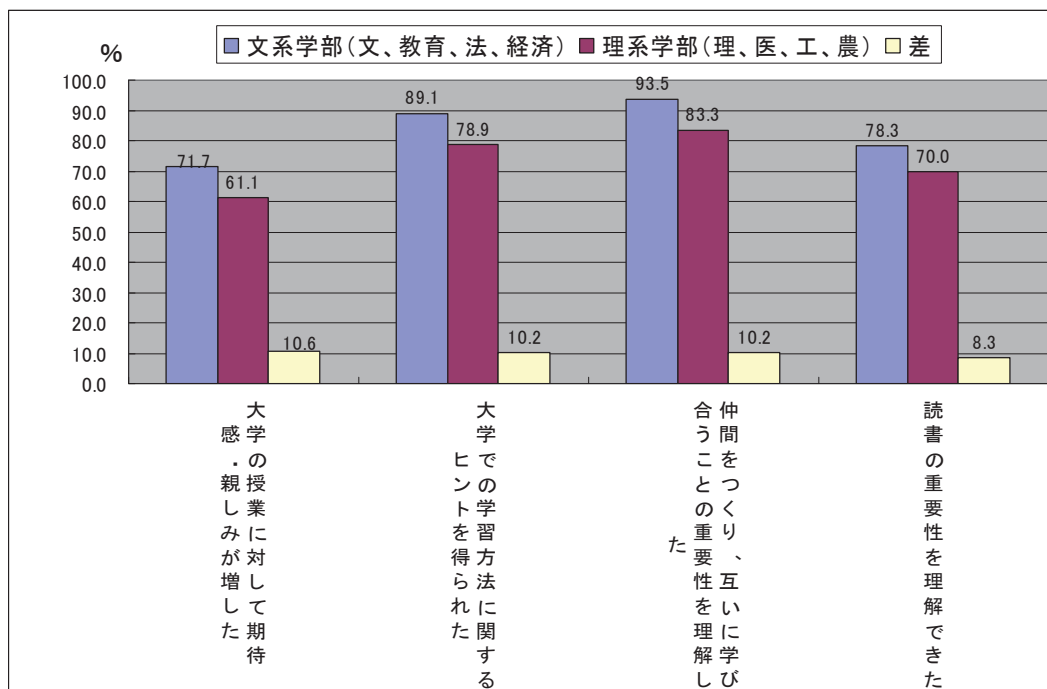
これまで編集形態、内容、理解度の3点について結果をまとめたが、調べてみると文系学部と理系学部で新入生の評価がかなり異なることがわかった。スタディティップスの理解度に関する9項目について肯定的評価（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）をした割合を調べてみると、すべての項目で文系学部の学生（46人）が理系学部の学生（90人）を上回った（文理両方にまたがる性格を持つ情報文化学部の学生11人を除く）。このうち、特に差の大きい項目を抽出すると、図7のようになった。

最も差が大きい項目は、「大学の授業に期待感・親しみが増した」であった(10.6%)。次いで、「大学での学習方法に関するヒントを得られた」、「仲間と互いに学び合うことの重要性を理解した」、「読書の重要性を理解できた」などが挙げられる。これらの項目が特定の知識やスキル獲得に関するものでなく、いわば他者や大学コミュニティへの共感や態度形成に関する項目であるので、教養志向の強い文系学生の方が、専門志向の強い理系学生²⁹よりも高い共感を示しやすいのかもしれない。全体的

²⁹ 文系学生と理系学生の学習志向性の違いは、前掲3の名古屋大学『学生生活状況調査報告書』21回（2004年データ：2006年発行）の結果からも明らかである。相対的にみて、文系学生は教養と豊かな人間関係を志向する傾向が強く、理系学生は専門分野の能力を高めたいとする志向性が強い（164-165頁）。

な傾向としては、理系学生は文系学生と比較して、このティップスへの理解度・共感度が低いということが指摘できよう、ということである。理系学生が全体の3分の2を占める名古屋大学にとって、この結果がもつ意味は小さくない。今後の課題として、理系学生の関心・共感を高めるための方策を検討する必要があるだろう。

図7 文系学部と理系学部による結果の差



④改善してほしい点については、自由記述で回答してもらった内容を列記し、次回の授業時にそれぞれの意見に賛同する受講者（サンプル以外の学生も含む）に挙手してもらう方法をとった。その結果、多くの受講者から賛同を集めた意見は次の通りであった。挙手は授業終了直前ということもあり、短時間で正確に数えられなかったため概数で示した。

- ・あいさつをしようとか、当たり前すぎる内容載せる必要はない 25～30人
- ・生活面に関する先輩学生の体験談を載せてほしい 25～30人
- ・履修に関する説明がもっとほしい 15～17人
- ・大学の先端研究について詳しい内容を紹介し、学生の意欲をあおってほしい 15～16人
- ・内容をもう少しスリム化してほしい 15人
- ・社会に出ることの意味、社会人になったときの厳しさを載せてほしい 12～13人
- ・「知の共同体」や「学識ある市民」を意識して学ぶ人は本当にいるのか？ 10人
- ・イラストが人間ではない生命体に見えるのを何とかしてほしい 10人
- ・第2号はおもしろかったが、第1号は難しい 5～6人

ここからは、いくつかの知見を読み取れる。第一は、このスタディティップスでは扱わなかった内

容に対する要望である。具体的には、生活面についての先輩学生の体験談や履修登録についての説明、社会に出ることの意味（広義のキャリア論といえるかもしれない）などである。本タイプの開発にあたっては、学習面に限定したアカデミックなものを意識的に制作しようとしたが、これは新入生からも一定の支持を得た一方で、扱う領域を広げてほしいという意見も多く出された。第二は、より高度なレベルをめざした内容にしてほしいという意見である。こうした意見としては、当たり前すぎる内容を書けないでほしい、先端研究について紹介してほしい、社会に出ることの厳しさを教えてほしい、などが挙げられている。このことは、学習意欲が一般的に高いと思われる新入生の4月中にアンケートを実施したことも影響していると思われる。現行のスタディタイプの理念やイラストについての否定的な意見もみられたが、150人を超える受講者の中で数人～10人程度にすぎなかった。

このように、新入生から得られたアンケート結果をまとめると、①全体的にみると新入生はこのスタディタイプに対して一定の肯定的評価をしている、②よかったと感じた内容を必ずしも実践しようとしているわけではない、③理念・倫理を説明した第1号よりも、具体的な学習ノウハウを説明した第2号の方が高い評価を得ている、④「学識ある市民」の意味や学びの倫理についての理解度は他項目よりも相対的に低い、⑤他者への共感や学びの態度形成に関しては、理系学生の評価は文系学生よりも低い、⑥スタディタイプで扱う領域を広げてほしいという声が多く寄せられた、⑦より高度な内容への改善を望む意見も多い、などを指摘することができよう。

6. むすび—明らかになったこと、残された課題

最後に、名大スタディタイプの開発・利用を通して得られた知見と残された課題についてまとめておきたい。

日本の大学においても、全学的な取り組みとしてスタディタイプを制作する事例がこの数年間で増えつつある。それらは新入生に自発的に読んでもらうことを意図しており、内容的にも新入生が読みやすいように心がけたものになっている。当該大学固有の情報も多く盛り込まれ、自分の大学に誇りを持たせるような工夫がなされている。これらのスタディタイプの内容・形態をみると、大学で学ぶ方法について教員が学生に語りかける「教員主導型」と、先輩学生が身近な視点から新入生にアドバイスをする「先輩助言型」の2つのグループに分けられることがわかった。

名古屋大学高等教育研究センターが開発した名大スタディタイプでは、「大学で学ぶことの意味」を新入生に考えてもらうことに主眼を置いた。当センターでは「学識ある市民」という基本コンセプトを設定し、大学で身につけるべき態度や倫理について新入生に知ってもらうことを主眼とした。つまり、アカデミックな理念を打ち出し、高い目標・理念を示し、内容を学習面に限定するという基本方針をとった。大学で本気で学ぼうと考えている学生の意識をさらに高め、彼らに他の学生の模範となってほしいとの思いを込めた。その一方では、できるだけ多くの学生に読んでもらえるように具体的な学習ノウハウをタイプ化し、名大教員や先輩学生のアドバイスを盛り込んだ。つまり、教員主導型か先輩助言型かという点については、名大スタディタイプは「教員主導型」として位置づけられる。ただし、第1号は学びの理念や倫理に特化しており、第2号では具体的な実践ノウハウが中心となっている点で、2冊は異なる目的・性格を持っている。

名大スタディタイプに対する新入生アンケートの結果からは、形態、内容、理解度のいずれに

においても、新入生から一定の肯定的な評価を得られた。特に、高校と大学の学び方の違い、主体的に学ぶことの大事さ、仲間とともに学び合うことの重要さ、などに関しては8割以上の回答者から肯定的な評価を得た。一方で、大学の授業に対する期待感や仲間と学び合うことの大事さなど、他者への共感や態度形成に関する項目では、理系学生の評価は文系学生ほど良くなかった。改善してほしい点については、現行版で取り上げなかったテーマを扱ってほしいという意見、もっと高い水準をめざしてほしいという意見が多くみられた。たしかに、これまでみてきた結果からは、第1号で扱った「大学で学ぶことの意味」について必ずしもすべての学生の理解を得られたわけではないが、それでも過半数の回答者から肯定的な評価を得ることができたことは望外であったと言える。

こうした知見をもとに、残された課題を整理すると次のようになる。

第一に、今回の調査で明らかになった課題に対する対策である。具体的には、大学で学ぶことの意味や倫理について理系学生の関心・意識をどう高めるか、彼らにスタディティップスを手にとって読んでもらうためにはどのような工夫が必要か、という点である。

第二は、このスタディティップスの効果測定である。今回の新入生アンケートは、入学後間もない4月下旬に実施したということもあり、理解度については尋ねたものの、態度変容についての測定はできなかった。新入生が大学生活を送る上でこのスタディティップスがどのように役立ち、指針となったのか、時間を追って追跡調査する必要がある。

第三に、継続的に改訂を行っていくための基本方針・原則が必要だということである。たとえば、学習面に限定した現行版の質をより高める方向に持っていくのか、それとも扱う領域を拡大するのか、などの点である。新入生の生活面、履修登録の方法、キャリア形成、論理的な思考法など、スタディティップスで扱う候補となりうるテーマはいくらでもあるだろうが、これらが無原則に取り入れてよいわけではない。一部の学生の意見をそのまま取り入れることは、必ずしも全体の最適化をもたらすとは限らない。一貫した方針を持たないと長期的な発展は望めないだろう。

第四に、こうしたスタディティップスをどのように活用するかということである。ただ新入生に配布するだけでは、学生はそれほど積極的に読まないし、大きな効果を期待できないだろう。他大学においても、初年次の授業で組織的に活用しているケースは、まだほとんど見られなかった。このことは、学部横断型の授業で統一的な教材を利用することについて、学内の合意を得ることがいかに難しいかを端的に示している。本冊子は学生が自発的に読むことを想定した「ティップス」として作られているので、教科書としてそのまま利用するにはそぐわないかもしれないが、初年次の授業と連携を図ったり、補助教材として活用することは十分に可能であると思われる。「配っておしまい」ではなく、「耳には痛いけど大事なことを言っている」と認めてもらい、大学の「名物」として学生・教職員に愛着を持ってもらえるような工夫が求められている。

参考文献

名古屋大学高等教育研究センター編『名古屋大学新入生のためのスタディティップス①ー「学識ある市民」をめざして』2006年3月。

名古屋大学高等教育研究センター編『名古屋大学新入生のためのスタディティップス②ー自発的に学ぼう』2006年3月。

長崎大学『初年次学生のためのラーニング・ティップス』長崎大学 大学教育機能開発センター、2006年4月 <http://www.rede.nagasaki-u.ac.jp/fye/public/tips/>

岡山大学『ラーニングチップス 新入生モモの奮闘記』岡山大学教育開発センター、2006年4月。

愛媛大学『愛媛大学サバイバルガイド2005』愛媛大学教育・学生支援機構、2005年4月。

地域ネットワーク FD “樹氷”『新入生の学習マニュアル なせば成る！』山形大学、2005年3月。

信州大学『信州大学新入生ハンドブック2006』信州大学新入生ゼミハンドブック作成WG、2006年4月。

信州大学『信州大学新入生ハンドブック』信州大学新入生ゼミハンドブック作成WG、2004年4月。

*この論文は第28回大学教育学会（2006年6月11日、於：東海大学）での自由研究発表における当日配布資料に一部加筆・修正したものである。

Ⅱ. 研究成果物

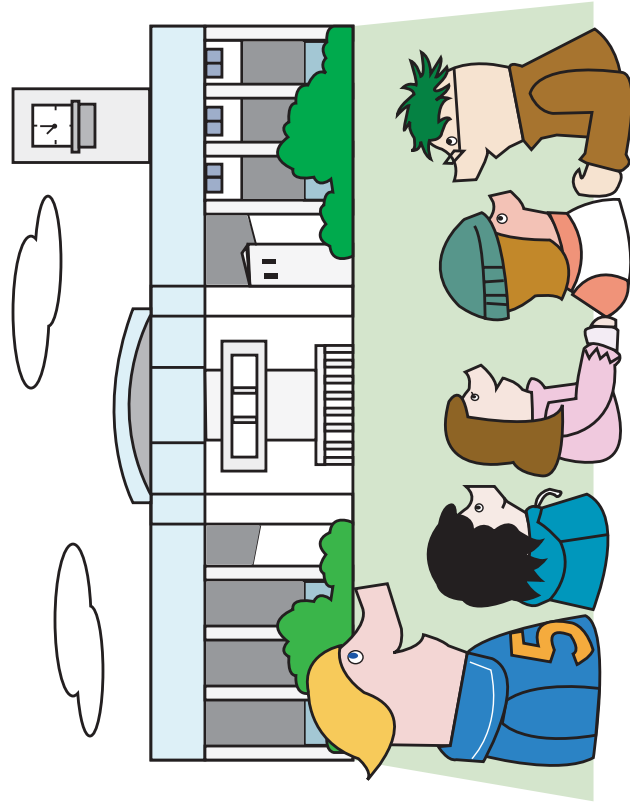
名古屋大学新入生のためのスタディティップス①「学識ある市民」をめざして（2007年版）

名古屋大学新入生のためのスタディティップス②「自発的に学ぼう」（2007年版）

名古屋大学新入生のための スタディティップス①

「学識ある市民」をめざして

2007



名古屋大学高等教育研究センター

名古屋大学新入生のための スタディティップス①

—「学識ある市民」をめざして—

2007

名古屋大学高等教育研究センター



新入生のあなたへ

名古屋大学へようこそ！

今、あなたはようやく、大学という「知の共同体」の入り口に立ったところです。大学には、数々の講義や演習を通じた学問との出会いがあります。最先端の研究と、それを担う人々との出会いがあります。ともに学ぶ仲間との出会いがあり、図書館に所蔵された膨大な文献や古典的な書物を通じた「死者」との出会いがあります。また、あなたとは異なる文化的背景を持つ人々との出会いもあります。こうした出会いは、あなたにとって一生の宝物になるはずのものです。

こうした「宝の山」から多くの貴重なものを手に入れるか、それともそのチャンスから背を向けて大学生活を無為に過ごしてしまうか。それはひとえに、あなたが4年間の学生生活の間に「主体的な学習者」に脱皮できるかどうかにかかっています。1人でも多くの学生に主体的な学習者になってもらいたいという思いを込めて、私たちは『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』をつくりました。

『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』は一連の小冊子からなるシリーズです。「ティップス (tips)」とは、「秘訣・ヒント・こつ」などを意味します。「主体的な学習者」になることがなぜあなたにとって価値があり意味あることなのか。どうしたら学習姿勢を主体的なものに切り替えることができるのか。そのために役立つさまざまな秘訣について、これから小冊子を次々と提供していきたいと考えています。

まずはこの冊子を通読してください。そして、書かれていることがらを実践しようと努力してみてください。そして、大学での学習や生活について行き詰まりを感じたり、悩みが生じたときには、もう一度読み返してください。おそらく、あなたの悩みや迷いを解決するヒントが見つかるはずです。それでは、Good Luck !

名古屋大学 高等教育研究センター長
戸田山 和久

●●● おわりに ●●●

『名古屋大学新入生のためのスタディーツips①ー「学識ある市民」をめざしてー』はこれでおしまいです。この冊子を通してあなたに伝えたいことをまとめると、次のようになります。

- ・大学とは、学ぶことそのものに価値を置く人々の集まりである。
- ・大学は人類の知的遺産を保存し、それを次の世代に伝えるだけでなく、そのリレーに新たに参加する人を生み出している。
- ・これから大学で学ぶあなたには、ぜひ「学識ある市民」になってもらいたい。

— 37 —

- ・「学識」とは、豊かな知識、知識と知識を関連づける能力、時間的・空間的に大きな座標系、科学的・合理的な考え方を持っていることである。
- ・「学識ある市民」とは、人類の知的遺産に対する畏敬の念を持ち、知ること・学ぶことへの努力をあきらめず、学ぶことが生きる喜びでもあり、学んだことを人々のために活かそうとし、人類の知的遺産を時代に継承するリレー走者でありたいと願っている人のことである。
- ・アルバイトやサークル活動も大事だが、そればかりに没頭してはもったいない。ぜひ名古屋大学で学習中心の生活を送ってほしい。そのために大学の資源（人、情報など）を最大限に活用してほしい。
- ・大学生として、他者の知的努力にタダ乗りするような行為をしない。他人のそういう行為を許さない。
- ・大学で学ぶ上で、他者の生命・人格・学習を尊重する。

22

いかがでしょうか。大学がどのようなところか、大学で学ぶということは、どうしたことなのか、あなたなりに感じ取って、これからの大学生生活に活用してもらえれば幸いです。大学での学習活動に実際にどのように取り組んだらよいかについては、続編である『名古屋大学新入生のためのスタディーツips②ー自発的に学ぼうー』をご覧ください。

それでは、名古屋大学での学習生活を大いに満喫してください。

●●● あなたの意見をお待ちしています ●●●

名古屋大学高等教育研究センターでは、みなさんからの意見をもとに、このスタディーツipsを改訂していきたいと考えています。続編も企画しています。気がついた点、改善点など、何でも結構ですので、ご意見をお聞かせ下さい。

ご意見は下記のメールアドレスまで。

info@cshe.nagoya-u.ac.jp

スタディーツips係

23

●この冊子を制作する際に参考にした文献・サイト●

名古屋大学高等教育研究センター編『ティップス先生からの7つの提案』(学生編、教員編、大学編)、2005年。

『IDE 現代の高等教育』No.473 現代の学生と生活、2005年9月号。

『学士課程における初年次教育マネジメントの有効性に関する調査研究』(平成13~14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書) 研究代表者 池田輝政、2003年。

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹『成長するティップス先生一授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部、2001年。

横尾壮英『大学の誕生と変貌一ヨーロッパ大学史断章』東信堂、1999年。

E.L.ポイヤー(有本章訳)『大学教授職の使命一スカラシップ再考』玉川大学出版部、1996年。

Britt Andreatta, *Navigating The Research University: A Guide For First-Year Students*, Wadsworth, 2005.

Ernest T. Pascarella & Patrick T. Terenzini, *How College Affects Students volume 2 : A Third Decade of Research*, Jossey-Bass, 2005.

John N. Gardner & A. Jerome Jewler, *Your College Experience: Strategies for Success*, Wadsworth, 2003.

The University of Melbourne, *Nine Principles Guiding Teaching and Learning in the University of Melbourne: The Framework for a first-class teaching and learning environment*, 2002.

Nancy J. Evans, Deanna S. Forney & Florence Guido-DiBrito, *Student Development in College: Theory, Research, and Practice*, Jossey-Bass, 1998.

名古屋大学 学生相談総合センター 名大ピア・サポート
<http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/gakuso/peer.html>

名古屋大学 留学生センター 学生パートナーシッププログラム
<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/partnership.html>

名古屋大学セクシュアル・ハラスメント相談所
<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/index.html>

The Honor Code (スタンフォード大学オナーコード)
<http://www.stanford.edu/dept/vpsa/judicialaffairs/judicialbroc ess/pdf/sjc1997-Japanese.pdf>



開発スタッフ

名古屋大学 高等教育研究センター

戸田山 和久

夏目 達也

近田 政博 (プロジェクトチーム)

中井 俊樹

鳥居 朋子

齋藤 芳子

イラスト

スコーレ株式会社

名古屋大学新入生のためのスタディティップス ①

— 「学識ある市民」をめざして—

2007年3月10日 第2版

著者 名古屋大学 高等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-5696

info@csh.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社ダイテック デジタル印刷事業部

〒461-8620 名古屋市東区主税町四丁目85番地

TEL 052-932-5768 FAX 052-932-9666

odp@manah.net

© 名古屋大学高等教育研究センター

2007. Printed in Japan

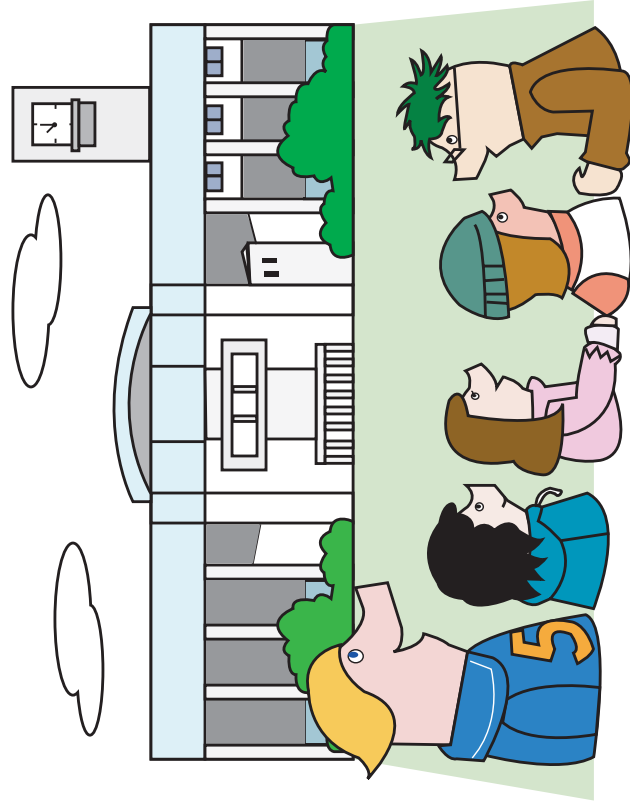
ISBN978-4-901730-95-2



名古屋大学新入生のための スタディティップス②

自発的に学ぼう

2007



名古屋大学高等教育研究センター

名古屋大学新入生のための スタディティップス②

—自発的に学ぼう—

2007

名古屋大学高等教育研究センター

新入生のあなたへ



名古屋大学へようこそ！

今、あなたはようやく、大学という「知の共同体」の入り口に立ったところです。大学には、数々の講義や演習を通じた学問との出会いがあります。最先端の研究と、それを担う人々との出会いがあります。ともに学ぶ仲間との出会いがあり、図書館に所蔵された膨大な文献や古典的な書物を通じた「死者」との出会いがあります。また、あなたとは異なる文化的背景を持つ人々との出会いもあります。こうした出会いは、あなたにとって一生の宝物になるはずのものです。

こうした「宝の山」から多くの貴重なものを手に入れるか、それともそのチャンスから背を向けて大学生生活を無為に過ごしてしまうか。それはひとえに、あなたが4年間の学生生活の間に「主体的な学習者」に脱皮できるかどうかにかかっています。1人でも多くの学生に主体的な学習者になってもらいたいという思いを込めて、私たちは『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』をつくりました。

『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』は一連の小冊子からなるシリーズです。「ティップス (tips)」とは、「秘訣・ヒント・コツ」などを意味します。「主体的な学習者」になることがなぜあなたにとって価値があり意味あることなのか。どうしたら学習姿勢を主体的なものに切り替えることができるのか。そのために役立つさまざまな秘訣について、これから小冊子を次々と提供していきたいと考えています。

まずはこの冊子を通読してください。そして、書かれていることがらを実践しようと努力してみてください。そして、大学での学習や生活について行き詰まりを感じたり、悩みが生じたときには、もう一度読み返してください。おそらく、あなたの悩みや迷いを解決するヒントが見つかるはずです。それでは、Good Luck!

名古屋大学 高等教育研究センター長
戸田山 和久

●●● 本書の構成 ●●●

- ・『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』シリーズは、名古屋大学の新入生が大学で学ぶことの意味を理解し、大学での学習活動を充実させるようにするためのアイデアや実践方法をまとめたものです。もちろん、新入生以外の学生にとっても役に立つ内容になっています。
- ・シリーズ2冊目である本冊子『自発的に学ぼう』では、名古屋大学の新入生が自発的な学習をできるようにするための方法論をわかりやすく示しました。本冊子は、1. 授業から学ぶ、2. 本から学ぶ、3. 人から学ぶ、4. 学習習慣をつける、という構成になっています。全部で48の実践ガイドを示しました。2007年版では、理系基礎科目部会の教員のご協力により、実験系の授業に関するガイドをいくつか追加しました。
- ・また本冊子では、名古屋大学の教員と先輩学生の温かいご協力により「先輩からのアドバイス」と「教員からのアドバイス」を数多く集録することができました。ぜひ目を通してみてください。
- 「先輩からのアドバイス」
平成17年度の全学教養科目「大学でどう学ぶか」一名大と名大生について知ろう」(2年生後期)において、「先輩に贈る名古屋大学での勉強法」を作成しました。この中から実践的かつ具体的なアドバイスを抽出しました。
- 「教員からのアドバイス」
高等教育研究センターでは2005年1月に、全学教育を担当する教員を対象に「名大新入生への学びのアドバイス」アンケートを実施しました。17部局の76名の教員からコメントをいただきました。
- ・本冊子には、随所に名古屋大学の教員が作成したコラムが入っています。

大学での学習に役立つ知識を学ぶことができます。

- ・要点をまとめたチェックリストを各章末につけました。ガイドを実践する際に、あるいは読んだ内容を確認する際に活用してください。
- ・最後に
本冊子に書かれているガイドを実践してみて、うまくいったか、あるいは、なぜうまくいかなかったのか、振り返ってみてください。そして、あなたの経験をふまえて、本書をもっと改善するための意見がありましたら、ぜひ高等教育研究センターまでお寄せください。歓迎します（巻末にメールアドレスを載せました）。

●●● 目次 ●●●

1. 授業から学び

1.1 大学の授業に期待しよう	1
ティップス 1 : 大学は「知の共同体」であることを知ろう	
ティップス 2 : つまらないからといって価値のない授業だと決めつけない	
1.2 学習意欲を高めるような時間割をつくろう	5
ティップス 3 : 進学する学部の教育目標やカリキュラムについて知ろう	
ティップス 4 : 全学教育科目を学ぶことには大きな意味がある	
ティップス 5 : 学習意欲を高めるような時間割をつくろう	
ティップス 6 : 時間割には「すぎ間」をつくろう	
ティップス 7 : 単位を揃えることは手段にすぎない	

1.3 まずは授業に出よう	11
ティップス 8 : 90分授業に慣れよう	
ティップス 9 : 授業ごとに異なるルールを確認しよう	
ティップス 10 : 教科書を買おう	
1.4 思考の整理に役立つノートをとろう	15
ティップス 11 : どの授業でもノートを用意しよう	
ティップス 12 : まずは正確に書き留めよう	
ティップス 13 : ノートに自分のコメントを添えておこう	

ティップス 14 : 復習するための手がかりを記しておこう	
ティップス 15 : 人のノートを借りるのは知的な自殺行為だ	
1.5 授業時間外の学習を大事にしよう	20
ティップス 16 : 予習・復習を大事にしよう	
ティップス 17 : 自分なりの課題を探そう	
ティップス 18 : 上達するには練習問題をこなそう	
1.6 自分の理解度をチェックしよう	24
ティップス 19 : 学習の記録を残しておこう	
ティップス 20 : 自分の学習を振り返ろう	
ティップス 21 : 振り返ってもわからないときは、すぐに人に聞こう	
チェックリスト	28

2. 本から学び

2.1 本との出会いを大切にしよう	29
ティップス 22 : 自分でお金を出して本を買おう	
ティップス 23 : 買えないのなら図書館に行こう	
ティップス 24 : 人がすすめる本を読もう	
ティップス 25 : 古典・新書を読んでもみよう	
2.2 読書人になろう	35
ティップス 26 : カバンの中にも本を入れておこう	
ティップス 27 : 読書する時間帯・場所をつくろう	

チェックリスト 54

4. 学習習慣をつける

4.1 学習中心の生活をしよう 55

- ティップス 43 : 学習のための時間を確保しよう
- ティップス 44 : ちゃんと授業に出よう
- ティップス 45 : 毎日一度は机に向かおう

4.2 学習の目標を立ててみよう 60

- ティップス 46 : 大きな目標を小さく分解しよう
- ティップス 47 : 計画はすみやかに実行しよう
- ティップス 48 : 達成度を自己評価してみよう

チェックリスト 64

ティップス 28 : 読書ノートをつけてみよう
ティップス 29 : 読んだ本について仲間と話し合おう
ティップス 30 : 読書のマナーを知ろう
チェックリスト 39

3. 人から学び

3.1 人と出会うことの意味を知ろう 40

- ティップス 31 : あいさつをしよう
- ティップス 32 : 仲間と議論をしよう
- ティップス 33 : 人と話が合わない経験をすることも大事だ
- ティップス 34 : 人と出会うチャンスを積極的に活用しよう

3.2 教員との距離を縮めよう 45

- ティップス 35 : 教員に関する情報を集めてみよう
- ティップス 36 : 質問を恐れるな
- ティップス 37 : 教員の研究室を訪問してみよう
- ティップス 38 : TAと顔なじみになろう

3.3 仲間とともに学ぶ大切さを知ろう 49

- ティップス 39 : 新しい仲間を作ろう
- ティップス 40 : 授業でのグループワークに積極的に参加しよう
- ティップス 41 : 学んだ内容を仲間と共有しよう
- ティップス 42 : 自主的な勉強会をつくろう

●●● コラム目次 ●●●

1. 授業から学ぶ



1.1 大学の授業に期待しよう

コラム1	人名にちなんだ建物あれこれ	4
コラム2	教養の定義いろいろ	7
コラム3	単位ってなに?	10
コラム4	大学時代に本を100冊以上読もう	32
コラム5	著作権について	37
コラム6	話せばわかる	41
コラム7	時間を守ることが信頼につながる	44
コラム8	フリーライダーにならない	51
コラム9	グズグズしてしまうワケ	56
コラム10	夏休みの学習計画を立てよう	61

ようこそ名古屋大学へ。名大はさまざまな分野で第一級の教授陣を数多く擁している世界レベルの研究大学です。あなたは、これらの教授陣を水先案内人として、学問・科学技術の世界に足を踏み入れようとしています。また、名大は膨大な蔵書・学術雑誌・データベース・実験設備を完備しています。これらをぜひあなたの学習に活用して下さい。

本冊子の姉妹編『名古屋大学新入生のためのスタディティップス①ー「学識ある市民」をめざして』で紹介したように、大学は人類の知的遺産を保存・継承すると同時に、「新しい知」を発見・生み出す空間でもあります。そうした新しい知が創造される過程やその現場に立ち会う感動を、授業を通して教員から垣間見ることができます。大学の授業は最高水準の知を継承し、そして生まれたばかりの新しい知に触れるところです。これって、すごいことだと思いますか。これからどうやって大学での学習を充実させていったらよいか、これから具体的なアイデアを紹介していきます。

ティップス1：大学は「知の共同体」であることを知ろう

大学の授業は高校までの授業と異なる点があります。第一に、高校までの授業は、学習指導要領に沿って教える内容がおよそ決められています。大学の授業では、何をどのように教えるのかは、教授陣がすべて自由に決めることができます。いかなる政治的・宗教的・経済的な理由をもってしても、大学の教育・研究活動に圧力をかけることはできません。これを「学問の自由」(アカデミック・フリーダム)といいます。

第二に、大学では学生も教員(学者)も、ともに「学ぶ」存在です。大学の授業のスタンスは、「学問のおもしろさとともに分かち合おう」「ともに学ぼう」というものです。大学は学びたいという気持ちを共有する空間、いわゆる「知の共同体」なのです。教員はあなたに対して、何かを強制すること

はありません。あなたが学ぼうとする内容の先達であり、あなたの学習をサポートしてくれる存在です。

第三に、大学で学ぶ内容は、正解が一つとは限りません。正解はいくつも存在するかもしれないし、ひょっとしたら存在しないかもしれない。大学の学習はコンパス（教員、授業、教科書など）を片手に道なき道を自分で手探りしながら進むようなものなのです。それが大学での学習・研究の醍醐味でもあります。

まずは大学の授業に期待してください。高校までの授業と大きく異なるので、最初は戸惑うかもしれませんが、学ぶことの楽しさをだんだん感じるようになります。



**ティップス2：つまらないからといって
価値のない授業だと決めつけない**

大学の授業の価値は一つの尺度では測れません。今はその授業の価値が理解できなくても、あとになってから実感するということも十分にあります。若いときには理解できなくても、歳月を重ねてから気づくことはたくさんあります。教養科目は、ともすると若いあなたには抽象的で役に立たない話だと感じられるかもしれませんが、一方、基礎科目は習得すべき知識が非常に多く、苦痛を感じる人がいるかもしれません。

しかし、つまらないからといって、内容がわからないからといって、価値のない授業だとレッテルを貼らないようにしてください。つまらないと感じ

るのは、ひょっとしたら、あなたにまだその授業を受け止められるだけの力が備わっていないからかもしれません。その授業で学んだ基礎概念のうちのちやほやになるかもしれないし、そういうことは実際によくあります。「今はわからなくても、いずれわかるようになる」という気持ちを持って、しばらく辛抱して取り組んでみてください。実験や実習においては、まずは基本的に忠実にこなしてみましょ。答えを出すことよりも、そこに至るまでのプロセスを味わうことがより大切なのです。

【先輩からのアドバイス】

・自分から行動をおこせ！ 大学は良くも悪くも自由。高校までは方針を与えられ、その道筋に沿ってこなせばよかったのに対し、大学では黙っていても周囲の人が自分を助けてくれるようなことはめったにないので、自分から何か行動をおこさないと、周囲からどんどん引き離される。(I)

・大学での講義に出ているだけでは、授業の速度や内容の難しさから十分に理解できないことが多い。自分から学ぶ姿勢ができていないと、ただ単位を取るためだけの勉強になってしまう。(II)

【教員からのアドバイス】

・まずは高校までの一律の勉強から解放されたことを大いに喜んでください。そして、よ～し、好きなことを思いっきりやるぞ、という気持ちを持つるといいですね。

・目標は、最初からあるものではなく、自分でこれから見つけていくものです。何を学びたいのか、将来何をやりたいのかを見つめるために大学に入ってきたのですから、毎日積極的に授業に出てください。

・大学の勉強は、知識だけを身につけるのではなく、学問を理解することがメインであることを自覚する。試験をパスするだけの単なる知識の詰め込みだけでは、研究を進めることはできない。学問を理解するためには、根本にある原理を十分理解することから始まり、周辺のすべての学問が必要となる。

・せっかく名大に入ったのだから、入れなかった人の分までしっかりと勉強してほしい。私は以前、ある地方大学に勤めていたが、名大はとても恵まれている。



◎コラム1 人名にちなんだ建物あれこれ

名古屋大学には人名にちなんだ建物がいくつもあります。

「豊講」の名で親しまれ、名古屋大学のランドマークとなっている豊田講堂は、トヨタ自動車工業株式会社（当時の勝沼精蔵総長が石田退三社長に1億円の寄付を依頼したところ、「せっかく寄付するのだから、恥ずかしくないものを」と、2億円の寄付を快諾してくれたという逸話が残っています。設計は当時ワシントン大学准教授の横文彦氏。竣工した豊田講堂はモダニズム建築の傑作として1962年の日本建築学会賞を受賞しています。

ところで豊田講堂という名称は、実はトヨタ自動車ではなく、その始祖ともいえる日本の発明王、豊田佐吉翁（1867-1930）にちなんでつけられました。それが「トヨタ講堂」ではなく、「豊田（トヨタ）講堂」であるゆえんです。ちなみに、現在の名古屋大学全学同窓会長である豊田章一郎氏は、佐吉翁の直系のお孫さんにあたります。なお、豊田講堂は平成20年3月の卒業式に合わせ全面改修中です。

現在の博物館がある古川記念館は、地元の実業家である古川為三郎氏・志ま夫妻の寄付によって1964年に図書館として設立されました。現在の中央図書館ができるまでは、古川図書館と呼ばれていました。このほか、2001年にノーベル化学賞を受賞した野依良治氏（元本学理学研究科教授）を記念して、野依記念物質科学研究所と野依記念学術交流館が2004年に建てられました。学術交流館の中にはカフェがあり、緑に囲まれた広い空間は静かに読書をするには最高の環境です。2006年10月には青色発光ダイオードの発明で有名な赤崎勇名誉教授の名を冠した赤崎記念研究館が北部生協の前に作られました。1階のホールには赤崎氏の数々の業績が展示されており、誰でも自由に観ることができます。ちなみに、全国の大学のうち名古屋大学の特許料収入は日本一（2005年度）で、その大半は赤崎氏の研究業績によるものです。

天気の良い日にはぜひ学内を散策してみてください。名古屋大学の歴史に触れることができます。

1.2 学習意欲を高めるような時間割をつくろう

みなさんは、どんな理由でこの大学・学部を選びましたか。大学で何をやりたいと考えたのでしょうか。進路を決めた時のことを思い出してみてください。みなさんの中には、偏差値のレベルや専門分野に対する一般的なイメージで選択した人が少なくないと思います。しかし、せっかく入学したのだから、大学・学部がどんな人材を養成しようとしているかを知っておく損はないでしょう。

高校までは時間割は与えられるものですが、大学ではあなた自身が時間割をつくる点が大きく異なります。もちろん必修の授業もありますが、かなり多くの授業を自分の意思で選択することができます。大事なことは、自身の学習意欲を高めるような時間割をつくることです。ここではその基本的な方法について紹介します。

ティップス3：進学する学部の教育目標とカリキュラムについて知ろう

みなさんが進学する予定の学部には、それぞれ教育目標が定められています。そして、その教育目標を達成するための教育内容としてカリキュラムが設計されています。まずは、学部ごとに配布されている『学生便覧』あるいは各学部のホームページを開き、あなたが進学する学部では、どんな科目が提供されているのかをみてみましょう。自分の学部がどんな教育目標を掲げ、それを達成するためのカリキュラムがどのような仕組みになっているのか、知っておくよといてでしょう。どこの学部でも、最初は基礎科目や教養科目かならなる全学教育科目が大部分を占めています。次第に学部の専門授業が増え、4年次には多くの学部で卒論・卒業研究が課されます。

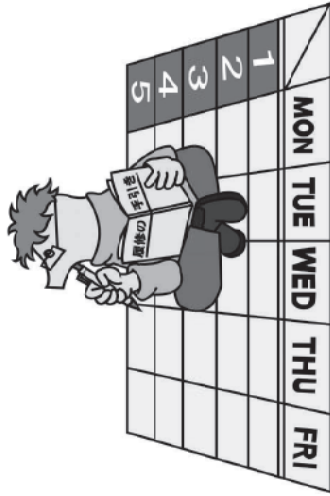
ティップス4：全学教育科目を学ぶことには大きな意味がある

名古屋大学に入学したばかりのあなたが最初に授業を受ける場所は、主と

して全学教育棟というところです。全学教育科目が学部の専門科目と異なるのは次の点です。

- ・さまざまな学部の学生と机を並べて学ぶ機会に恵まれている
- ・進学予定の学部だけでは学ぶことができない幅広い教養・基礎知識を学ぶことができる

たとえば、全学教育には新入生用の「基礎セミナー」という授業があります。大学生に必要な読み、書き、話す能力の基礎トレーニングと学問探究のおもしろさを少人数で学ぶ授業で、全学教育でもっとも人気のある授業の一つです(なんと年間約280も開講されています)。各セミナーは12名定員で、教員に加えて大学院生のティーチング・アシスタントも配置されています。新入生用のゼミがこれほど少人数制で大規模に実施されているのは、全国の大学でも珍しいのです。多くの基礎セミナーでは他学部の新入生と知り合い、共通のテーマについて調べたり、話し合ったりする機会があります。



◎コラム2 教養の定義いろいろ



名古屋大学の場合、教員は原則として大学院に所属しており、高度な専門教育は大学院で行うという認識が一般的になっています。学士課程(学部教育)では、生きていく上で必要な幅広い教養と専門分野の基礎的能力を身につけることが求められています。つまり、大きくとらえれば、今日の大学では学士課程そのものが教養教育だといえるかもしれません。

ところで、「教養とは何か」ということについては、いろいろな解釈があります。もともと教養教育を意味するLiberal Artsは、近代大学のルーツといわれる中世ヨーロッパ大学においては、聖書を読み解くための能力(論理、修辭、文法)と神の摂理による自然現象を理解するための能力(天文、算術、幾何、音楽)から構成されていました。つまり教養とは、キリスト教世界において「神につながる」力を意味したのです。

ドイツ中世史の研究者である阿部謹也氏(元一橋大学学長)によると、12世紀にヨーロッパで都市が発展したときに、都市の一部の人々が「いかに生きるか」を考えるようになったことが教養の始まりだと述べています。都市にさまざまな職業が発生して、それまで当然とされてきた父親の仕事を継ぐことから解放されて、自分の力で「いかに生きるか」を考える人々が出現しました。彼らは古典語(ラテン語)を駆使して「いかに生きるか」に思いを巡らしました。教養とは古典語に精通することでもありました。

科学哲学者である村上陽一郎氏(国際基督教大学教授)は、教養とは高等教育を受けたかどうか、難しい本をたくさん読んだかどうかではないと言います。村上氏は「規矩」(きく:ものさしのこと)という言葉を使って、生きていく上で価値判断の基準となる自分なりのものさしを持っている人のことを教養があると表現しています。

数学者でエッセイストでもある藤原正彦氏(お茶の水女子大学教授)は、人間にとって最も大事なものは論理ではなく情緒であり、国語力(つまり日本語の能力)であると主張し、アメリカ型の合理主義や英語万能主義に警鐘を鳴らしています。このように、教養の意味は時代によって、国によって、人によってさまざまに定義されてきました。あなたはどの思いますか? ぜひ、大学時代にたくさん本を読んで、教養とは何かについて考えをめぐらせてみて下さい。

- 履修する科目数を最小限にし、空き時間をできるだけ作り、自習する。
- 総合大学なのだから、専門外の授業を取ると楽しい。大学らしい。

◎コラム3 単位ってなに？



大学の単位がどのようにつくられているのか、ちょっとだけ紹介します。1単位というのは45時間の学習をしたという意味です。2単位だと90時間。このうちの30時間が授業時間に相当します(1回2時間×15回という意味です)。つまり、残り60時間は授業時間外の学習時間を意味し、1回の授業あたり4時間分の予習・復習が必要になるという前提なのです。大学の授業内容はこの基準に基づいて設計されています。だから、**あまり多くの授業を受講しすぎことは危険なのです**。予習・復習の時間を確保できず、ついていけなくなってしまします。時間がいっぱいに授業を詰め込まないようにしましょう。

1.3 まずは授業に出よう

大学で授業を受ける時は、高校との違いに誰に誰でも最初戸惑うものですが、授業時間はとても長いし、教室も大きい。一部の科目を除けば、同じ授業は週1回しかありません。高校の多くの授業では同じ教室に教員が入れ替わり入ってくるのに対し、大学では学生の方が授業ごとに移動します。座席も自由です。授業ごとに受講する顔ぶれは変わります。しかも、同級生は2千人を超える大集団です。こういう環境の中で、あなたは時として一人ぼっちになったかのような孤独感を感じることがあるかもしれません。しかし、そう感じているのはあなたただけではありませんので、安心してください。誰もが最初はそうなのです。

大学で授業を受ける上で肝心なことは、1回90分という授業スタイルに慣れること、授業ごとに異なるルールを知ること、積極的に授業に参加することです。これらのことに気をつけていけば、最初は戸惑うかもしれませんが、だんだんと大学の授業に慣れていくことでしょう。

ティップス8：90分授業に慣れよう

名古屋大学のほとんどの授業は1時間90分です(実験などを除く)。高校までは1時間45～50分の授業に慣れていただけのことと思います。あなたにとつて、最初のうち90分という時間はとても長く感じられるかもしれません。しかし、高校よりもはるかに高度化した内容をまとめた内容として教えるためには、1回90分という時間はどうしても必要なのです。言い換えれば、1回の授業で扱う内容は、高校までの少なくとも2倍はあるということです。うっかり休んでしまうと、あとから追いつくのが大変なので、気をつけてください。最初のうちは、授業で集中力を持続するのは難しいかもしれませんが、次第に慣れてきますので、そんなに心配する必要はありません。

ティップス9：授業ごとに異なるルールを確認しよう

大学では、授業のルールの大部分は担当する教員が決めています。もちろん、基本的なことは共通です。当たり前ですが、カンニングをしないでいけなしいし、私語をすれば注意されます。友だちの代わりに出席する、いわゆる「代返」も不可です。携帯電話の電源は必ず切ってください。大学では「学問の自由」が保障されている代わりに、大人として他者の人格や学習活動を尊重することが求められます。私語や携帯電話は明らかに他者の学習活動を妨害する行為です。あなたの周囲でそういう行為をしている人がいたら、注意しましょう。実験や実習においては、安全や倫理に関するルールが事前に説明されます。まずは、それらをきちんと守ってください。

このほか、授業によって異なるルールもいろいろあります。たとえば次のようなものがあります。

- ・ 出欠をとるかどうか、出席点を成績評価に加味するかどうか
- ・ 飲み物（ペットボトルなど）を教室に持ち込んでよいかどうか
- ・ 教室で帽子をかぶってよいかどうか
- ・ やむを得ない理由で授業に出られないとき（災害、急病、葬儀など）、欠席扱いとなるかどうか
- ・ 補講があるかどうか
- ・ 試験の時に教科書・ノート・辞書類を持ち込んでよいかどうか
- ・ 成績評価の方法は試験なのか、レポートなのか、それとも日常の課題なのか



これらの点については、各授業のシラバスを確認してください。もしくは、最初の授業の時に教員から説明があると思いますので、聞き漏らさないように注意してください。

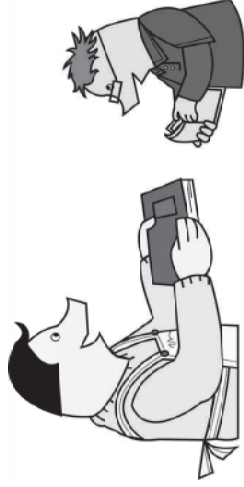
ティップス10：教科書を買おう

大学の授業の基本、それは指定された教科書をちゃんと買って、専用のノートを用意して、毎回遅刻せずに出席することです。自分でお金を払って教科書を買うことによって、「さあ授業を受けるぞ」という気持ちが自然に高まってきます。なんだ、高校と同じじゃないかと思うかも知れません。そのとおりです。しかし、まじめに授業に出たとしても、大学の教員はきれいに板書してくれるとは限りません。補助プリントを配布してくれるとは限りません。試験対策を教えてくれる教員もほとんどいないでしょう。受講者全員がわかるまで練習問題を丁寧に解説してくれるわけではありません。こうした授業に出ているうち、あなたは大学の授業はとて不親切だと感じるかも知れません。

しかし、そのことはあなたが生まれて初めて「大人」として遇されているということの裏返しでもあります。あなたが「よくわからない」と言わなければ、大学の教員はあなたが理解したものと考えます。たとえば、次のような方法で授業に積極的に参加することができます。いずれも当たり前前のことばかりですが、これらの積み重ねが大事です。

- ・ 指定された教科書を購入する
- ・ 授業の開始時間を守る
- ・ できるだけ教室の前の方に座る
- ・ わからない点について教員に質問する
- ・ 指定された練習問題を自分でちゃんと解く
- ・ 課題に積極的に取り組む
- ・ 授業で紹介された参考文献について自分で調べてみる
- ・ 教員の書いた論文や本を自発的に読んでみる
- ・ 授業中のグループワークに積極的に参加する

これらの具体的な方法論については、2章以降で詳しく紹介します。



【先輩からのアドバイス】

まずは授業に出ること。授業に出ないことには、その授業がどのようなものかわからない。たとえシラバスではつまらなさそうな授業であっても、教える人がおもしろかったりしたら、その授業の内容に興味を持てるかもしれない。興味を持てるか持たないかは、授業に出てみないとわからない。(農)

【教員からのアドバイス】

- ・つまらないと思う講義でも、がまんして寝ずに聞き通しましょう。收穫は必ずあるものです。最悪でも、精神が鍛えられ、集中力が身につきます。
- ・授業を集中して聴くことが一番効率の良い勉強法なので、授業をサボらな
いで、できるだけ前に座る。
- ・授業をサボるのは絶対にやめましょう。聞き逃した1時間の講義を自分で
学習するのは10倍の労力がかかります。
- ・どれか一つでもいいので、100%出席する授業をつくること。

1.4 思考の整理に役立つノートをとろう

高校まで、あなたのノートはクラスメイトの模範だったかもしれません。ノートなんて楽勝だ、と思っているかもしれません。しかし油断しないでください。大学の授業でのノート作成には、高校までとは異なった難しさがあります。それは、次のような前提です。

- ・授業で扱う内容が格段に難しくなる
- ・大学教員はていねいに板書してくれるとは限らない。大事なことがし
ばしば口頭のみで語られる
- ・教科書を使うかどうか、どのように用いるかも人によって異なる

これは大学だけではなく、実社会においても同じです。もしあなたが新聞記者になったとしましょう。インタビュee相手は、あなたがきれいにメモをまとめやすいように順序立てて話してくれるという保証はありません。あなたがエンジニアだとして、新商品の開発コンセプトについて設計者から説明される時と同じでしょう。相手がつねに自分の理解度に合わせて、丁寧に説明してくれるとは限らないのです。自分の理解を促し、深めるためには、よいノートをとることが大事です。

大事なことは「自分にとって役に立つノート」であるということです。役に立つということは次のごことを意味します。

- ・ノートをとることが思考の整理になる
- ・読み返すことで、忘れかけていた記憶を再現・整理できる
- ・理解できていない箇所を確認することができる
- ・その後の学習の手がかりになる

ティップス11：どの授業でもノートを用意しよう

最初にやるべきこと、それはノートを買うことです。授業では机の上のノートを出しましょう。他人のノートをあてにせずに、自分でノートをとりま
しょう。他人のノートをあてにすると、横着になって自分でノートをとる習

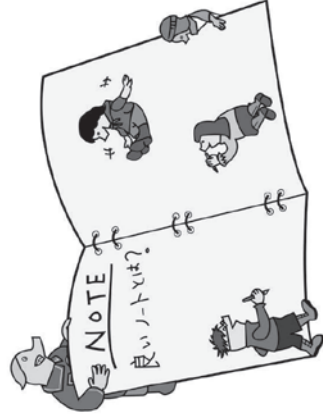
慣がつかなくなってしまうので、長い目で見ると学習の妨げになります。

ティップス 12：まずは正確に書き留めよう

まずは、教員が受講生に伝えたいことを正確に書き留めることが大事です。一般的に、教員が強調したい内容を表現するときには、丁寧に板書する、図示する、大きな声で話す、ゆっくり話す、繰り返し話す、事例を挙げる、重要だと考える理由を挙げる、学生に説明させる、などの方法をとることが多いでしょう。こうした教員のサインを見逃さないことが重要です。

ノートをきちんととらないと、せっかくの貴重な情報を逃すことになってしまいます。それは本当にもったいない。教員によってはプリントをたくさん配布する人もいますが、プリントを受け取るだけで満足してしまわないように。自分の頭を使ってノートをとっておかないと、後でプリントを読み返しても、何が重要なのか思い出せなくなってしまいます。

実験の授業において実験記録としてつける実験ノートは、講義のときにもノートとは違う意味を持っています。実験ノートには、手順、観察したものの、測定データなどを、正確に、そしてすべて記録することが求められます。結果がうまく出ない時でも、その内容をきちんと記録に残さなければなりません。実験ノートは発見や発明を裏付ける証拠資料となるものだからです。試行錯誤の過程をきちんと実験ノートに書く習慣をつけましょう。1年生のうちはこの習慣を身につけておくと、研究室に配属になったから、また、卒業後に研究や開発の仕事をするようになってから、大いに役に立ちます。



ティップス 13：ノートに自分のコメントを添えておこう

教員の説明を書き留めたら、授業内容について、あなたがどのようなように感じたかもノートに書き留めておきましょう。たとえば下記のようなケースがありえるでしょう。

- ・教員の意見に賛同する場合（なるほど、さすが、すごい、おもしろい、など）
 - ・納得できない、疑問を感じる場合（なぜ、どうして、ホントにそうか、など）
 - ・内容が理解できない場合（意味がわからない、問題が解けない、など）
- 「何がわからないかがわからない」という状況にならないように、その時点での感想・理解度を自分の言葉で添えておくとうれいでしょう。落書きやイラストでも構いません。ノートをとる上で重要なことは、授業で説明される内容を機械的に暗記することではなく、あなたが自身をどう受け止めたのかをメモしておくことです。

ティップス 14：復習するための手がかりを記しておこう

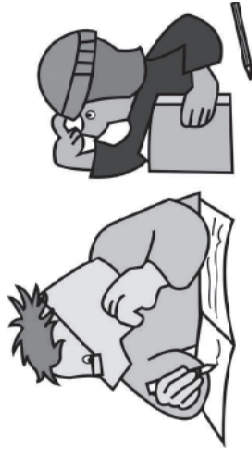
最後は、自分で発展的な学習を行うための手がかりを記しておきましょう。これは、理解が十分でない部分を補完する意味でも、興味を抱いた部分を掘り下げて学ぶという意味でも大事です。特に、教員が授業中に紹介した参考文献は貴重な情報です。友人からのコメントも役に立つでしょう。授業で取り組んだ練習問題なども、どこが十分にできなかったのかを記録しておくとうれいでしょう。

作成したノートを振り返るのは、試験やレポート作成時など、時間が非常に限られた状況であることが多いと思います。すぐに対策を立てようと思っても、手がかりがないと時間オーバーになってしまいます。ふだんから、こうした手がかりをノートに残しておくとうれいでしょう。たとえば、

- ・あとで◯◯を調べること！
- ・プリントをチェック！
- ・ここはあとで練習問題にトライする！

1.5 授業時間外の学習を大事にしよう

大学の授業は教室の中だけで終わりません。大学の授業は、授業時間中の説明だけではカバーしきれないほどの学習内容があるだけでなく、高校の授業よりも、はるかにレベルが高くなります。超人でもない限り、授業時間だけですべてを理解することは不可能です。予習・復習は理解度を深めたり、発展的な学習を行ったりする上で欠かせません。世界のどこの国の主要大学でも毎回の授業で多くの課題が出されますが、その量は高校までの宿題よりもはるかに多いのです。



ティップス16：予習・復習をちゃんとやろう

予習課題を地道にこなしましょう。課題に取り組むことで、次回の授業に出席する意欲が出てきます。課題をサボると、授業もサボりがちになります。また、締め切りが近くなってから慌てて片づけようとすると学習が雑になります。鉄は熱いうちに打ちましょう。
実験や実習の予習では、まず、作業手順を確認して下さい。実際の様子を想像しながら、テキストを読んでもみましょう。「実験台のうえに何をどう並べたら実験が進めやすいか」、「実習中に必要なものをさっと取り出せるようになるにはどうしたらいいか」、など、具体的にイメージする必要があります。また、「なぜテキストにあるような手順になっているのか」、「違う手順や条件で実験したらどうなるか」など、いろいろと思いを巡らしてみましよう。実験や実習の内容が、より深く理解できます。

復習は授業の記憶が残っているうちに、早めに行うのが効果的です。最も効果的な学習方法は、授業が終わったら、あまり時間が経たないうちに図書館などの自習スペースを使って課題に取り組むことです。人間の記憶はあっという間に薄れていきます。試験の直前にノートを見直すという方法は、実はあまり効果的ではありません。わからないところはできるだけその日うちにチェックしておきましょう。

ティップス17：自分なりの課題を探そう

自発的に課題を見つけて取り組むと、授業を受けるのが楽しくなります。たとえば、最初の授業で教員が紹介した参考文献を図書館で調べてみましょう。かなりたくさんの本を発見できるはずです。現代の人間社会や科学技術について、あなたが今受けている授業がどういうメッセージを発信しているかを考えることは、授業に対する関心を高め、あなた自身の学習意欲を高めることにもつながります。

教員によっては、インターネット上に自分の授業サイトを開設している場合があります。授業内容に関連する各種情報や他のサイトのサイトが紹介されていることもありますので、ぜひチェックしてみてください。

ティップス18：上達するには練習問題をこなそう

大学の授業の中でも、特に言語文化科目や基礎科目の授業は、練習問題を確実にこなすことが大事です。それ以外に近道はありません。スポーツや芸術の基礎トレーニングと同じで、最初のうちは苦痛を感じるかもしれませんが、根気よく繰り返していくうちに、かならず効果を実感できるでしょう。練習問題は高校時代のように解説が丁寧が付されているとは限りません。一人でトライするのがしんどい時は、仲間と助け合いながら取り組みましよう。

【先輩からのアドバイス】

・演習問題をやらずに、ただ例題や公式を読んでいても、テストの時にはまったく問題は解けません。実際に自分で問題をやってこそ公式は頭に入っ

くるものだし、同じ系統の問題でもいろいろなパターンがあるから、それすべてを例題として取り上げることは不可能なので、演習問題は自分でちゃんとやるべきだと思う。(工)

- ・大学の授業は週1回がほとんどなので、1回90分×15回分で教科書を全部理解することは不可能です。復習を早めにするといいと思う。(工)

- ・高校までの勉強は、席について先生の話や黙々と聴き、せかせとノートをとることでなんとかできてきたし、それで必要な情報はたいがい入ってきた。しかし大学の講義はそうではない。多人数の学生を相手にする講義では、こちらの理解を待たずに先生は先に進んでしまうし、講義を聴いただけではわからないことも多い。そんなとき、友だちに聞く、教授に聞く、図書館で調べ、インターネットを活用するなど、体を動かして能動的に、主体的に情報収集することが必要だ。そういった学習方法や学習姿勢は社会人になってからも役立つだろう。(農)

【教員からのアドバイス】

- ・大学に自分の居場所を作ろう。図書館、学部図書館、ラウンジコーナー、喫茶室、生協食堂など、どこでもいい。そして図書館なら「いつものイス」を決めてしまおう。他の人が使用しているときがあれば、その日はその周辺でがまんすればいい。とにかく、そこで一人になるのもよし、友だちと何かやるのもよし、自分にとって居心地のいい場所を見つけるといいと思う。

- ・数学の場合、教科書が指定されていれば、必ずそれを通読してみる。ただし、目で文字を追うだけではなく、必ず要点のメモをとりながら読む。また、書かれていることを齧呑みにしないで、なぜそうなるかを常に意識しながら読む。紙面の関係で省略されている部分を自分で補ってみる。計算や証明などの導出が書かれている場合は、自分で実際に手を動かして導出してみる。数学は意外と体で覚える部分がある。

- ・語学の勉強などは、毎朝決まった時間にやるとよい。

- ・高校の数学の教科書は読めばすぐわかったのに、大学の教科書は読んでもわからない、という人に！

> 読んだだけでわかる人はよほど優れた人です。ちなみに私は、鉛筆を持って式を追ったり計算をしないと頭の中に具体的イメージができません。講義の途中で教員が演習問題を出しても、ノートも筆記用具も使わない人はいつまでたっても理解への突破口はないと思います。講義を聴いてもわからないから期末試験前にやろうとあきらめる癖がつくと危険信号です。みなさん、それはわかっているんでしようけどね！

聞くなど、いろいろな方法があります。詳しくは、第3章「人から学ぶ」を参照して下さい。

【教員からのアドバイス】

・小生の経験からは、教員の言っていることは、その場ではまず理解できないことが多いと思います。ここからが、大学レベルの学問のおもしろさがあるわけで、その後は理解できるまで徹底的に自分で本を読んで考えるわけです。小生の経験では、同じ問題を1週間考えることができたのは、大学生の時だけです。大学院では遅いと思います。

・聞いただけでわかる授業がよいとの風潮があります。しかし、そのような授業は、単に雑学を教えている授業か(たしかに雑談は楽しいが)、受講生に考えることを求めている授業かもしれない。たしかに、どのようなことで、最低覚えなといいけないことはあるが(文字だけで覚えなければこの文も読めない、「覚えるだけで済む」ことは、それ以上ではない。何を言っているかわからない授業は大きな問題ではあるが、わからないと感しても、すぐにあきらめないこと。そこで言っていることを理解しようとすれば、そして理解できれば(理解できたと思った時には、皆さんの考える力は確実に伸びています。

・学習したということが目に見えるような工夫をしたらどうでしょう。例えば、本を読んだ後に、その本で興味深かった箇所などを抜き書きしたりしてカード化したりすると、そのカードが増えていくのは、結構楽しいもの。こうして、自分のやったことの成果のようなものを目の当たりにすると、励みになります。読んでも忘れちゃったり結構虚しいものね。つまり、学習成果を見えるようにすることが習慣を作るんじゃないかな。

・実験の時は、深みにハマる前に教員やTAに質問して軌道修正することをお勧めします。実験には試行錯誤がつきものですが、せっかくなら良い試行錯誤をしてほしいと思います。深みにハマってからでは遅いのです。

・実験は、五感をたらかせる、プロセスをきちんと経験する、なぜ・どうしてと考えることが大事です。答を出すことに終始してはもったいないと思います。特に全学教育の実験では結果を予想できる場合がほとんどです。大事なことはプロセスを楽しむことです。



【第1章 チェックリスト】

- 進学する学部の教育目標やカリキュラムについて調べる
- 自分の知的好奇心がかき立てられるような授業を受講する
- 時間割にすぎ間をつくる
- 授業ごとに異なるルールを確認する
- 教科書を購入する
- 授業ノートを用意する
- 実験や実習に関する安全上・倫理上の注意事項を確認する
- 授業の内容をノートに正確に書き留める
- ノートに自分のコメントを添える
- 復習するための手かかりをノートに残しておく
- 授業を受けたその日のうちに復習をする
- 自分なりの発展課題を探す
- 練習問題にきちんと取り組む
- 学習した記録を残しておく
- 自分の学習プロセスを振り返る
- 振り返ってもわからないときは、すぐに人に聞く

2. 本から学び



2.1 本との出会いを大切にしよう

これまでみなさんは、高校時代までにどんな本を読んできましたか。ひょっとしたら、受験参考書以外にはマンガしか読んだことがないという新入生もいるかもしれませんね。大学で学ぶということは、教科書だけに限らず「良書をたくさん読む」ということでもあります。大事なものは、大学時代に本に接する機会を増やし、良書を選ぶ目を養うことです。

それでは、なぜ本を読むことが重要なのでしょう。一言で表現すれば、そこには人類の叡智と苦闘が凝縮されているからです。先人がどうやって新しい知を開拓していったか、それをどうやって継承してきたか、そこにはどのような苦労があったのか、を知ることができます。本を読むということは、古今東西の偉人・先人からマンツーマンの授業を受けようなものなのです。

たしかに、インターネットを活用すればさまざまな情報を収集することができます。しかし、本を読むことはインターネットでは代わりができません。第一に、ディスプレイ上で長大な文章を読むのは疲れます。第二に、インターネットの情報は必ずしも精度が高いとは限りません。本の場合は編集者や出版社によって一定の手チェックが入っていますので、誰もが自由に発信できるインターネット情報よりも相対的には信頼度が高いと言えるでしょう。

ティップス22：自分でお金を出して本を買おう

まずは、自分でお金を出して本を買ってみましょう。学生の本分は学習することですから、たとえ携帯電話の通話料を節約しても、良書を購入する価値は十分にあります。その際に、どうやって本を選んだらよいかについて紹介しましょう。

第一の方法は、授業で教員が紹介した本を探してみることです。数え切れないほどの本が出版されていますが、大学の教員はそれぞれの分野の専門家ですから、教員が推奨する本は内容面で一定の信頼を置けるでしょう。

しかも、大学新入生にとって必要かつ適切であるという観点で選んでいるので、「ハズれる」確率は少ないはずです。

最寄りの書店に立ち寄るのもいいでしょう。その場合、週刊誌が置いてある入口だけでなく、たまには店内をぐるりと回ってみましょう。ふだん自分が目にしないうちの本から、思わぬ知的刺激が得られるかもしれません。とくに、大学生協の書店には、大学生が読むのに適した多くの書籍がそろっています。

インターネット書店を利用する方法もあります。インターネットで本を購入する最大のメリットは、希望の図書を簡単に検索・注文・注文・入手できることです。この方法は、一般の書店にあまり置かれていないような専門書を購入するときには非常に便利です。もう一つのメリットは、たいいていのインターネット書店のサイトにはレビュー（書評）が掲載されていることです。その本がどのくらい信頼するに足るのか、質の高い内容であるのか、他の読者の評価を参考にすることができます。

ティップス23：買えないのなら図書館に行く

本を買うお金がない、という人もいるかもしれません。そういう人は、附属図書館を活用するとよいでしょう。名古屋大学には280万冊に及ぶ巨大な蔵書があります。中央図書館以外にも、学部ごとに図書室が整備され、充実した蔵書と閲覧スペースを持っています。授業の前後に立ち寄りってみるといいでしょう。中央図書館は、平日は朝8時から夜10時まで開館していますので、時間に気兼ねすることなく利用することができます（土日も開館しています）。大学以外にも、公共図書館はたくさんあります。県や市の図書館を利用するのもよいでしょう。

ティップス24：人がすすめる本を読む

良い本を選ぶにはいくつかの方法があります。良い本を選ぶための基本は、まずは人が勧める本を読んでみるということです。また、購入したい本について、できるだけ多くの情報を事前に得ることが役に立ちます。たとえば

のような方法があります。

- ・教員、親、先輩、友人が推薦する本
- ・新聞、雑誌の書評欄で紹介された本など
- ・インターネット書店のレビューなど
- ・本や論文の中で引用文献や参考文献をたどる
- ・執筆者の情報をみる
- ・出版社が出している新刊情報をみる



噂にたがぬ良書か、それとも期待はずれか、あなたなりの目で観察してください。手にとって開いてみて下さい。目次を開きましょう。良書を見抜く力は、たくさん本を読むことによって培われます。「量が質をつくる」のです。だから、学生時代にたくさん本を読んでください。高い本、売れている本が、必ずしも質的に優れているとは限りません。売れていなくても良い本はたくさんあるのです。

ティップス25：古典・新書を読むみよう

読書の習慣をつけるにはどんな本が適切なのでしょうか。大学時代には、すでに多くの人々によって高く評価されている古典を読むことをお勧めします。古典を読む意義は、「知識人として求められる幅広い教養」を身につけることにあります。東西の古典文学や哲学・歴史は、どの分野の専門家であれ、人格を形成する上で大きな指針となるでしょう。古典を知らないということとは、知識人としては恥ずかしいことです。

また、学問のそれぞれの専門分野において古典と呼ばれる研究業績・文献が数多くあるはずですが、これは授業中に教員が紹介してくれるでしょうし、教員に聞けば気軽に教えてくれるでしょう。古典を読むことによって、それぞれの学問分野がどのようなように形成され、変遷を経てきたのかを知ることができます。先人がその学問分野を開拓するのにどれほど格闘してきたかを知ることができます。

一方、現代の「新しい知」について専門家がわかりやすく紹介してくれるのが新書です。新書は文庫本よりも少し縦長のペーパーバック（ハードカバー



◎コラム4 大学時代に本を100冊以上読もう

読書は習慣化することが大事です。読書の習慣がついていない新入生にとっては、まだまった本を一冊通して読むことは苦痛かもしれません。統計によると、名大生の読書量は昔よりもだいぶ落ちています。これは全国的な傾向ですが、今やマンガしか読んでいない大学生は珍しくありません。残念ながら、名古屋大学も例外ではないようです。

テレビやマンガは画像や音声を通して相手が勝手に語りかけてくれますので、あなた自身は頭を働かせなくても簡単に情報を受信できます。これに対して、読書は自分で考えて、頭の中で活字をイメージ化しないと、その内容を十分に吸収できません。教育学者の高藤孝氏（明治大学教授）は、マンガをスナック菓子にたとえています。スナック菓子はついおい癖になりますが、ちゃんと主食（活字の読書）をとらないと人間として健全な成長はできません。

上記の高藤氏は読書する力をことを「読書力」という言葉を使って表現し、読書力をつける目安として文庫100冊、新書50冊を読むことを提唱しています。そうしていくうちに読書が苦痛でなくなる、読んで本の要約が的確にできるようになる、と彼は言います。これは、基礎的な力を身につけるためには、一定の量をこなす必要があるという考え方ですね。大学4年間でこれだけの量を達成するためには、たいたい文庫本を月2冊、新書本を月1冊ペースになります。時間のある大学生なら十分に達成できる水準だと思うのですが、どうでしょうか。いずれにしても、読書の習慣を大学生のうちにつけておくことは、一生の財産になるでしょう。

でない)で、ハードカバーの本と比べると値段も安く、持ち運びに便利です。マスメディアで取り上げられることも多く、大学生が現代社会の諸問題や科学技術の特定分野について初めて学ぶには格好の材料であると言えます。

【教員からのアドバイス】

・専門にとらわれず、まず本をたくさん読んでみる。本を読み始めたら、面白いかどうか、難しいかどうかにかかわらず、とにかく最後まで読んでみる。そのうちに、乱読して幅広く読む本と、内容を吟味しながら徹底的に読む本を判断できるようになると思う。

・高校時代に習った科目も実はさらに細分化されていて、それぞれが深く研究されており、教養書もたくさん出版されています。例えば、理科—物理—力学(電磁気学、量子力学、統計力学など)。大学に入って先輩から教えてもらった分野、こんな分野もあるのかと興味を持った分野、高校時代から興味を持っていた科目などについて、書店で気に入った本、または先輩や先生から教えてもらった本から興味を深めてみませんか。一人でも、あるいは友達と一緒に、まずは、気楽に始めればよいでしょう。

・授業等で興味を覚えた話に関する本を図書館で探してみる。さらにインターネットでも探してみる。さらに詳しくそうな教員に尋ねてみる。

・自分の専門に関する一般啓蒙書を読んで、専門に関する興味を持続すること。

・新聞や雑誌などの記事の中に講義とかわりある内容やキーワードを探し、社会的な知識を増やすことを習慣づける。

・講義で紹介された本を購入する。それでわからない時は自分の理解できるレベルの本を探し、当たりの本は覚悟して本を買う。1年間に10冊以上の勉強以外の教養書などの本を読む。簡単な読書記録をつける。

・最近の新書は本人が書いていないものが多い。著名人になると、本人は口頭でしゃべっているだけで、録音した内容をあとで出版社がうまく編集してあるのが読み取れる。そういう本を読むのが悪いとは言わないが、昔に比べると内容が薄くなっているのは否定できない。ちゃんと自分で書いている本かどうか、自分の目で確かめた方がよい。

2.2 読書人になろう

せっかく本を買っても読む習慣がついていないと、途中でくじけてしまい、本棚の肥やしになってしまいます。新入生のうちに、日常生活の中で本を読む習慣をつけましょう。ここでは、どうやって読書の習慣をつけたらよいかについて紹介します。

そもそも、なぜ本を読むことが大事なのでしょう。いろいろな理由があります。読書することによって、人類がこれまで蓄積した知的遺産に触れることができます。先人が一生かかって作り上げてきた業績を、短い時間で効率よく学ぶことができます。他者の意見を知ることによって、自分の視野を拡大、思考力を高めることができます。他者の意見を知り、受け止めることによって、他者を理解する力を養うことができます。このように、読書にはさまざまな効用があります。

ティップス 26：カバンの中にも本を入れておこう

本を読む習慣をつけるために、本を入れるのに十分な大きさの通学カバンを用意して、買った本をカバンに入れておきましょう。ハンドバッグのような小さなカバンだと、本やノートは十分に入りません。そうになると、教科書やノートは大学の個人ロッカーに置きっぱなしということになってしまいます。何はともあれ、本をカバンに入れて携帯することが基本なのです。本を携帯することによって、電車の中や喫茶店でも活字に触れることができます。まずは、「どこでも読める」環境をつくるところから始めましょう。

ティップス 27：読書をする時間帯・場所をつくらう

あなたはいつもどの時間帯、どの場所で本を読みますか。自分にとっての約束手の読書パターンを作ってみませんか。たとえば、夜寝るときに30分でも枕元で本を開いてみてはどうでしょうか。読書をするということは一人になる時間をつくるということです。授業のみならず、起きている間の人間

の生活の大部分（たとえばアルバイトやサークル活動、携帯電話など）は他者との関係によって成り立っています。本を読むためには意識的に一人になる時間をつくることが重要なのです。

ティップス28：読書ノートをつけてみよう

大学生として本を読むということは、書いてある内容を正しいこととしてそのまま暗記するのではなく、それを自分なりにどう受け止めるか、「考えながら読む」ということです。つまり、あなたなりに評価をすることです。たとえば、「この本は世間で話題になっているわりには、内容はたいしたことない」「誰も注目していない本だが、〇〇の理由で僕は高く評価する」など。「考えながら読む」トレーニングをするには、本を読んだ後に感想・コメント・メモを書いてみるのもいいでしょう。読書日記としてインターネットのブログを活用するのもいいでしょう。新聞・雑誌等の書評欄を読むこともおすすめです。

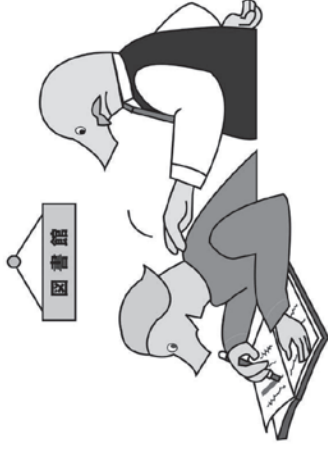
ティップス29：読んだ本について仲間と話し合おう

本を一人で読む自信がなければ、友人と読書会をつくってみましょう。同じ本に興味をもちそうな仲間を募り、一緒に読む本を選んでみましょう。一人で読むのはくじけてしまいがちな本であっても、仲間と一緒にだと良いプレッシャーになって、最後まで読み通すことができます。また、友人のコメントから思わぬ知的刺激を得られるかもしれません。そのことが自分の視野を広げるきっかけにもなります。

ティップス30：読書のマナーを知ろう

読書にも一定の約束事があります。自分が購入した本なら構いませんが、借りた本に書き込みをしたり、折り曲げたりするのはルール違反です。次に使う人が迷惑します。どうしても書き込みたいときはコピーを取りましょう。ただし、著作権法により一人につき一部、しかも一部分だけのコピーしか認

められていますので、注意してください。著作権とは人類の知的成果に対して敬意を払うことでもあります。CDやDVD、コンピュータのソフトウェアのコピーが禁じられているのも同じ理由です。



また当たり前のことですが、借りた本は返却日までに返しましょう。誰でも借りるときは必要に迫られています。返すときはついルールズになりがちです。図書館の本は公共財（みんなの財産）であり、お互いの良心に基づいて運営されています。

コラム5 著作権について



個人の研究成果やアイデアは著作権という法律によって保護されています。図書館にある本はもちろん、あなたが大学で書くレポートや論文にも著作権があります。

著作権法の第31条では、図書館における複製（コピー）について明記しています。「図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合」に限り、営利を目的としない事業として著作物を複製することができます。図書館などで入手した他人の著作物は、自分のレポート・論文などに引用することができます。しかし、常識に照らし合わせて、どちらが本文かわからないほど大量に引用することは禁じられています。また、引用したことを必ず明記しなければなりません。

【先輩からのアドバイス】

- ・新聞や本を読もう。専門の知識だけでなく教養を身につけることが大事。活字を読む練習にもなる。また、書かれたことを鵜呑みにしないで、考えながら読めばクリティカル・シンキングの練習にもなる。(工)
- ・本をたくさん読むこと。1冊の中で1つでもいいからキーワードを見つけておくこと。なかなかやろうと思ってもやれない自分がいるなら、本を使って疑似体験すること。そうすれば自分の知識が広がり、考え方も多面的になる。本はむりやり読まなくてもいい。読みたいと思った時にしっかりと読めばいい。読めば読むほど、自分の中にある想いが表現できなかつた時、本の中の言葉がヒントを与えてくれるから。(工)

【教員からのアドバイス】

- ・本を読みっぱなしではなく、自分でノートにまとめ、数理的な専門書なら、途中の式の計算導出をきちんとやりながら読むこと。文系の書物でも、要点をまとめ整理するなどして、自分で体系づけていくことが大事。
- ・ハウツー本ではなく文学書をたくさん読む。内容を無条件で受け入れるのではなく、現時点の自分のレベルではどう思うかをノートに書いておく。再度読み直したときの感想と比較すると、自分の成長・進歩を実感できます。
- ・本をいつも持ち歩く。本には金を惜しまない。本には著者の人生が詰まっている。



【第2章チェックリスト】

- 教員が授業で紹介した本を買ってみる
- インターネット書店を利用してみる
- 大学の図書館で本を借りる
- 新聞や雑誌の書評欄を読んでみる
- 世間で話題になっている新書本を買う
- 専門分野で古典とよばれている文献を読む
- 本がたくさん入るカバンを買う
- 読書する時間帯を決める
- 読書ノートを用意する
- 読んだ本について人と話し合う

3. 人から学ぶ



3.1 人と出会うことの意味を知ろう

大学で学ぶ上で人との出会いは重要な意味を持ちます。他者から学習上の刺激を受けることによって、自分の考えを発展させることができます。また、あなたが他者に影響を及ぼすこともあるでしょう。他者とは、教員かもしれない、先輩かもしれません、あるいはTAやクラスの友人、ゼミの仲間、先輩あるいは後輩かもしれません。名古屋大学にはさまざまな学部・研究科があり、多様な価値観が存在します。みなさんが大学で学習を始める上で、これらの財産を活用しないのは惜しいと思いませんか。



ティップス31：あいさつをしよう

人間関係の基本はあいさつです。そんな小中学生みたいな、と思うかもしれませんが、大学でも会社でも役所でも、日本でも外国でも、人間社会の基本は同じです。まずは、朝友人と会ったら「おはよう」と声をかけてみましょう。日常のさりげないあいさつが知的世界への扉を開いてくれることでしょう。歳の離れた人には話しかけにくいかもしれませんが、まずは身近な教員や仲間にあいさつするところから始めてみませんか。

ティップス32：仲間と議論をしよう

議論をすることによって、相手と自分の意見の違いを確認することができます。さらに、相手の意見のよいところを取り入れることによって、自分の考えを深めることができます。議論するときには大事なことは、①まずは相手の話をよく聞くこと、②自分の言いたいことを的確に伝えること、③双方の意見をすり合わせて、より優れた考えを生み出すことです。議論とは口論をすることではありません。お互いの意見を受け容れ、より優れた考えを生み出すことなのです。

◎コラム6 話せばわかる



昭和7年(1932年)春のある夕方、9人の青年将校が大養毅首相の官邸を強襲しました。「話せばわかる」と言う首相に向けて「問答無用!」とピストルを発射。いわゆる5.15事件です。将校たちにしてみれば、この期に及んで議論などせず、さっさと自分たちの計画を遂行して引きあげ、ということでしょう。

失礼かもしれませんが、現代の若者はどこかこれと似ているように思います。教室で教師が議論を促してもマジメに話をすることをせず、すぐに自分の世界に戻ってしまうことがあります。重い話なんかしたくない、仲間同士の軽いおしゃべりで済ませたいのかもしれませんが、しかし、大学という学問研究の場ではきちんと話をすることが大切なのです。

議論とは必ずしも相手を言い負かすことではありません。まず他人の話をよく聞き、多様な考え方があることを知ることです。その上で、筋道を立てて自分の意見を主張し、批評してもらいます。人と話してみても初めて自分の考えがわかってくることもあります。自分だけかと思ったら、みんな同じ問題をかかえていることに気づくこともあります。議論するとはそうした発見を楽しむことです。それを通して目が開かれ、柔軟な思考力が養われ、自分を高めることができるでしょう。

大養の出身地、岡山県の吉備中学校の玄関には「話せばわかる」との石碑があるそうです。これは民主主義の基本でもあります。話をしてもそう簡単にはわからないかもしれませんが、しかしこれだけは言えます。話さなければ絶対にわからない、と。

ティップス 33: 「人と話が合わない」経験をすることも大事だ

大学の授業とくに全学教育の授業は、専門分野、学習志向性、価値観など自分が異なる人と交わる絶好の機会です。授業中にはグループ作業やディスカッション、本格的な調査や実験、発表など、高校まで体験したことのないさまざまな活動が行われます。注意すべきは、こうした活動の多くが単独ではなく、グループあるいはチーム単位で行われるという点です。

人間関係においては誰しも、自分と似た属性の人と交わる方が心理的抵抗は少ないでしょう。しかし、考えの異なる人や、話の合わない人とも一緒に物事に取り組む経験をすることが大事です。相手と自分の思考方法や感覚の違いを実感することにより、自分の視野を広げたり、考えをより一段と深めたりできます。他者に対する寛容さは、自分と異質な人と交わることによって培われるのです。社会はあなたにとっても「ウマの合う」人ばかりではありませぬ。その人たちとどうやっても共存していくかを学ぶことが大事なのです。

ティップス 34: 人と出会うチャンスを積極的に活用しよう

名古屋大学では、新入生のあなたがさまざまな人と出会うチャンスを提供しています。学生相談総合センターには「名大ピア・サポーター」という制度があり、上級生が新入生の学習・生活上の相談のついでに、就職活動に関しても、就職先の決まった上級生が「就活サポーター」として登録され、下級生のサポートを行っています。留学生センターでは、名大に在籍する留学生と日本人学生が1対1で交流する機会として「学生パートナーシッププログラム」を提供しています。最初は恥ずかしいかもしれませんが、提供されている各種プログラムをぜひ積極的に利用してみてください。

このほか、名古屋大学は全国有数の研究重点大学ですので、年中数え切れないくらいの催し物が行われています。興味を持った教員や研究室の廊下には、さまざまな研究会やセミナー、シンポジウムのポスターやチラシが貼ってあることでしょう。新入生だからといって遠慮は要りませぬ。関心をもつ

たら、教員や院生に尋ねてみましょう。教員にとっても、自分の研究分野に学生が関心をもってくれることはウエルカムなのです。

【先輩からのアドバイス】

- ・部活やサークル、バイト、ゼミなど何でもいいので、人と関わることで、大きな世界に入っていくことが必要。人と意見を交換するだけでなく、他人の行動を見て学ぶことはたくさんある。そして、人とのつながりが将来にも役に立つ。(文)
- ・社会人になった時、一番大事なのは「仕事ができること」よりも「人とうまくやれること」なのではないだろうか。そのため、さまざまな人との出会いにあふれている大学生のうち、さまざまな人と出会い、コミュニケーションすることは意味があると思う。(農)
- ・人間の食わず嫌いをしないこと。仲良くなってみたらいい人だったということはよくあると思う。しかも、そういう人は自分と違った考え方をしていることが多いと思う。(法)
- ・仲間を作り、話をすること。社会科学はもちろん自然科学においてもそうであろうが、人の意見は一つではあり得ず、人によって多様である。独力では自分の意見に固執してしまうばかりで広がりを持ち得ない。友人はもちろん、他学部の人と広く接するべきである。(法)
- ・ずばらしい人間関係を築いて下さい。「ずばらしい友人」というのは、何でも自分の思うことを言い合せて、かつ自分とは違う考えを持っている人のことだと思えます。そういう人とは意見が割れてぶつかることがあり、自分の意見を言い合うことによって、考え方がより豊かになるから。(工)

【教員からのアドバイス】

- ・尊敬できる先輩を見つけること。

- ・他人から誘われたり、声をかけられたりした時、よろうかどうしよう迷っている時は、「イエス」という方向で考えてみる。新しいことに、少し背伸びしてやってみる。
- ・友人のすばらしいところを学ぶ。
- ・立派な人ばかりの中で過ごすのはしんどいことである。怠け者の中ばかりで過ごしてはラチがあかない。いろいろなグループと気楽に、しかしそれなりに批判的に付き合うのがよい。
- ・友人と将来のこと（卒業後のこと）を語り合ってみる。中には明確なビジョンをもった人もいて、刺激を受けられるだろう。



◎コラム7 時間を守ることが信頼につながる

あいさつと同様に、人間関係を築く上で最も重要なことは、約束した時間を守ることです。時間を守らないと、それだけで相手の信用を失ってしまいます。あとから挽回するのは、かなり骨の折れることです。直前になってキャンセルする、いわゆる「ドタキャン」も同じですね。ふだんから時間を守る習慣がないと、肝心な時にも同じ失敗を繰り返してしまいます。

最近では携帯電話とメールが普及したために、時間の変更を簡単に相手に伝えられるようになりました。そのことが、かえって約束の時間を守ることをより難しくしているのかもしれない。価値観や思考方法と同様、時間に対する感覚も人によって異なります。のんびりの人もいれば、せっかちの人もいます。他者はあなたと同じ時間感覚の持ち主だとは限らないということを忘れないようにしましょう。

3.2 教員との距離を縮めよう

あなたは大学時代にどれだけ教員から刺激を得ることができたでしょうか。あなたの知的関心を拡げてくれるような教員を見つけて、その魅力を探することは、学問の楽しさを知る上でとても貴重な方法です。

ティップス35：教員に関する情報を集めてみよう

自分が興味を抱いた教員について知るには、その教員に関する情報を集めてみましょう。まずは、教員が書いた本や論文を読んでみるとよいでしょう。中央図書館の3階には名大教員が出版した新刊本が展示されているコーナーがあります。また、図書館の検索システムを使って、興味を持った教員の論文を入手することができます。新聞には時折、名大の教員の解説記事やインタビュー記事が掲載されています。また、インターネット上には教員に関するさまざまな情報が掲載されています（必ずしも正しい情報ばかりとは限りませんが）。名古屋大学の教員がどのような研究をしているのかを知ることは、あなたにさまざまな知的刺激を与えてくれるでしょう。

また、教員との関係を築く上で、基礎ゼミナーはとてよい機会です。基礎ゼミナーは新入生が名大にうまく適応するためのオリエンテーションとしての機能ももっています。大学での学習でわからないこと、疑問に思うことがあれば、基礎ゼミナーの教員やTAに相談してみるとよいでしょう。

ティップス36：質問を恐れるな

大勢の学生が受講している講義の中で一人手を挙げて質問するのは、なかなか勇気が要るかもしれません。教員から「何か質問がありませんか」と言われたとき、本当はいろいろ聞きたいことがあるのに、シーンとした空気の中でお互い無言で牽制してしまい、手を挙げられなかったことが誰でも一度や二度はあるでしょう。

でも本当はあなたが手を挙げて質問することで、同じ疑問を持っている何

● この冊子を制作する際に参考にした文献 ●

名古屋大学『全学教育科目実驗 安全の手引き—実験を安全に行うために—』2006年。

名古屋大学『学生生活状況調査報告書（第21回）』2006年。

伊藤俊洋監訳『スタディスキルズ 卒研・卒論から博士論文まで、研究生活 サバイバルガイド』丸善、2005年。

北尾謙治ほか『広げる知の世界—大学でのまなびのレッスン』ひつじ書房、2005年。

名古屋大学高等教育研究センター編『ティップス先生からの7つの提案』（学生編、教員編、大学編）、2005年。

名古屋大学高等教育研究センター編『初年次オリエンテーションを支援するスタディティップスの開発と活用に関する事業』平成16年度学生支援特別経費成果報告書、2005年。

藤原正彦『国家の品格』新潮新書、2005年。

村上陽一郎『やりなおし教養講座』NTT出版、2004年。

山口拓史『豊田講堂』名大史ブックレット9、2004年。

『学士課程における初年次教育マネジメントの有効性に関する調査研究』（平成13～14年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書）研究代表者：池田輝政、2003年。

高藤孝『読書力』岩波新書、2002年。

藤田哲也編著『大学基礎講座—これから大学で学ぶ人におくる「大学では教えてくれないこと」—』北大路書房、2002年。

池田輝政・戸山和久・近田政博・中井俊樹『成長するティップス先生—授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部、2001年。

阿部謹也『教養とは何か』講談社現代新書、1997年。

A.W.コーンハウザー（山口栄一訳）『大学で勉強する方法—シカゴ大学テキスト』玉川大学出版部、1995年。

Britt Andreatta, *Navigating The Research University: A Guide For First-Year Students*, Wadsworth, 2005.

John N. Gardner & A. Jerome Jewler, *Your College Experience: Strategies for Success*, Wadsworth, 2003.

Beverly Black, Martha Gach & Nancy Kotzian, *Guidebook for Teaching Labs: for University of Michigan Graduate Student Instructors*, The Center for Research on Learning and Teaching (CRLT), The University of Michigan, 1996.



開発スタッフ

名古屋大学 高等教育研究センター

戸田山 和久

夏目 達也

近田 政博 (プロジェクトチーム)

中井 俊樹

鳥居 朋子

齋藤 芳子

イラスト

スコーレ株式会社

名古屋大学新入生のためのスタディティップス ②

—自発的に学ぼう—

2007年3月10日 第2版

著者 名古屋大学 高等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-5696

info@csh.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社ダイテック デジタル印刷事業部

〒461-8620 名古屋市東区主税町四丁目85番地

TEL 052-932-5768 FAX 052-932-9666

odp@manah.net

© 名古屋大学高等教育研究センター

2007. Printed in Japan

ISBN978-4-901730-96-9



Ⅲ. 資料

資料 1. ミーティング議事録

資料 2. スタディティップス 2006 年版の表紙・裏表紙

資料 3. 平成 18 年度学生生活ガイダンスでのスタディティップス 2006 年版の紹介文

資料 4. スタディティップス 2006 年版の学生アンケート記録

資料 5. 広報媒体および新聞記事

資料 6. スタディティップス開発に関連する講演資料

Eagle(スタディ・ティップス研究会)の記録 (第1回～第10回分)

第1回 9月6日 午前10時～ 夏目、中井、近田、中島

これまでに蓄積したこと
これからやること・問題点
スケジュールづくり
試作版 (<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/stips/>)のレビュー

第2回 9月14日 午前10時～ 夏目、中井、近田、中島

- ・『IDE 現代の高等教育』No.473 「現代の学生と生活」のレビュー (夏目)
武内 清「学修と生活のバランス」13-17 頁
井下 理「学生サービス開発に向けたオフ・タイム行動の位置づけ」17-22 頁
佐藤浩章「学生支援策としてのピア・エデュケーションの可能性」27-31 頁

- ・Tinto 論文のレビュー (近田)

Vincent Tinto (1998), "Stages of Student Departure: Reflections on the Longitudinal Character of Student Leaving", *The Journal of Higher Education*, vol.59, no.4, pp.438-455

(「大学生の発達に関する諸段階：中途退学の特徴に関する考察」)

Vincent Tinto (1993), *Leaving College: rethinking the Causes and Cures of Student Attrition*, The University of Chicago Press, second edition.

(大学を中退するという事：学生数減少の原因と対策)

第3回 9月20日 午前10時～ 夏目、中井、近田、中島

N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-DiBrito, *Student Development in College: Theory, Research, and Practice*, Jossey-Bass, 1998 のレビュー

パート1：学生発達理論の理解と利用 (第2章) (近田)

パート2：心理学的・アイデンティティ発達の理論 (3, 4, 7章) (近田)

第4回 9月27日 午前10時～ 夏目、中井、近田

N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-DiBrito, *Student Development in College: Theory, Research, and Practice*, Jossey-Bass, 1998 のレビュー

パート3：認知・構造的理論 (第8, 9, 10, 11章) (中井)

資料1. ミーティング議事録

第5回 10月4日 午後2時～ 夏目、中井、近田

N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-DiBrito, *Student Development in College: Theory, Research, and Practice*, Jossey-Bass, 1998 のレビュー

パート4：分類学的理論（第12, 13, 14章）（夏目）

パート5：理論を実践にどう用いるか（第15, 16章）（近田）

第6回 10月13日 午後4時半～ 夏目、中井、近田

学習理論を用いたスタディ・ティップスの探索（近田）

・チッカリングの7つのベクトル

→Iowa Student Development Instruments

→Assessment Matters, University of Cincinnati

・『7つの習慣 ティーンズ編』

第7回 10月21日 午後1時半～ 夏目、中井、近田

国内外のスタディ・ティップスの基本要素をリストアップ（近田）
基本コンセプトの確認

第8回 11月8日 午前10時～ 夏目、中井、鳥居、近田

大まかなグルーピングを行う

中津川合宿でやることを決める

第9回 11月15日・16日 中津川合宿 戸田山、夏目、中井、鳥居、近田

基本目標を決定→scholarly citizen

基本構成を決定→大学論と学習論

アウトプットの方法を決定→小冊子に分冊化

第10回 12月8日 戸田山、夏目、中井、鳥居、近田

中津川合宿の成果の確認

役割分担の決定

基本フォーマットの決定

ベンチマーク文献の決定

Eagle (スタディティップス研究会) 第1回

2005.9.6
近田政博

0. 目標

名大新入生の学習意欲を高めるようなヒント、アイデアを提供する

1. これまでに進めてきたことの確認 (すべて学生支援特別経費報告書に掲載)

1-1. ST試作版の制作: アメリカの大学におけるスタディティップスの分析

→ 知的思考法の基本要素を抽出

キャリア・プランニング

協同学習

タイム・マネジメント

クリティカル・シンキング

1-2. ST試作品を名大生にモニター

基礎セミナー (1年生前期文系)

全学教養科目 (2年生後期全学部)

1-3. 名大生への学習意識調査 (2年生後期全学部)

名大生から後輩への学習アドバイス調査

大学での学習生活で困ったことの調査

能動的な学習ができない

授業が難しい

試験勉強の方法がわからない

質問・相談ができない など

1-4. 名大教員から新入生への学習アドバイス調査

A. 大学で学習するための習慣をどうやって身につけるか

B. 高校とは異なる大学の勉強方法をどうやって身につけるか

C. どうやったら自分自身の目標設定をすることができるか

D. 大学での学習生活を進めていく上でためになる本

2. これからやりたいこと

2-1. スタディティップス試作版の検討会

→ 学生のモニター結果を参考に、何が足りないのかを明らかにする

2-2. 大学生の学習・発達理論に関する研究会

理論的な裏付けがほしい

Nancy J. Evans et.al. (1998), *Student Development in College: Theory, Research and Practice*, Jossey-Bass. をレビューしたい

資料 1. ミーティング議事録

2-3. 適切なベンチマークを探す

アメリカのスタディティップスは授業教材であり、重すぎる
具体的なティップスがほしい

2-4. アウトプットのイメージを描く

知の思考法に限定したい
学習に関する領域に限定したい
ハンディな小冊子（30～50ページ程度）
新入生に配布したい
場面別に展開（教室、in キャンパス、out of キャンパスなど）
具体的な学習実践手法がわかる
読んで楽しく、ためになる
大学で学ぶ意欲がわく

3. 進め方

3-1. プロジェクト・チーフ 近田政博

3-2. 定期ミーティング 近田、中井+α

毎週月曜午後、あるいは火曜午前でどうか？

3-3. スケジュール

9月	実行計画づくり、試作版のレビュー、学習・発達理論のレビュー
10月	ベンチマークの確定
11月	基本構成の検討
12月	執筆
1月	執筆
2月	モニター、最終修正
3月	印刷、納品

4. 当面の計画

- ・ 9月 6日 試作版のレビュー
- ・ 9月13日 Tinto 論文のレビュー（大学生発達の諸段階）
- ・ 9月20日 学生発達理論のレビュー①
- ・ 9月27日 同上②
- ・ 10月 4日 同上③
- ・ 10月11日 発達理論のまとめ、スタディティップスへの適用可能性は？
- ・ 10月18日 ベンチマーク①
- ・ 10月25日 ベンチマーク②
- ・ 11月 1日 ベンチマーク③
- ・ 11月 8日 基本構成①
- ・ 11月15日 基本構成②
- ・ 11月22日 基本構成③
- ・ 11月29日 執筆①
- ・ 12月 6日 執筆②
- ・ 12月13日 執筆③
- ・ 12月20日 執筆④

5. 試作版のレビュー

5-1. 試作版の構成

はじめに
このティップスの使い方
スタッチ君の新生生日記
19場面
「学びの基本編」のメッセージ
第1章 大学を知ろう 自分を知ろうーまずは**目標**を立ててみよう
導入
本文
コラム
先輩の声
やってみよう
チェックリスト
第2章 ともに学ぶ**仲間**をつくろうー上手な対人関係の築き方
第3章 目標にトライしようー目標を実現するためのコツ
第4章 学ぶことっておもしろいー多様なものの見方を知ろう
役に立つ文献・情報
索引

5-2. 試作版の特徴

『成長するティップス先生』の構成をモデルにした
新生生日記
学びの基本編 (コラムやチェックリスト)
参考情報
アメリカのスタディティップスで強調されている知の思考法の概念を4点に整理
キャリア・プランニング
協同学習(Collaborative Learning)
タイム・マネジメント
クリティカル・シンキング

5-3. 試作版に対する学生の反応

文章が長い
具体例を増やす
絵やグラフがほしい
先輩の体験談を入れる
文章がくだけすぎではないか
困ったときに使える内容にしてほしい
日記の部分は作威的な感じがする

資料1. ミーティング議事録

5-4. 改善すべきだと思われる点

「学生のニーズを反映させる、しかし学生に媚びない！」

① 簡潔なティップス

現状では文章が長く、じれったい印象を与えてしまう

アメリカのスタディティップスは教科書なので、内容がヘビー→あまり参考にならず
ハンディで薄い小冊子がいい（ウェブ化よりも小冊子を望む声が多い）

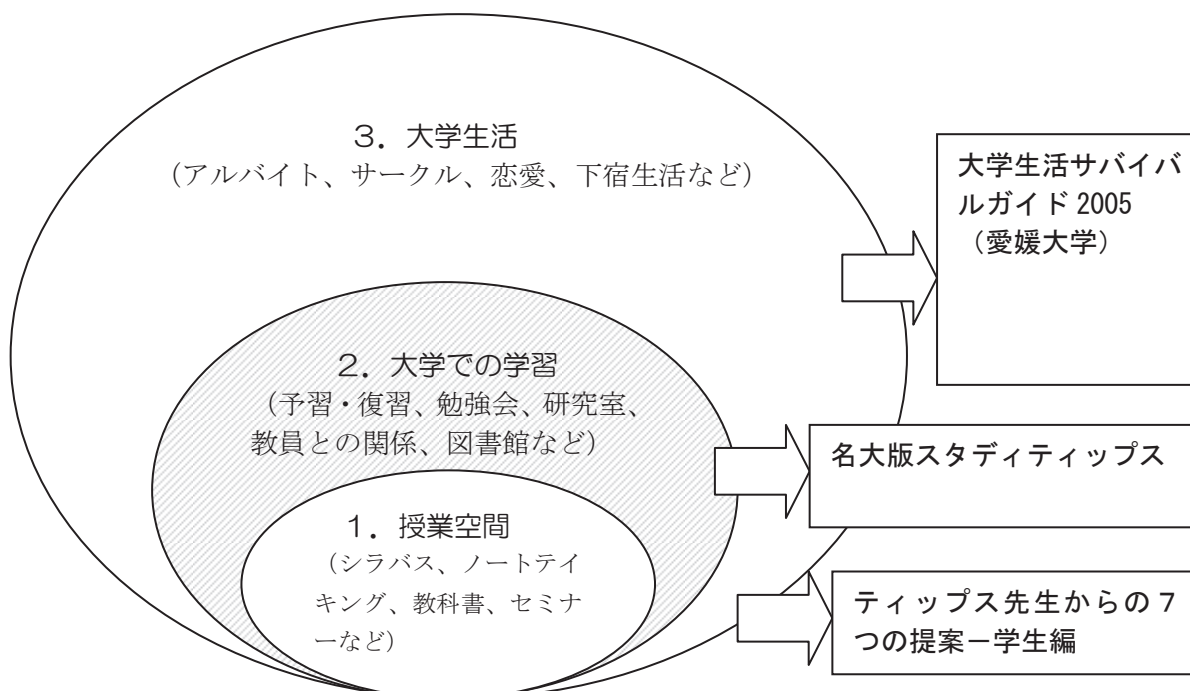
② 名大の先輩や教員の肉声を入れる

高等教育研究センターの教員が書き下ろしたのではなく、全学の教員・学生の知恵を結集し、高等教育研究センターが専門的知見をもとに編集したという形をとりたい

③ 明確な学習理論に基づいている

アメリカのスタディティップスもいくつかの有名な学習理論を紹介しているが、必ずしも内容は理論に基づいているわけではない。アカデミックな意味づけがなされていることは、スタディティップスへの信頼性を高めることになる。特に名大のような研究大学では必要。

5-5. 扱う範囲



Eagle (スタディ・ティップス研究会)

第 2 回

2005.9.14

近田政博

0. 目標

名大新入生の学習意欲を高めるようなヒント、アイデアを提供する

1. これからやりたいこと

1-1. スタディ・ティップス試作版の検討会

→学生のモニター結果を参考に、何が足りないのかを明らかにする

1-2. 大学生の学習・発達理論に関する研究会

理論的な裏付けがほしい

Nancy J. Evans et.al. (1998), *Student Development in College: Theory, Research and Practice*, Jossey-Bass. をレビューしたい

1-3. 適切なベンチマークを探す

アメリカのスタディ・ティップスは授業教材であり、重すぎる
具体的なティップスがほしい

1-4. 最終アウトプットのイメージを描く

知の思考法に限定したい

学習に関する領域に限定したい

ハンディな小冊子

新入生に配布したい

場面別に展開 (教室、in キャンパス、out of キャンパスなど)

具体的な学習実践手法がわかる

読んで楽しく、ためになる

大学で学ぶ意欲がわく

・名古屋大学に誇りを持てる・名大が好きになる (中井)

→名大のローカル情報を盛り込む

→誇りに思えるようなエピソードを集める

・いくつかの時期にわけ分冊化したらどうか (夏目)。たとえば、

入学前: 2~3月 「大学と高校のちがい」「大学とはどういうところ？」

入学時: 4月 「大学での学び方」

試験前 「大学の試験とは?」「将来について考えてみよう」

秋 「名大はどんな研究をしているか?」

・扱う範囲は、1. **授業空間** < 2. **大学での学習** < 3. 大学生活全般

でいうと1と2にあたる (近田)

資料1. ミーティング議事録

2. 進め方

- 2-1. プロジェクト・チーフ 近田政博
- 2-2. 定期ミーティング 近田、中井+α
毎週月曜午後、あるいは火曜午前でどうか？
- 2-3. スケジュール
 - 9月 実行計画づくり、試作版のレビュー、学習・発達理論のレビュー
 - 10月 ベンチマークの確定
 - 11月 基本構成の検討
 - 12月 執筆
 - 1月 執筆
 - 2月 モニター、最終修正
 - 3月 印刷、納品

3. 当面の計画

- ・ 9月 6日 試作版のレビュー (済)
- ・ 9月 13日 Tinto 論文のレビュー (大学生発達の諸段階) (本日)
- ・ 9月 20日 学生発達理論のレビュー①
- ・ 9月 27日 同上②
- ・ 10月 4日 同上③
- ・ 10月 11日 発達理論のまとめ、スタディ・ティップスへの適用可能性は？
- ・ 10月 18日 ベンチマーク①
- ・ 10月 25日 ベンチマーク②
- ・ 11月 1日 ベンチマーク③
- ・ 11月 8日 基本構成①
- ・ 11月 15日 (火) ~ 16日 (水) 基本構成② 第1回合宿 (中津川研修所)
目的: アウトラインを固める
- ・ 11月 22日 基本構成③
- ・ 11月 29日 執筆①
- ・ 12月 6日 執筆②
- ・ 12月 13日 執筆③
- ・ 12月 20日 執筆④
- ・ 2月 8日 (水) ~ 10日 第2回合宿 (場所未定)
目的: コンテンツを固める

4. 試作品から改善すべき点

「学生のニーズを反映させる、しかし学生に媚びない！」

①簡潔なメッセージ

現状では文章が長く、じれったい印象を与えてしまう
アメリカのスタディ・ティップスは意外に参考にならない (教科書なので)
ハンディで薄い小冊子がいい (ウェブ化よりも小冊子を望む声が多い)

②名大の先輩や教師の肉声を入れる

高等教育研究センターの教師が書き下ろしたのではなく、全学の教師・学生の知恵を高等教育研究センターが編集したという形をとりたい

③明確な学習理論に基づいている

アメリカのスタディ・ティップスも理論を紹介しているが、理論に基づいているわけではない。アカデミックな意味づけがなされていることは、スタディ・ティップスへの信頼性を高めることになる。特に名大のような研究大学では必要。

5. 『IDE 現代の高等教育』No.473 「現代の学生と生活」のレビュー（夏目先生）

6. Tinto 論文のレビュー（近田）

Vincent Tinto (1998), "Stages of Student Departure: Reflections on the Longitudinal Character of Student Leaving", *The Journal of Higher Education*, vol.59, no.4, pp.438-455
 (「大学生の発達に関する諸段階：中途退学の特徴に関する考察」)

キーワード：student departure, student leaving, student persistence, rites of passage, learn the rope

・この論文の目的：社会人類学の「通過儀礼」(Rites of Passage)の概念を援用して、大学生の大学社会への適応段階を説明する

・大学入学後の最初の6ヶ月間は、学生を大学につなぎ止める(student persistence)上で非常に重要な意味を持つ

・Arnold Van Gennep (アーノルド・ファン・ヘネップ) オランダの人類学者、1909年
 ・人生はいくつかの段階からなる。それまで属していた社会から次に属する社会に移行するには、一定の儀礼(rites)に参加する必要がある。
 ・社会人類学でいうところの伝統社会の通過儀礼は次の3つの段階をたどる。たとえば、身内を喪った場合など、葬式→服喪→喪明け の過程を経て一般社会に再統合される。

第一段階：分離期(separation)	従来の地位、状態、集団からの離別。 不安、混乱、方向感覚を失う。
第二段階：過渡期(transition)	これまでの状態でなく、新しい状態にもなっていない 孤立、試練、学習などを経験する
第三段階：統合期(incorporation)	新しい仲間になるための儀式

・この三段階は、高校生が大学生になっていく過程にも当てはまるのではないか

分離期：高校まで育った地域、家庭、友だちとの別離

過渡期：大学での新しい環境に戸惑う、孤立感を深める。一時的な混乱状態
この混乱を耐えがたい学生もいる。だから大学からの組織的な支援が必要

統合期：大学での新しい人間関係の構築。新しい規範の受容。
友愛会、学生寮の自治会、学生自治会、課外活動、体育会などが機会を提供

資料 1. ミーティング議事録

- ・ 自宅通学生の場合、分離期のショックが小さい分、反対に統合期の成果も小さくなる
- ・ 大学の行動様式や規範と距離のある環境（家庭、学校、地域）出身の学生ほど、大学への適応に困難を抱える。→第一世代(first generation)問題
- ・ 提案：オリエンテーションは最初の数日だけではなく、6週間くらいかけて行ったらどうか
オリエンテーションの意味は大学紹介から知的探求の始まりへと変わってゆく
- ・ 結論：学生をつなぎとめる手段として、公的儀式をもっと活用したらどうか
たとえば、KK大学のH学長は、入学式で入学生全員と握手する

【近田の感想】

Tintoの説明は、大部分の新入生が学生寮に入る方式を前提としている

あえて名大生に即して言うと、次のようになるのか？

分離期（引っ越し～入学まで）：下宿に引っ越し、入学手続き、生活環境の整備

過渡期（入学～名大祭）：授業の履修、友人づくり、クラブ探し

統合期（名大祭～）：おもしろい授業を発見、何人かの友人ができる、クラブに入る

過渡期が重要な意味を持つということか？

大学から働きかける際の重要な要素は何か？

【補足】

Vincent Tinto (1993), *Leaving College: rethinking the Causes and Cures of Student Attrition*, The University of Chicago Press, second edition. (大学を中退するということ：学生数減少の原因と対策)

p.114 の図（大学中退に至る経緯）をみると、学生が大学を辞める理由は、学習上の困難と大学生活への適応上の困難の二種類に大別される。その原因には、フォーマル（公的）なものと同フォーマル（私的）なものがある。

学習上の困難 → 「学問的統合」(academic integration)に失敗
公的：学業成績不振 私的：教員との不和

大学生生活上の困難 → 「社会的統合」(social integration)に失敗
公的：課外活動の失敗 私的：クラスメイト(peer group)との不和

Tintoによると、学問的統合と社会的統合の重要性は優劣つけがたいが、学業成績は大学生活の最低限の必要条件である。

【近田の感想】

- ・ 大学生活にとって「社会的統合」が欠かせないというなら、名大版スタディ・ティップスにとっての「社会的統合」はどういう意味を持つか？
将来について考えること、適切な人間関係の構築など？
- ・ 名大版スタディ・ティップスでは、「学問的統合」のみを扱えばよいのか？

Eagle ミーティング第 3 回

Student Development in College: Theory, Research, and Practice

By N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-DiBrito Jossey-Bass, 1998

2005.09.20

近田政博

*本書の対象

学生支援の実務に携わっている人に、今日の大学生がどのような発達上の課題を抱えているかを理解してもらう手助けをすること

*本書で扱う理論が満たす条件

- ・一定範囲の哲学的・方法論的な視座を提供する
- ・教育学の文献によく引用される
- ・現実の教育状況に適用できる

第 2 章 理論をどう使うか

*大学生の発達理論の有効性を評価する視点 (Knefelkamp, 1978)

- ・理論の根拠となっている学生層が明確か?
- ・どうやって理論を作ったか? 評価方法・技術など
- ・事実を十分に把握しているか? (descriptive)
- ・発達のプロセスを十分に説明しているか? (explanatory)
- ・転用可能な規範を示しているか? (prescriptive)
- ・さらなる研究を刺激するか? (heuristic)
- ・実際に役立つか? (useful)

* 理論と実践を関係づける 11 のステップ (Knefelkamp, Golec, Wells, 1978)

PTP モデル(The Practice to Theory to Practice Model)

実行準備をする (practice)

1. 関心を明確にする
2. 目標と得られる成果を定める

状況を把握する (description)

3. 有効だと思われる理論について調査する
4. 対象となる学生集団の特性を分析する
5. 環境を分析する

実行可能性を探る (translation)

6. 潜在的な問題点や得られるサポートを明らかにし、学生集団とそれを取り巻く環境特性を考慮し、均衡を作り出す諸要因を理解する

資料 1. ミーティング議事録

処方箋を作る (prescription)

7. 目標と得られる成果を再検証する
8. 有効な方法を用いて実行計画を立てる

実行する (practice)

9. 計画を実行する
10. 成果を評価する

*The Grounded Formal Theory Model (Rogers and Widick, 1980)

1. 問題の所在、状況、対象となる学生集団を明らかにする
2. 有用と思われる理論を選ぶ
3. 理論を現実に適用するための方法を検討する (評価、データなど)
4. 目標を描く
5. 実行計画を立てる
6. 理論を事例に適用し、プロセス評価を行う
7. 実行結果を評価して、理論の問題点を抽出する

*The Cube Model (Morrill, Oetting and Hurst, 1974)

Cube の3つの次元 (対象、目的、方法)

対象	学生個人、第一次集団、学生組織、大学・地域社会全体
目的	改善(remediation)、防止(prevention)、発展(development)
方法	学生への直接サービス、サービスを提供する人へのコンサルテーション、メディア媒体による情報提供

*The Developmental Intervention Model (Evans, 1974)

対象	学生の態度、知識、行動様式
関与のタイプ	計画的な関与、反応的な関与
関与のアプローチ	明示的な関与、非明示的な関与

*学生の行動様式を説明する等式 (Kurt Lewin, 1936)

$$B=f(P \times E)$$

人間の行動様式は、人格と環境の相互作用によってつくられる

*学生参加が学生の発達に及ぼす影響 (Astin, 1984)

「学生参加(involvement)とは、学生が大学生活に費やす物理的・心理的なエネルギー量を指す」

1. 参加とは、学生がさまざまな対象において物理的・心理的なエネルギーを投入することである。その対象は、大学生活に関することすべてがあてはまる
2. その対象にかかわらず、学生参加は連続体(continuum)として起こる (個体差がある)
3. 学生参加は量的であり、かつ質的である
4. 学生の学習量と人格形成の度合いは、その教育プログラムに学生が参加した質と量に比例する
5. 教育政策・実践の有効性は、それがどれほど学生参加度を高めかということに直結する

*理論を用いる際に留意すること

- ・用語の意味を丁寧に説明し、その利用が正しいことを示す証拠を提示すること
- ・理論は一般現象を説明しようとするが、その一方で学生一人一人が固有の存在であることを忘れないこと
- ・教師は学生を望ましい方向に誘導できる無抵抗の存在であると考えがちだが、そのように考えてはならない。教師の役割は、学生に対して決定を下すことではなく、彼らの自信がつくような成長条件を提供することである。

第3章 チッカリング：アイデンティティ発達理論

*「7つのベクトル」(Chickering, *Education and Identity*, 1969)

大学生のアイデンティティ形成は直線的ではなく、らせん的あるいは段階的に次の社会・心理的発達を遂げる。これらのベクトルは、「個性化に向かう旅の道のり」(major highway for journeying toward individuation) 発達は感情的、人間関係的、倫理的、知的な面に及ぶ。

1. 専門能力を身につける(Developing competence)
知的能力、身体能力、人間関係能力の3つから構成される
2. 感情をコントロールする(Managing emotions)
大人として責任ある振る舞いができるようになる
3. 自立から相互依存関係に移行する(Moving from autonomy toward interdependence)
感情的自立と学問的自立
他者と互いに結びついていることに気づく
(以前は「自立心を養う」(developing autonomy)だった)
4. 成熟した人間関係を築く(Developing mature interpersonal relationships)
異なる文化や人に対する寛容さを身につける
他者と親密な関係を持続する
5. アイデンティティを形成する(Establishing identity)
性別、民族などによるアイデンティティの多様性を認めるようになる
6. 目的意識を養う(Developing purposes)
職業上の明確な目標、特定個人への関心をもつ
7. 全体性を養う(Developing integrity)
理想主義的な考え方から、より人間的な価値体系の発達へ(humanized)
基本的価値を意識的に肯定し、他人の考え方を尊重する(personalized)
価値や行動がより調和の取れた、信頼のおけるものになる。(congruence)

*学生の発達に影響を及ぼす7つの教育環境

大学の目標
大学の規模
学生と教員の関係
カリキュラム
授業
友人関係、学生コミュニティ
学生のための発達プログラムとサービス

第4章 ジョセルソン：女子学生のアイデンティティ形成理論

*エリクソンのアイデンティティ論(Erickson, 1959/1980, 1963, 1968)

アイデンティティとは、「自己確立」ないしは「自分固有の生き方や価値観の獲得」である。ここでいう「自己」とは、内省によってみいだされる主観的自己であるよりは、社会集団のなかで自覚され、評価される社会的自己のことである。個人は共同体の固有の価値観に自己を同一化し、そのなかでさまざまな社会的役割を積極的に引き受けることによって自己を確立する。

個人は社会生活の内ですさまざまな役割を課せられており、しかもこれら複数の自分を絶えず統合して生きていく。この統合ができなくなる状態を「アイデンティティの危機」(identity crisis)という。この危機は発達過程の途上でたえず個人を襲う。発達過程とは個人が慣れ親しんだ内と外の世界に変化が生じ、あるいは新しい環境に出会い、そこで葛藤に巻き込まれていくことである。

*人生におけるアイデンティティ発達の8段階(Erickson, 1959/1980)

第1段階から第4段階までは子ども時代に経験する

- 第1段階 基本的信頼⇔不信
- 第2段階 自立性(autonomy)⇔恥・疑問
- 第3段階 自発性(initiative)⇔罪悪感
- 第4段階 努力(industry)⇔劣等感(inferiority)

子どもから大人になる過渡期

- 第5段階 アイデンティティ⇔アイデンティティ拡散(identity diffusion)
ジョセルソンの女子学生のアイデンティティ発達理論はここから生まれた

アイデンティティを確立した後の段階

- 第6段階 親密さ(intimacy)⇔孤独(isolation)
- 第7段階 生成力(generativity)⇔停滞(stagnation) 中年期における社会貢献
- 第8段階 完成(integrity)⇔絶望(despair) 老年期における自己肯定と人生の意味

*女子学生の4類型(R. Josselson, 1971)

1. 伝統を守り通す型(Foreclosure: purveyors of the heritages) Foreclosure:質流れ
アイデンティティ危機がない
幼少期の考え方をいちずに守り通す
両親の価値観を継承する
勤勉、責任感、有能
家庭との一体化、よき妻・母親でありたい
2. 自分でアイデンティティを形成する型(Identity Achievements: Pavers of the way)
幼少期の心理・社会的つながりと決別
両親を喜ばせたいという自尊心に決別し、自分の力でアイデンティティを形成する
自分になりたいイメージを自分で探す
両親の期待とは反対の方向に意思決定したがる→専門を決めるのに苦労する

3. モラトリアム型：危機にある女子学生(Moratoriums: Daughters of the Crisis)

幼少期は過保護で子どもに過大な期待をする母親に育てられる
母親のようにはなりたくないと思い、父親を理想化する
大学時代には両親に認めてもらえないような行動をとりたがる

4. アイデンティティ拡散型(Identity Diffusions)

健康面、自我形成などで他のタイプよりも発達度が低い
人間関係づくりに問題を抱えている
不安度が大きい
現状逃避したがる
上記の3つの型との組み合わせがある

* 女子学生の特性、男子学生と女子学生の違い

- ・ 女性は他人の決断、政治・宗教的な信条よりも、その人の性格(the kind of person to be)を重視する傾向がある
- ・ 女性にとっての人間関係は、手段というよりも、それ自体が目的である。
(Josselson, 1973)
- ・ 青年後期の男子学生は学力や知識を通してアイデンティティを発見する傾向にある
- ・ 女子学生は他者との関係性や親密性の中でアイデンティティを見つける傾向が強い。
(Hodgson & Fischer, 1979)
- ・ 精神的に未熟な女子は物欲と享楽に走りやすい
- ・ 精神的に成熟した女子はそれほど物欲や享楽に走らず、自分自身を振り返り将来を考える(Josselson, 1977)
- ・ 女性にとって人間関係は流動的であり、多面的で複合的で矛盾をはらむ
- ・ 男性にとって人間関係は安定的で持続的なもの
(Josselson, 1992)

第7章 シュロスバーグ：移行理論

* 移行(transition)とは、「人間関係、日常業務、前提、役割などを変えることになるような出来事あるいは実際には起こらなかった出来事」を指す(Schlossberg, 1995)

* 4つの S：移行期を乗り切る人間の能力に影響を及ぼす4つの要因(Schlossberg et al., 1995)

Situation (状況)	誘因、タイミング、管理、役割変化、期間、経験、ストレス、評価
Self (自己)	個人的・人口統計的特性、心理的素質
Support (支援)	類型、機能、測定
Strategies (戦略)	形態、対処方法

Student Development in College: Theory, Research, and Practice

By N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-DiBrito

Jossey-Bass, 1998

2005.10.04

近田政博

Chapter 15 Using theories in combination

発達理論を用いることの利点

- ・ **学習や人格形成上の目標**を達成する際の手引きとなる。
- ・ さまざまなプログラム、学生への関与、サービスのうち、**何が重要なのか**を教えてくれる
- ・ **学務と教務が協同して**活動することをサポートする
- ・ 発達理論を学ぶことによって、教員は学生のことを理解しようとし、**効果的な授業デザイン**に努めるようになる
- ・ 発達理論を用いたプログラムや学生への関与策についての**評価レポート**を活用することによって、さまざまな選択肢が考えられる
- ・ 発達理論は**大学キャンパスに関する総合的な研究**を計画・実行する基礎となる
- ・ **専門用語をできるだけ少なくし**、学習理論の潜在的ユーザー（教員など）を支援し、いかに有効に学習理論を活用したかを紹介することが、発達理論のことをよく知らない人にも大きな説得力をもつ。

Chapter 16 Future directions for theory in student development practice

発達理論に対する批判

- ・ 理論のもとになっている被験者が特定の同質的な集団に限られている。
欧米、中産階級、知識人
- ・ 発達理論は、心理学的アプローチによる個人の内的発達に重きを置いているが、外部環境の及ぼす影響力については十分に検討されていない

これからの発達理論はどうあるべきか

1. もっと**総合的に**、そして**単線型でない形**が望ましい
2. ヨーロッパ中心的な発想から脱却し、**多様な学生集団**を視野に入れるべきである
3. **これまで捨象されてきた学生集団（障害者、少数民族、貧困層など）**の声を取り入れる
4. **人生全体を通しての発達**を研究する
5. **長期間にわたる**定点観測研究が必要
6. **環境が発達に及ぼす影響**を考慮すべき
7. 発達に及ぼす諸要因を分析すべき—**発達過程の動態**をもっと知るべき
8. 発達のさまざまな**諸側面の相互関連**を研究すべき
9. 発達の**評価方法**を開発すべき
10. 教育者は**理論をどう活用するか**をもっと考えるべき
11. **特定の環境**に適切な intervention の方法を検討すべき
12. あらゆる発達上の intervention は**評価活動**を伴うべき
13. **評価レポート**を出版することが求められる
14. 教育実践の場で**理論を用いる**ことを奨励すべき
15. どんな理論にも**作者の価値観や時代**が投影されていることを、教育者は知るべき

Eagle 第7回

国内外のスタディ・ティップスの基本要素を抽出する

—とりあえずの10冊—

2005/10/21

基本方針

1. とりあえず最もポピュラーな10冊を選択。条件は、次の4点。
 - ・大学新生向けに書かれていること（教師向けでない）
 - ・知的思考法について触れられていること
 - ・広範に読まれていること
 - ・特定テーマに限られていないこと（論文の書き方、九州大学の歴史など）
2. 下記の項目をKJ法で分類する
3. いくつかの視点から絞り込む
 - ・知的思考法(Academic thinking, Active learning)としてふさわしいか？
 - アルバイトや恋人探しは要らない
 - あまりにも基本的な学習スキルはいらない
 - ・名大新生の状況に当てはまるか？
 - あまりにも大衆化している必要はない
 - ・入学後半年間に不可欠の要素かどうか？
 - 大学にどう適応するか
 - 就職対策や大学院進学の方法論は要らない

参考文献

- ①AERA MOOK(2004)『勉強のやり方がわかる。』朝日新聞社
- ②コーンハウザー(1995)『大学で勉強する方法』玉川大学出版部（原著は1993年）
- ③ショーン・コヴィー(2005)『7つの習慣ティーンズ』キングベアー出版（原著は1998年）
- ④北尾謙治ほか(2005)『広がる知の世界 大学でのまなびのレッスン』ひつじ書房
- ⑤田中共子編(2003)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
- ⑥荻谷剛彦(1996)『知的複眼思考法』講談社
- ⑦愛媛大学教育・学生支援機構(2005)『大学生活サバイバルガイド』愛媛大学
- ⑧Cal Newport (2005), *How to Win at College: surprising secrets for success from the country's top students*, Broadway.
- ⑨ J.N.Gardner & A.J.Jewler (2003), *Your College Experience: strategies for success*, Wadsworth.
- ⑩Stella Cottrell (1999), *The Study Skill Handbook*, Palgrave Macmillan.

Eagle (スタディ・ティップス研究会)

第 8 回

2005.11.8

近田政博

今日の目的

- ・ティップスの大まかなグループ化を行う(近田案の検討)
- ・11月15日中津川合宿で、何をどこまでやるのかを決める

1. 大まかなグループ化を行う(ボトムアップ方式)

2. 中津川合宿の内容(案)

- ・ティップスのグループング作業(午後)
 - KJ法
- ・全体のマネジメント(夜)
 - 最終成果物の基本構造を固める
 - 役割分担を決める
 - 基本スケジュールを決める
- ・グループに基づいて、具体的なティップスを選別する(翌日午前)

*これまでの議論

最終成果物のイメージ

- 知の思考法に限定したい
 - 学習に関する領域に限定したい
 - ハンディな小冊子
 - 新入生に配布したい
 - 場面別に展開 (教室、in キャンパス、out of キャンパスなど)
 - 具体的な学習実践手法がわかる
 - 読んで楽しく、ためになる
 - 大学で学ぶ意欲がわく
 - ・名古屋大学に誇りを持てる・名大が好きになる (中井)
 - 名大のローカル情報を盛り込む
 - 誇りに思えるようなエピソードを集める
 - ・いくつかの時期にわけ分冊化したらどうか (夏目)。たとえば、
 - 入学前: 2~3月 「大学と高校のちがい」「大学とはどういうところ？」
 - 入学時: 4月 「大学での学び方」
 - 試験前 「大学の試験とは?」「将来について考えてみよう」
 - 秋 「名大はどんな研究をしているか?」
 - ・扱う範囲は、1. 授業空間 < 2. 大学での学習 < 3. 大学生活全般
- でいうと1と2にあたる

試作品から改善すべき点

「学生のニーズを反映させる、しかし学生に媚びない！」

①簡潔なメッセージ

ハンディで薄い小冊子がいい（ウェブ化よりも小冊子を望む声が多い）

②名大の先輩や教師の肉声を入れる

全学の教師・学生の知恵を高等教育研究センターが編集したという形をとりたい

③明確な学習理論に基づいている

アカデミックな意味づけがなされていることは、スタディ・ティップスへの信頼性を高めることになる。特に名大のような研究大学では必要。

* 基本フォーマット(案)

小冊子

全24ページで4～6分冊

表紙「名古屋大学新入生のためのスタディ・ティップス ○○編」

表紙裏 このスタディ・ティップスのねらい

1 頁目 この分冊のねらい（基本メッセージ）

2 頁目 この分冊の使い方

3 頁目 目次（全体の構造）

4 頁目 ティップス① 主題と基本説明（イラスト入り）

5 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

6 頁目 ティップス② 主題と基本説明（イラスト入り）

7 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

8 頁目 ティップス③ 主題と基本説明（イラスト入り）

9 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

10 頁目 ティップス④ 主題と基本説明（イラスト入り）

11 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

12 頁目 ティップス⑤ 主題と基本説明（イラスト入り）

13 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

14 頁目 ティップス⑥ 主題と基本説明（イラスト入り）

15 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

16 頁目 ティップス⑦ 主題と基本説明（イラスト入り）

17 頁目 先輩の事例、教員からのアドバイス

18 頁目 コラム①

19 頁目 コラム②

20 頁目 コラム③

21 頁目 コラム④

22 頁目 チェックリスト

23 頁目 参考文献

24 頁目 困ったときは？

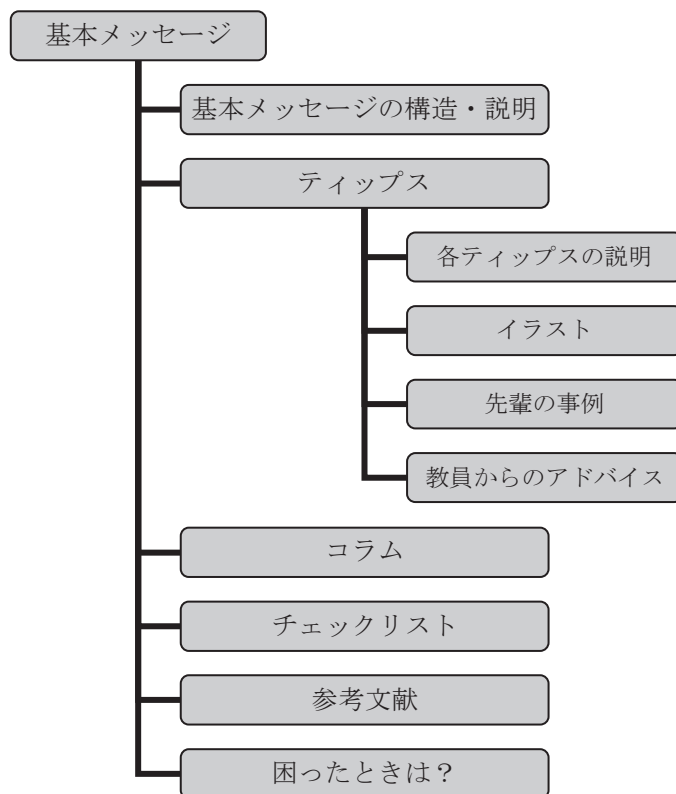
奥付 開発スタッフ一覧

役割分担

基本スケジュール

資料 1. ミーティング議事録

基本構造(案)



Eagle 第8回

国内外のスタディ・ティップスの基本要素を抽出する

－基本文献 13冊から－

2005/11/8

基本方針

1. とりあえず最もポピュラーな13冊を選択。条件は、次の4点。
 - ・大学新生向けに書かれていること（教師向けでない）
 - ・知的思考法について触れられていること
 - ・広範に読まれていること
 - ・特定テーマに限られていないこと（論文の書き方、九州大学の歴史など）
2. 下記の項目をKJ法で分類する
3. いくつかの視点から絞り込む
 - ・知的思考法(Academic thinking, Active learning)としてふさわしいか？
→アルバイトや恋人探しは要らない
 - ・名大新生の状況に当てはまるか？
→全寮制やアメリカ独特の要素は要らない。研究大学としての特徴がほしい。
 - ・入学後半年間に不可欠の要素かどうか？
→最初に必要な要素は？大学にどう適応するか

参考文献（網掛けは追加分）

- ①AERA MOOK(2004)『勉強のやり方がわかる。』朝日新聞社
- ②コーンハウザー(1995)『大学で勉強する方法』玉川大学出版部（原著は1993年）
- ③ショーン・コヴィー(2005)『7つの習慣ティーンズ』キングベアー出版（原著は1998年）
- ④北尾謙治ほか(2005)『広がる知の世界 大学でのまなびのレッスン』ひつじ書房
- ⑤田中共子編(2003)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
- ⑥荻谷剛彦(1996)『知的複眼思考法』講談社
- ⑦愛媛大学教育・学生支援機構(2005)『大学生活サバイバルガイド』愛媛大学
- ⑧Cal Newport (2005), *How to Win at College: surprising secrets for success from the country's top students*, Broadway.
- ⑨ J.N.Gardner & A.J.Jewler (2003), *Your College Experience: strategies for success*, Wadsworth.
- ⑩Stella Cottrell (1999), *The Study Skill Handbook*, Palgrave Macmillan.
- ⑪ University of South Carolina, *Transitions 2002-2003: Tools for Success: Today and Tomorrow*, A University 101 Publication.
- ⑫ Karen Scouller(2001), *First Year Experience Series: Understanding Yourself*, The University of Sydney.
- ⑬ Karen Scouller(2000), *The Reflective Student: Being a More Effective Learner*, The University of Sydney.

スタディ・ティップスの諸要素

ノートの取り方①

プレゼンテーションの方法①

ディスカッションの進め方①

大学の試験・成績評価①

本の読み方①

論文の書き方①

資料・文献の探し方①

資料の整理法①

図書館の活用法①

コンピュータの活用方法①

単位、理由、学期制、セメスター①

学び、シラバス、学習計画①

授業形態①

科目の種類①

大学教員について①

大学教員との付き合い方①

事務組織について①

勉強につまずいたら①

実験の方法①

フィールドワーク①

社会調査の方法①

学習技術・習慣を身につける①

学習面における高校との違い①

学習履歴を知ろう①

大学に必要な能力①

勉強することの意味②

効率的な勉強をするために必要なこと②

集中するための条件②

勉強のためのシステムと継続性②

効率的な読み方②

聴き方、ノートの取り方②

記憶力の高め方②

試験の受け方②

知識を使えるようにする方法②

効果的な勉強のためのルール②

主体的な人とはどんな人か？③

自分のミッション・ステートメントをどうやって書くか？③

現実的な目標設定③

時間管理の方法③

真のコミュニケーションとは？③

相乗効果をもたらす人間関係③

生活の基本とは(身体、知性、感情、精神)?③

大学の起源④

高校との違い④

大学でしかできないこと④

大学生活の目標④

タイムマネジメント④

履修と登録④

カリキュラム④

クラスの種類④

シラバス④

成績④

ノートの取り方④

大学生のための読解④

情報収集の方法④

インターネットの活用法④

テーマの選び方④

ブレインストーミング④

情報の整理④

レポートや論文の書き方④

プレゼンテーションの方法④

テストの準備④

大学と高校との学びの違い⑤

大学での学び方⑤

大学での授業の種類⑤

先生とのつきあい方⑤

成績評価の方法⑤

講義の聞き方⑤

ノートの取り方⑤

本の読み方⑤

レポートの書き方⑤

引用の方法⑤

図表の作成・利用法⑤

夏休みの活用法⑤

質問の方法⑤

グループ討論の方法⑤

口頭発表の方法⑤

実験・実習の方法⑤

野外実習の方法⑤

映画で学ぶ⑤

大学の学びは何の役に立つのか⑤

英語で勉強する方法⑤

文献の探し方、活用法⑤

研究論文の読み方⑤

統計解析ソフトの使い方⑤

資料 1. ミーティング議事録

自分の問いを探す⑤
研究計画を立てる⑤
専攻分野の決め方⑤
学びに迷ったとき⑤
進路決定への道のり⑤
留学生と友だちになるには⑤

複眼思考とは？⑥
批判的読書の方法⑥
論理的に文章を書く⑥
批判的に文章を書く⑥
問いを立てる⑥
因果関係、相関関係⑥
問いを一般化・抽象化する⑥
ものごとの二面性(多面性)に注目する⑥

入学式前後の過ごし方⑦
大学の授業とは？⑦
教員・職員との付き合い方⑦
勉強方法⑦
住まい⑦
一人暮らし⑦
買い物⑦
友人関係⑦
恋愛⑦
家族⑦
部活・サークル⑦
アルバイト⑦
ボランティア⑦
学外活動⑦
就職・インターンシップ⑦
休日の過ごし方⑦
長期休暇の過ごし方⑦
ファッション⑦
一般的アドバイス⑦

日曜日の過ごし方⑧
授業のプライオリティ⑧
朝起きるための方法⑧
生活習慣のコツ(食生活、睡眠、毎日笑う、楽しみを見つける)⑧
自分の学習スタイルをつくる(50分単位で勉強しろ)⑧
教師と仲良くなる⑧
プロジェクトに参加しよう⑧
授業の受け方(質問を用意する)⑧
効果的な履修の方法(難しい授業は早いうちに取っておく)⑧
試験勉強の方法⑧

授業時間外学習の方法(秘密の勉強スペースなど)⑧

友人関係(卓越した達成者を探す)⑧

教員との関係⑧

人の話を聴く姿勢を身につける⑧

目標の設定方法⑧

学科の中で居場所を見つける⑧

ボランティア活動⑧

自分で締切を決める(タイムマネジメント)⑧

夏休みの活用方法⑧

インターネットにはまらない⑧

タイムマネジメント⑨

批判的思考法の4つの側面⑨

アクティブ・ラーニング⑨

自分の最適な学習スタイルは?⑨

ノートの取り方⑨

アサインメントの読み方⑨

試験対策⑨

知的誠実性⑨

うまく話せるようになる6つのステップ⑨

うまく書けるようになる3つのステップ⑨

インターネットの活用法⑨

コンピュータの活用法⑨

コンピュータ利用上のエチケット⑨

コンピュータ利用上の倫理的・法的問題⑨

理数系科目をどう克服するか⑨

専攻を決める⑨

アカデミック・アドバイザー⑨

対人関係(友人、恋人、両親、ネット友だち、ルームメイト)⑨

キャンパスの多様性(文化、民族性、年齢、性別、能力)⑨

ストレス対策⑨

キャンパス内の犯罪⑨

セックス⑨

アルコール、ドラッグ⑨

大学生活の経済的側面⑨

自立した学習の利点と危険性⑩

Eラーニングの基本⑩

健康管理⑩

大学に入学する前にやっておくべき8つのこと⑩

知性とは何か:9つの考え方⑩

学習するとはどういうことか⑩

学習のための6条件⑩

学習のための Cream 戦略⑩

自分の学習スタイルを知ろう

自省的学習⑩

資料 1. ミーティング議事録

- 学習するための空間⑩
 - 時間を上手に使う10の方法⑩
 - コンピュータをうまく使うコツ⑩
 - 受け身学習と積極的な学習はどちらがう？⑩
 - 他人と協働作業をする方法⑩
 - グループワークのコツ⑩
 - 生産的なグループを作るコツ⑩
 - グループでトラブルが発生したときの対処方法⑩
 - 偏見、不公平、差別⑩
 - 賢い本の読み方⑩
 - 剽窃⑩
 - 注、引用、参考文献のつけ方⑩
 - 授業を上手に受けるコツ⑩
 - 問題解決の方法⑩
 - 書くためのコツ⑩
 - レポートを書くための7ステップ⑩
 - 論文を書くときによく用いる動詞⑩
 - アウトラインの作り方⑩
 - 書いた文章をチェックする方法⑩
 - 読むときの批判的思考法⑩
 - 書くときの批判的思考法⑩
 - 記憶の3段階⑩
 - ピラミッド型の思考法⑩
 - 試験対策⑩
 - ストレス管理の方法⑩
-
- 大学の理念・歴史・文化を知る⑩
 - 大学のマーク、校歌について知る⑩
 - 大学の財源の収支内訳を知る⑩
 - フィットネスセンターのオープンについて⑩
 - 大学周辺の観光スポット⑩
 - 観劇、映画、音楽、美術館などの利用⑩
 - サウスカロライナ大学の信念⑩
 - 教養とは何か⑩
 - 知的誠実さ、大学のルール⑩
 - 大学でやってはいけないこと⑩
 - 学生が大学経営に参加すること⑩
 - 単位の登録、取得について⑩
 - 学則を知る⑩
 - 必要単位取得数(GPA)を知る⑩
 - さまざまな賞(honors)を知る⑩
 - 学生のための大学内にあるさまざまなサービス施設を活用する⑩
 - サービス施設のアポイントの取り方⑩
 - 金銭の自己管理⑩
 - クレジットカード使用上の注意⑩
 - 学生への経済支援、学生ローン⑩

- やりたくないことから始める①
- やるべきことを細かく分類する①
- 自分にごほうびを与える①
- ✓切を早めに設定する①
- さまざまなタイプのカレンダー(スケジュール帳)を活用する①
- 日課の優先順位を決める①
- 現実的な目標を設定する①
- テレビや電話は自制する①
- 勉強時間を毎日ちゃんと確保する①
- 学期の早いうちに教員をたずねる①
- ノートを見直す①
- 旅先に講義テープを持参する①
- 断ることを覚える①
- リラックスする時間をもつ①
- 計画表の作成①
- 優先順位の設定①
- 短期・長期の目標設定①
- 身体的・精神的ストレス①
- キャンパスでの居場所①
- 学生のリーダーシップ育成プログラム(地域貢献など)①
- 各種学生組織①
- ボランティア活動①
- 学内における学生用メディアを活用しよう①
- 学生による各種活動①
- 学生の同友会組織①
- 新入生いじめ①
- キャンパス内での娯楽スポーツ施設①
- 各種スポーツクラブ①
- キャンパス内での危機管理①
- 盗難に遭った時①
- 保健管理センター①
- 食事のバランスに関する注意①
- アルコールとドラッグ①
- ゴミ減量、エネルギー源の節約①
- 良好な人間関係①
- 暴力、虐待、セクハラへの対応①
- カウンセリングセンター①
- 文化的多様性①
- キャンパス内での国際交流①
- 性別による学生の行動様式の違い①
- 成人学生①
- 特殊な性的志向(レズビアン、バイセクシュアルなど)①
- 寮生活、下宿生活における人間関係①
- 大学の社交娯楽施設①
- 大学内の食堂、書店の利用方法①
- 図書館の利用法(ウェブからの書籍検索)①

資料 1. ミーティング議事録

各種メールリストの紹介⑪

eラーニングのシステム⑪

ネチケット⑪

コンピューターサービス窓口⑪

インターネットの活用⑪

学習に関する相談⑪

キャリアデザイン⑪

各学部別学習相談担当教員⑪

大学生活への不安や心配⑫

高校と大学の違い⑫

朝型か夜型か自覚する⑫

もっとも勉強がはかどる場所は？⑫

学習中に妨害が入った場合の対処方法⑫

集中力を持続する方法⑫

うまく休憩するコツ⑫

学習方法が視覚型か聴覚型か自覚する⑫

短期目標と長期目標の設定⑫

学習計画表の作成⑫

優先順位の設定⑫

講義ノート、実験ノートなど各種ノートの作成⑫

自己管理の方法⑫

短期的、長期的目標の設定⑬

現実的な目標を設定しよう⑬

学習習慣とライフスタイルの改善⑬

学習日課を組む⑬

モチベーションの向上⑬

集中力がなくなる原因⑬

なぜぐずぐずしてしまうのか⑬

机に座ったらすぐに勉強にとりかかる⑬

計画をたてる⑬

一つのことを終わるときには、もう次にやる事が決まっている⑬

自分なりの学習パターン(ルーティンワーク)をつくる⑬

面白いと思えるところから始める⑬

学習に熱中する⑬

自分にごほうびをあげる⑬

バランスのとれた健康的な生活をおくる⑬

友達や家族の協力を得る⑬

* 2段階のグループング(2005.11.8-9)

- ・大学とはどんなところか？
- ・大学で学ぶとはどういうことか？
- ・時間をうまく使おう
- ・人から学ぼう 人と一緒に学ぼう
- ・基礎的な学習スキルを身につけよう
- ・主体的に学ぶ習慣をつけよう
- ・生活リズム、自己管理、危機管理
- ・学習の目標を立ててみよう

1. 大学とはどんなところか？

1-1. 大学の起源、文化、知的伝統、社会的役割

- 大学の起源④
- 大学でしかできないこと④
- 大学と高校との学びの違い⑤
- キャンパスの多様性（文化、民族性、年齢、性別、能力）⑨
- 大学の理念・歴史・文化を知る⑩
- 大学のマーク、校歌について知る⑩
- サウスカロライナ大学の信念⑩

1-2. 大学の機能・組織・サービス

- 大学教員について①
- 事務組織について①
- カリキュラム④
- 図書館の活用法①
- 学生のための大学内にあるさまざまなサービス施設を活用する⑩
- サービス施設を訪問するときのアポイントの取り方⑩
- 大学の社交娯楽施設⑩
- 大学内の食堂、書店の利用方法⑩
- 図書館の利用法（ウェブからの書籍検索）⑩
- 学内の各種メーリングリストの紹介⑩
- 学内 eラーニングのシステム⑩
- 大学の財源の収支内訳を知る⑩
- コンピューターサービス窓口⑩
- インターネットの活用⑩
- 学習に関する相談⑩

1-3. キャンパスの多様性

- 文化的多様性⑩
- キャンパス内での国際交流⑩

資料 1. ミーティング議事録

性別による学生の行動様式の違い⑪
成人学生の存在⑪

1-4. 大学のルール

知的誠実さ、大学のルール⑪
大学でやってはいけないこと⑪
ネチケット⑪
キャンパス内の犯罪⑨
学則を知る⑪
剽窃⑩
知的誠実性とは？⑨

1-5. 大学の授業のしくみ

大学の授業とは？⑦
単位、理由、学期制、セメスター①
学び、シラバス、学習計画①
授業形態①
科目の種類①
履修と登録④
クラスの種類④
シラバス④
成績④
大学での授業の種類⑤
単位の登録、取得について⑪
GPA制度を知る⑪
さまざまな賞(honors)を知る⑪

2. 大学で学ぶとはどういうことか？

2-1. 学ぶとは？学問とは？

勉強することの意味②
知性とは何か：9つの考え方⑩
学習するとはどういうことか⑩
学習のための6条件⑩
学習のためのCream戦略⑩
教養とは何か⑪

2-2. 学びにおける高校と大学のちがい

学習面における高校との違い①
高校との違い④
大学と高校との学びの違い⑤
高校と大学の違い⑫

大学に入学する前にやっておくべき 8 つのこと⑩
大学生活への不安や心配⑫

2-3. 大学で学ぶことの意味

大学に必要な能力①
大学でしかできないこと④
大学での学び方⑤
大学の学びは何の役に立つのか⑤

3. 時間をうまく使おう

3-1. 集中力を高めるために

効率的な勉強をするために必要なこと②
集中するための条件②
記憶力の高め方②
効果的な勉強のためのルール②
効果的な履修の方法（難しい授業は早いうちにとっておく）⑧
試験勉強の方法⑧
授業のプライオリティ⑧
集中力を持続する方法⑫
集中力がなくなる原因⑬

3-2. 休憩、休みをうまく活用する

夏休みの活用法⑤
休日の過ごし方⑦
長期休暇の過ごし方⑦
夏休みの活用方法⑧
日曜日の過ごし方⑧
リラックスする時間をもつ⑪
うまく休憩するコツ⑫

3-3. 学習計画を立てる

さまざまなタイプのカレンダー(スケジュール帳)を活用する⑪
日課の優先順位を決める⑪
勉強時間を毎日ちゃんと確保する⑪
計画表の作成⑪
優先順位の設定⑪
学習計画表の作成⑫
優先順位の設定⑫
学習日課を組む⑬
計画をたてる⑬

資料 1. ミーティング議事録

3-4. 自分自身を動機づけするコツ

- 自分で締切を決める（タイムマネジメント）⑧
- 自分の学習スタイルをつくる（50分単位で勉強しろ）⑧
- メ切を早めに設定する⑩
- 机に座ったらすぐに勉強にとりかかる⑬
- やりたくないことから始める⑩
- やるべきことを細かく分類する⑩
- 自分にごほうびを与える⑩
- 一つのことを終えるときには、もう次にやることを決める⑬
- 自分なりの学習パターン（ルーティーンワーク）をつくる⑬
- 面白いと思えるところから始める⑬

3-5. 生活習慣をあらためる

- 朝起きるための方法⑧
- 生活習慣のコツ（食生活、睡眠、毎日笑う、楽しみを見つける）⑧
- テレビや電話は自制する⑩
- 朝型か夜型か自覚する⑫
- なぜぐずぐずしてしまうのか⑬

3-6. タイムマネジメントの一般論

- 時間管理の方法③
- タイムマネジメント④
- タイムマネジメント⑨
- 時間を上手に使う10の方法⑩

4. 人から学ぼう 人と一緒に学ぼう

4-1. 教員・職員とのつきあい方

- 大学教員との付き合い方①
- 先生とのつきあい方⑤
- 教員・職員との付き合い方⑦
- 教員との関係⑧
- 教師と仲良くなる⑧
- アカデミック・アドバイザーを活用する⑨
- 学期の早いうちに教員をたずねる⑩
- 各学部別学習相談担当教員⑩

4-2. 友だちづくり、先輩・後輩

- 留学生と友だちになるには⑤
- 友人関係⑦
- 部活・サークル⑦

友人関係（卓越した達成者を探す）⑧
学内における学生用メディアを活用しよう⑪
学生による各種活動⑪
学生の同友会組織⑪
新入生いじめ⑪
学生のリーダーシップ育成プログラム（地域貢献など）⑪
各種学生組織⑪
ボランティア活動⑪

4-3. 協同で学習する

プロジェクトに参加しよう⑧
他人と協働作業をする方法⑩
グループワークのコツ⑩
生産的なグループを作るコツ⑩
グループでトラブルが発生したときの対処方法⑩

4-4. 恋愛

恋愛⑦
セックス⑨

4-5. 家族

家族⑦
友達や家族の協力を得る⑬

4-6. コミュニケーションの基本スキル

真のコミュニケーションとは？③
相乗効果をもたらす人間関係③
寮生活、下宿生活における人間関係⑪
人の話を聴く姿勢を身につける⑧
対人関係（友人、恋人、両親、ネット友だち、ルームメイト）⑨
良好な人間関係⑪
断ることを覚える⑪
偏見、不公平、差別⑩

5. 基礎的な学習スキルを身につけよう

5-1. 授業の受け方、ノートを取り方

ノートの取り方①
ノートの取り方④
聴き方、ノートの取り方②
講義の聞き方⑤

資料 1. ミーティング議事録

- ノートの取り方⑤
- 授業の受け方（質問を用意する）⑧
- 質問の方法⑤
- ノートの取り方⑨
- アサインメントの読み方⑨
- 講義ノート、実験ノートなど各種ノートの作成⑫

5-2. 本の読み方

- 本の読み方①
- 効率的な読み方②
- 大学生のための読解④
- 研究論文の読み方⑤
- 本の読み方⑤
- 賢い本の読み方⑩

5-3. 情報・知識を調べる方法

- 資料・文献の探し方①
- 資料の整理法①
- 実験の方法①
- フィールドワーク①
- 社会調査の方法①
- 学習技術・習慣を身につける①
- 情報の整理④
- 情報収集の方法④
- 実験・実習の方法⑤
- 野外実習の方法⑤
- 文献の探し方、活用法⑤

5-4. 得た知識を深める方法

- ディスカッションの進め方①
- ブレインストーミング④
- グループ討論の方法⑤

5-5. コンピュータを活用する

- コンピュータの活用方法①
- インターネットの活用法④
- 統計解析ソフトの使い方⑤
- コンピュータの活用法⑨
- コンピュータ利用上のエチケット⑨
- コンピュータ利用上の倫理的・法的問題⑨
- インターネットの活用法⑨
- コンピュータをうまく使うコツ⑩

5-6. アウトプットの方法

- プレゼンテーションの方法①
- 論文の書き方①
- テーマの選び方④
- レポートや論文の書き方④
- プレゼンテーションの方法④
- レポートの書き方⑤
- 引用の方法⑤
- 図表の作成・利用法⑤
- 口頭発表の方法⑤
- うまく話せるようになる 6 つのステップ⑨
- うまく書けるようになる 3 つのステップ⑨
- 注、引用、参考文献のつけ方⑩
- 書くためのコツ⑩
- レポートを書くための 7 ステップ⑩
- 論文を書くときによく用いる動詞⑩
- アウトラインの作り方⑩
- 書いた文章をチェックする方法⑩

5-7. 試験対策

- 大学の試験・成績評価①
- 試験の受け方②
- テストの準備④
- 成績評価の方法⑤
- 試験対策⑨
- ノートを見直す⑪

5-8. 勉強につまづいたときは？

- 勉強につまづいたら①

6. 主体的に学ぶ習慣をつけよう

6-1. 多様なものの見方を学ぶ

- 複眼思考とは？⑥
- 批判的読書の方法⑥
- 批判的に文章を書く⑥
- ものごとの二面性（多面性）に注目する⑥
- 批判的思考法の 4 つの側面⑨
- 読むときの批判的思考法⑩
- 書くときの批判的思考法⑩

資料 1. ミーティング議事録

6-2. 主体的に学ぶ

- 知識を使えるようにする方法②
- 主体的な人とはどんな人か？③
- 問いを立てる⑥
- 論理的に文章を書く⑥
- 因果関係、相関関係⑥
- 問いを一般化・抽象化する⑥
- アクティブ・ラーニング⑨
- 自省的学習⑩
- 学生が大学経営に参加すること⑪
- 自立した学習の利点と危険性⑩

6-3. 自分なりの学習スタイルをつくる

- 自分の学習履歴を知ろう①
- 自分のミッション・ステートメントをどうやって書くか？③
- 授業時間外学習の方法（秘密の勉強スペースなど）⑧
- 学科の中で居場所を見つける⑧
- 自分の最適な学習スタイルは？⑨
- 学習するための空間づくり⑩
- 受け身学習と積極的な学習はどちらがう？⑩
- キャンパス内に自分の居場所をつくろう⑪
- 学習方法が視覚型か聴覚型か自覚する⑫
- もっとも勉強がはかどる場所は？⑫
- モチベーション向上の方法⑬
- 自分にごほうびをあげる⑬
- 学習に熱中する⑬

6-4. 思考の方法論

- 入学式前後の過ごし方⑦
- 勉強方法⑦
- 授業を上手に受けるコツ⑩
- 問題解決の方法⑩
- 記憶の3段階⑩
- ピラミッド型の思考法⑩
- 学習中に妨害が入った場合の対処方法⑫

7. 生活リズム、自己管理、危機管理

7-1. 日常生活、健康管理

- 生活の基本とは（身体、知性、感情、精神）？③
- 住まい⑦
- 一人暮らし⑦

ストレス対策⑨
インターネットにはまらない⑧
アルコール、ドラッグ⑨
健康管理⑩
ストレス管理の方法⑩
身体的・精神的ストレス⑪
食事のバランスに関する注意⑪
アルコールとドラッグ⑪
保健管理センター⑪
カウンセリングセンター⑪
自己管理の方法⑫
バランスのとれた健康的な生活をおくる⑬
学習習慣とライフスタイルの改善⑬

7-2. 危機管理

盗難に遭った時⑪
暴力、虐待、セクハラへの対応⑪
キャンパス内での危機管理⑪

7-3. 経済面の自己管理

アルバイト⑦
大学生活の経済的側面⑨
金銭の自己管理⑪
クレジットカード使用上の注意⑪
学生への経済支援、学生ローン⑪

7-4. 趣味・娯楽

買い物⑦
ファッション⑦
フィットネスセンターのオープンについて⑪
大学周辺の観光スポット⑪
観劇、映画、音楽、美術館などの利用⑪
キャンパス内での娯楽スポーツ施設⑪
各種スポーツクラブ⑪

7-5. 周囲・環境への配慮

ゴミ減量、エネルギー源の節約⑪
ボランティア⑦
ボランティア活動⑧

8. 学習の目標を立ててみよう→「時間をうまく使おう」と統合？

8-1. 目標設定の方法

- 現実的な目標設定③
- 大学生活の目標④
- 目標の設定方法⑧
- 現実的な目標を設定する⑩
- 短期・長期の目標設定⑪
- 短期目標と長期目標の設定⑫
- 短期的、長期的目標の設定⑬
- 現実的な目標を設定しよう⑬

8-2. 将来設計

- キャリアデザイン⑪

「学問を楽しもう」のコンセプトで問いを立ててみる

(2005.11.8 夏目、中井、近田メモランダム)

1. なぜ社会の中で大学が重要なのか？

なぜ大学は生まれたのか
大学図書館はなぜあるのか
大学は社会の役に立っているか
社会が名大と名大生に期待していることは何か

2. なぜ大学では研究をするのか？

研究に魅せられるとはどういうことか
研究は儲かるのか
研究のどういうところが楽しいか
いつの時点で研究が楽しくなるのか
研究を楽しめるようにするにはどうしたらよいか
研究を楽しむために、大学はどんな環境を提供しているか
なぜ論文を書くことが重要なのか
研究大学とは何か、なぜ存在しているのか
大学以外に研究するところはあるのか
卒業論文・卒業研究は必要か
大学院で学ぶとことの意味

3. なぜ教養が必要なのか？ なぜ学ぶ必要があるのか？

なぜ本を読まなければいけないのか
新聞の書評欄はなぜ重要か
大学時代にどれくらいの本を読めばいいのか
学問と趣味は何が異なるのか
なぜ主体的に学ぶことが重要なのか
なぜ批判的に考えることが重要なのか
学んだ知識を使えるようにするにはどうしたらよいか
どの専門分野に進んでよいかわからないときは、どうしたらよいか
大学の雰囲気になじめないときは、どうしたらよいか
大学の授業になじめないときはどうしたらよいか
本とインターネットのちがいは何か

4. 大学教員はどういう存在なのか？

大学教員は何が楽しみで生きているのか
大学教員は学問が好きで就職したのか
大学教員と高校教員は何が異なるのか
大学教員にはどのような社会的役割を期待されているのか

Eagle(スタディ・ティップス研究会)第9回

中津川合宿でやること

2005.11.15

近田政博

1. 合宿の目的

名大新入生版スタディ・ティップスの基本枠組みを検討・決定する

2. この合宿での検討事項

①成果物の目標を決める

- ・研究大学としての独自性を出す
- ・「学問を楽しもう」→上位層の学生をターゲットにする（11月8日案）

②成果物の基本構造を固める

- ・「学問を楽しもう」とスタディ・ティップス試作品4章分を合わせて5要素
- ・3月までに2～3冊、9月までに2冊くらい（いずれも小冊子）
- ・配布方法（入学配付資料に入れる、基礎セミナー担当教員へ配布、教養教育院事務室に平積みなど）

③役割分担、制作スケジュールを決める

- ・目標、基本構造・フォーマットしだい

3. 合宿のスケジュール

午後1時～ 3時	これまでの検討内容確認、成果物の目標・フォーマットを決める
3時～ 4時半	グループワーク①（戸田山・夏目チーム、中井・鳥居チーム） 基本要素の構造（章、節、キーワード）を書き出す
4時半～6時	全体にフィードバック①
8時～ 9時半	グループワーク②（戸田山・夏目チーム、中井・近田チーム） 基本要素の構造（章、節、キーワード）を書き出す
午前9時～10時半	全体にフィードバック②
10時半～12時	全体の役割分担、制作スケジュール

4. これまでの議論

最終成果物のイメージ

- 知の思考法に限定したい
- 学習に関する領域に限定したい
- ハンディな小冊子
- 新入生に配布したい
- 場面別に展開（教室、in キャンパス、out of キャンパスなど）
- 具体的な学習実践手法がわかる
- 読んで楽しく、ためになる
- 大学で学ぶ意欲がわく
- ・名古屋大学に誇りを持てる・名大が好きになる（中井）
 - 名大のローカル情報を盛り込む
 - 誇りに思えるようなエピソードを集める

- ・いくつかの時期にわけ分冊化したらどうか（夏目）。たとえば、
 入学前：2～3月 「大学と高校のちがい」「大学とはどういうところ？」
 入学時：4月 「大学での学び方」
 試験前 「大学の試験とは？」「将来について考えてみよう」
 秋 「名大はどんな研究をしているか？」
- ・扱う範囲は、1. **授業空間** < 2. **大学での学習** < 3. 大学生生活全般

5. 7提案(学生編)とどのように差別するか

対象となる学生層を絞る

トップレベルの学生層、それとも平均層の悩める子羊たち

入学後半年間に必要な知恵に絞る

授業現場以外の学習も扱う

先輩の事例や教師のアドバイスを入れる

6. 試作版のレビュー(再掲)

6-1. 試作版の構成(別紙)

6-2. 試作版の特徴

『成長するティップス先生』の構成をモデルにした

新入生の日記

学びの基本編 (コラムやチェックリスト)

参考情報

アメリカのスタディ・ティップスで強調されている知の思考法を4点に整理

キャリア・プランニング

協同学習(Collaborative Learning)

タイム・マネジメント

クリティカル・シンキング

6-3. 試作版に対する学生の反応

文章が長い

具体例を増やす

絵やグラフがほしい

先輩の体験談を入れる

文章がくだけすぎではないか

困ったときに使える内容にしてほしい

日記部分は作作的な感じがする

6-4. 試作品から改善すべき点

「学生のニーズを反映させる、しかし学生に媚びない！」

①簡潔なメッセージ

ハンディで薄い小冊子がいい (ウェブ化よりも小冊子を望む声が多い)

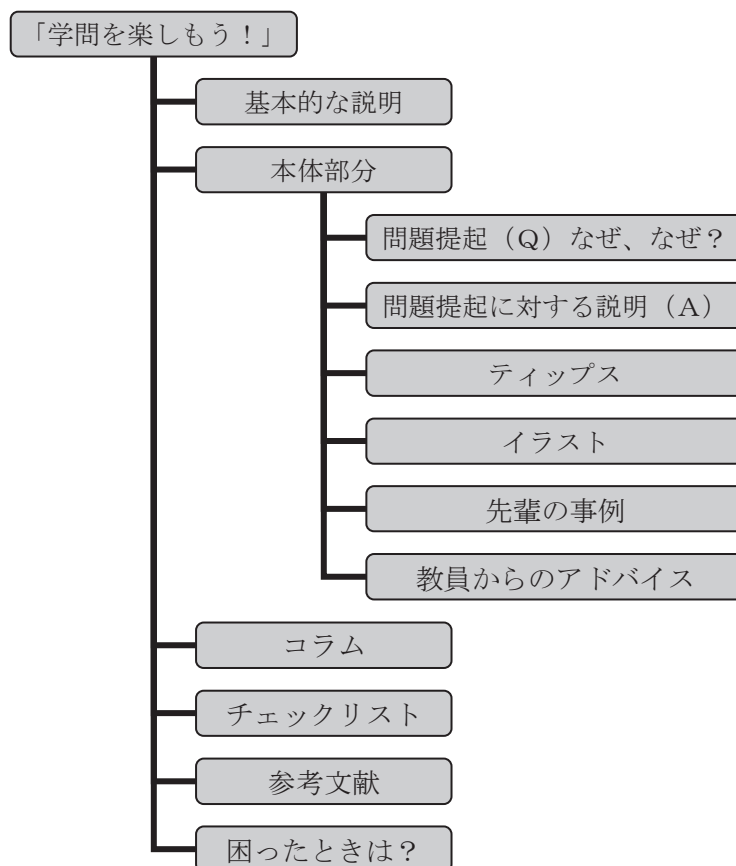
②名大の先輩や教師の肉声を入れる

全学の教師・学生の知恵を結集したという形をとりたい

③明確な学習理論に基づいている

アカデミックな意味づけがなされていることは、スタディ・ティップスへの信頼性を高めることになる。特に名大のような研究大学では必要。

7. 基本構造(案)



8. 基本フォーマット(案)

小冊子

全24ページで5分冊

表紙 名古屋大学新入生のためのスタディ・ティップス① 「学問を楽しもう」

表紙裏 このスタディ・ティップスのねらい

1頁目 この分冊のねらい(基本メッセージ)

2頁目 この分冊の使い方

3頁目 目次(全体の構造)

4～5頁目 問題提起・説明、イラスト①

6～7頁目 ティップス、先輩の事例、教員からのアドバイス①

8～9頁目 問題提起・説明、イラスト②

10～11頁目 ティップス、先輩の事例、教員からのアドバイス②

12～13頁目 問題提起・説明、イラスト③

14～15頁目 ティップス、先輩の事例、教員からのアドバイス③

16～17頁目 問題提起・説明、イラスト④

18～19頁目 ティップス、先輩の事例、教員からのアドバイス③

20～21頁目 コラム

22頁目 チェックリスト

23頁目 参考文献

24頁目 困ったときは?

奥付 開発スタッフ一覧

9. 基本スケジュール

11月 目標・対象、基本構造・フォーマットの確定

12月 執筆

1月 執筆

2月 第2回合宿(8日～10日:2泊3日)編集、修正

3月 完成

10. 役割分担

基本構造・基本フォーマットしだい

11. 配布方法→第2回合宿で検討したい

第10回イーグル ミーティング

2005/12/08

近田

今日のミーティングの目的

- ・中津川合宿の成果を確認する
- ・基本構成を確認する→そろそろ書き始める
- ・ベンチマークとなる文献
Britt Andreatta (2006), *Navigating the Research University: A Guide for First-Year Students*, Thomson Wadsworth
カリフォルニア大学サンタバーバラ校 初年次プログラム・リーダーシップ教育のディレクター
- ・役割分担を決める。下記の案でどうか？
 - ライター 近田
 - 近田のスーパーバイザー 戸田山、Kerri-Lee
 - コラム編集 中井
 - 先輩学生・教員からのアドバイス抽出
鳥居
 - 名大の学生生活状況調査（1月発行予定）結果の活用→グラフ化
夏目
 - 編集アシスタント 岡田（本文編集）、石田（イラスト編集、全体デザイン）
- ・スケジュールを確認する
 - 次回のミーティング（年末までに） 基本アウトラインの完成
 - 1月中 ドラフト作成
 - 2月の第2回合宿 ドラフト、コラム、アドバイスのチェック
（いつ、どこでやるか）
 - 2月 修正、ブラッシュ・アップ作業、編集
 - 3月 入稿、校正、完成
- ・出版形態・配布方法をどうするか
 - センター予算で作成？ オンデマンド方式？
 - オリエンテーション袋詰め資料、基礎セミナー担当教員へ配布、全学教育FD
- ・基本フォーマットをどうするか
 - 本シリーズのねらい（戸田山）
 - 本分冊のねらい（近田）
 - 使い方（近田）
 - 本文

基本メッセージ (近田)
コラム (中井)
先輩・教員からのアドバイス (鳥居)
名大生をデータでみると (夏目)

索引

- ・分量をどうするか
A5判、ページ数 (できるだけコンパクトにしたい)
- ・どこから書き始めるか?
- ・試作版をどのように活用するか?
- ・1-1, 1-2, 2-1はティップス化しにくいですが、それでもよいか?

中津川合宿の成果

- ・基本目標を定めた
scholarly citizen 「学識ある市民」「教養ある市民」「学問ある市民」になる
- ・基本構成を決めた
大学論と学習論の二本立て
- ・アウトプットの方法を決めた
小冊子の分冊化、とりあえず2冊をつくる

基本目標

名大1年生が scholarly citizen になることを大学時代の目標として設定し、学習のための態度とスキルを身につけるためにティップスを提供する

- ・4年後のモデルとして scholarly citizen になることを目標の一つとする
- ・scholarly citizen になるためには学習を主体的なものに切り替える必要があることを理解する
- ・scholarly citizen に向かって第一歩を踏み出すためのティップスを提供する
- ・1-1, 1-2, 2-1は理論編、2-2は実践編

基本構成

1. 大学論（心がまえ）

1-1. あなたが大学で学ぶことの意味は？→スカラリー・シチズンになること

- 学問・大学って何？
 - 大学の重要性、知への愛
- 大学でああなたが学ぶことの意味は？
 - 高校との違い（研究者としての教師「学校、生徒と呼ぶのはやめよう」）
 - 大学でしかできないこと
- 名大でああなたが学ぶことの意味は？
 - 名大の学習資源

1-2. 大学のルール？（倫理）

- なぜ大学にルールが必要か？
 - 知への尊敬（カンニング、ひょうせつ、知的誠実性、知的所有権、教室内での振る舞い）
 - 他の学習者の生命と人格の尊重（多様性、キャンパス環境、安全、アルハラ、セクハラ）
 - 大人としての良識（あいさつ、他者への配慮、甘えとごり押しをしない）
 - ソフィスティケイテッドされた行動様式

2. 学習論

2-1. スカラリー・シチズンに必要なスキルと態度とは？

態度

- 学問を楽しむ（研究マインド）
- 自ら学ぶ姿勢
- 知ることそのものに喜びを見いだす
- 知識人としての責任と自覚

スキル

- インプット（情報吟味、収集、ノートとり、授業のさせ方）
- スループット（思考力、知識の質）
- アウトプット（コミュニケーション、意志決定、表現、論文を書く）

知識の質を高めよう（ムダな授業などない）

- 教養論（歴史的、空間的相対化の視座）
- 専門論（基礎論）

思考力を高めよう

- 論理的、批判的思考力
- 問いを立てる力
- 発見、設定、分析、総合、応用
- 判断力、行動力

2-2. 実践編 (スタディ・ティップス)

主体的に学ぶ実践方法「学びのスタイルを変えよう」(transition: 高校から大学への学習法の切り替え)

- 自分の学習スタイルを確立する (学習を創造する方針、タイムマネジメント)
- 大学のリソースを最大限に利用する
 - 教員へのアクセス、図書館、他者との出会い
- 授業を最大限に生かす
 - ノート、質問をする、復習をする、授業内の学習活動に参加する、授業改善に参加する
- 大学外での学習機会を増やす
 - 読書週間、研究会、学会・セミナーなどへの参加

アウトプットの方法

- 名古屋大学スタディ・ティップス「学びへの招待」
- スタディ・ティップス1 大学での学びは何か
 - スタディ・ティップス2 学び方の基礎
 - スタディ・ティップス3 論文の書き方 (飛ばしてもよい)
 - スタディ・ティップス4 おすすめブックガイド
 - スタディ・ティップス5 自分のキャリアを考えよう
 - スタディ・ティップス6 大学がいやになった時に読む本

基本フォーマット

- 本シリーズのねらい
- 本分冊のねらい
- 使い方
- 本文
- 索引

これからの進め方

- 2から始める
- つぎに1
- スタッチくんのコラムは2の中に事例として入れる
- 黒田先生や高野さんに章立てをみてもらい、チェック・提案してもらう
- 宇澤先生 (多元数理)、(語学)

名古屋大学で学ぶべきこと(KJ法による分類作業)

大学で学ぶことの意味

- 知への愛
- 学問を楽しむ
- 人類の知的伝統に対する尊敬
- 知ることの喜び
- 知的好奇心の向上
- 研究マインド

思考力

- 批判的思考
- 論理的思考
- 問いを立てる力
- 多様なものの見方をできる
- 情報に基づいた意思決定ができる

態度

- 名大生としての自覚・責任
- 名大への帰属意識
- 名大で生まれた研究成果がどういう社会的インパクトをもつかを知る
- 自分の言葉で表現する
- 多様性の尊重
- 他者との出会い
- 人と一緒に学ぶスキル
- 知識に投資するマインド
- 読書をする習慣
- どうやって学習するかを学ぶ
- 目的意識の明確化
- 自分を動機づける方法を知る
- 自律
- 自分で学ぶ力
- 主体的に学ぶ姿勢
- active learning**
- 大学生としての自覚
- 知的誠実さ
- 知識人としての社会へのコミット
- 知の共同体のメンバーとしての倫理

アイデンティティ形成

- 自己効力を高める
- 自信の確立
- アイデンティティの確立
- 自己信頼感を身につける

知識

- 専門を身につける
- 知識人としての教養を身につける
- 教養教育の意義を理解する
- 自分の専門を語ることができる

自分の意欲を高める

- わかっているけどできない習慣をクリアする
- 4年間の学習目標を立てる
- 悩みを解消する
- 生きる意欲を高める

学習方法のカテゴリー(2の学習論に対応する)

1. 本から学ぶ

- ・図書館
- ・本の購入・本の選び方
- ・古典・基準となる本

2. 授業から学ぶ

- ・教科書の使い方 (理系専門基礎:ちゃんと問題を解かないとダメだよ)
- ・ノートの取り方
- ・質問
- ・予習・復習
- ・授業の受け方
- ・シラバス
- ・ポートフォリオ

3. 他者から学ぶ

- ・ディスカッション
- ・学習会
- ・教員との交流
- ・学内のサポート施設を活用する
- ・研究室見学
- ・オフィスアワー
- ・グループワーク

4. 自分の学習スタイルを築く

- ・タイム・マネジメント
- ・自分のカリキュラムをつくる
- ・自律、自省
- ・キャリア・プランニング

5. 批判的・論理的に考える

- ・知的思考法

6. 社会から学ぶ

- ・大学外での学習活動
- ・調査の方法
- ・新聞・書評

資料1. ミーティング議事録

- ・ インターネット
- 7. 学びの成果を表現する
 - ・ プレゼン
 - ・ コミュニケーション
- 8. 論文を書く
 - ・ 論文の書き方
- 9. 自ら学びを評価する
 - ・ 授業評価アンケート
 - ・ ポートフォリオ

思いつくトピックスを挙げる

論文

ノート・テイキング

ディスカッション

学習会

予習復習

教員とのつきあい

試験準備

授業評価・授業改善

自分の学習活動の評価

プレゼンテーション

大学外での学習機会の参加

情報収集・吟味

調査の方法

新聞を読む、読書

批判的志向・論理的思考

インターネットの活用

タイム・マネジメント

学内の学習サポートを知る、活用する

コミュニケーション

自省、自立

授業の受け方（友だちと離れて座ろう、適切なポジショニング）

シラバスの活用法

ポートフォリオを作ろう

カリキュラムを確認しよう

グループワーク

図書館の活用

レクリエーション

キャリア・プランニング

本の選び方、本を買おう

読書の習慣・スキル

古典を読もう

ネット中毒、携帯依存

別冊ブックリスト

書評を書く（テンプレート付き）

第11回イーグル ミーティング

2005/12/20

近田

今日のミーティングの目的

- ・アウトラインを検討する

基本目標

名大1年生が **scholarly citizen** になることを大学時代の目標として設定し、学習のための態度とスキルを身につけるためにティップスを提供する

- ・「愛知人」（知を愛する人）、「良識ある市民」
- ・4年後のモデルとして **scholarly citizen** になることを目標の一つとする
- ・**scholarly citizen** になるためには学習を主体的なものに切り替える必要があることを理解する
- ・**scholarly citizen** に向かって第一歩を踏み出すためのティップスを提供する

冊子の名称

- ・名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド①「大学はどんなところか」
- ・名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド②「大学でどう学ぶか」

基本構成

スタディ・ガイド①「大学はどんなところか」

1. 大学は何をするところか？

1-1. 大学はどのような社会的存在か？

→人類の知的伝統を発見・継承するところ、知の共同体

1-1-1. ボイヤーの4つの学識：大学の機能

- 発見（研究成果）
- 統合（研究成果の意味づけ）
- 応用（研究成果の実用）
- 教育（研究成果の継承）

1-1-2. 大学はどのように形成されてきたか

専門職（聖職者、法律家、医師など）を養成する

資料 1. ミーティング議事録

研究を行う
国家のエリートを養成する
教養ある市民を養成する

- 1-1-3. 大学は他のコミュニティとどのように異なるのか
高校との違い 大学教師は研究者 生徒ではなく「学生」
企業との違い 「もうからない」こともやる
役所との違い ルーティンワークではない
ボランティア団体との違い 社会的責任がある

1-2. 研究大学とは何か？

→学生が最先端の研究に触れる機会に恵まれている

- 1-2-1. 社会にはどんな大学があるか？
研究重点大学 教育重点大学
総合大学 単科大学
都市型大学 郊外型大学
- 1-2-2. 名古屋大学はどんな大学か？
研究重点、総合、地域拠点型
旧帝国大学、理工系重視
地域密着型（学生の出身、就職先）
- 1-2-3. 研究大学にはどんな特徴があるか？
大学院生が多い
教員が多い
研究費・研究成果が多い
授業で最先端の研究に触れる機会がある
学会で中心的な活躍をしている教員が多く集まる

1-3. 大学にはどんな人がいるか？ —キャンパスの多様性—

→学生も教授もともに学び、究める存在である

- 1-3-1. 多様な学生集団
学部生（全学教育、学部専門教育）
大学院生（博士前期課程、博士後期課程、TA）
留学生
社会人学生
- 1-3-2. 教職員
教員（教授、助教授、講師、助手）
職員（学務系、図書系、庶務系、経理系）
- 1-3-3. その他の人々（非常勤の職員、生協の職員など）

2. 大学で学ぶために知っておくべきこと

2-1. 大学の授業は高校とどのように異なるのか？

→自ら学ぶ姿勢、「研究する」視点が求められる

2-1-1. 大学と高校の授業の違い

カリキュラムは自分で作るもの
自発的に学ぶ姿勢が前提となっている
点数よりも中身が重要

2-1-2. 大学で学ぶためのキーワード

単位、学期、シラバス、講義、ゼミナール、レポート、論文

2-1-3. 大学での学びは何の役に立つのか

自分の考えを相対化する能力
問いを立てる能力
情報を収集する能力
立てた問いを検証する能力

2-2. なぜ大学にルールが必要か？

→知への尊敬、他の学習者の尊重、大人としての良識が求められるから

2-2-1. 知への尊敬

カンニング、ひょうせつは知への冒涇
知的誠実性、知的所有権、教室内での振る舞い

2-2-2. 他の学習者の生命と人格の尊重

多様性、キャンパス環境を大事にしよう
アルハラ、セクハラ→他者の人格を尊重しよう

2-2-3. 大人としての良識

あいさつ、他者への配慮、甘えとごり押しをしない
大人としてソフィスティケイテッドされた行動様式

2-3. 知識人に求められるものは何か？

→知への尊敬、他の学習者の尊重、大人としての良識が求められるから

2-3-1. 学問を楽しむマインドをもつ

知ることそのものに喜びを見いだす
先人の知恵、他者の意見に対する敬意

2-3-2. 主体的に学ぶ

自分を動機づけるための方法論

資料 1. ミーティング議事録

自分の学習特性を知る

- 2-3-3. 知識人としての責任と自覚をもつ
知識人に求められる責任とは？→専門職倫理
教養とは何か（歴史的、空間的相対化の視座）
専攻分野の方法論を学ぼう

2-4. 主体的に学ぶためのスキル

- 2-4-1. インプット
情報吟味、収集、ノートとり、読書
- 2-4-2. スループット
思考力、知識の質
- 2-4-3. アウトプット
コミュニケーション、意志決定、表現、論文

スタディ・ガイド②「大学でどう学ぶか」

主体的に学ぶための実践方法を知る→「学びのスタイルを変えよう」
(transition : 高校から大学への学習法の切り替え)

1. 思考力を高めよう

論理的・批判的思考力
問いを立てる力
発見、設定、分析、総合、応用（ブルーム）
判断力、行動力

2. 自分の学習スタイルを確立しよう

学習を創造する方針
タイムマネジメント
大学生はどのように発達するのか

3. 大学のリソースを最大限に活用しよう

教員へのアクセス
他者との出会い
図書館を活用しよう

4. 授業を最大限に活かそう

ノートの取り方
効果的な質問をする方法
予習・復習をする
授業内の学習活動に参加する
授業改善に参加する

5. 大学外での学習機会を増やそう

他者と協同して学ぶことの重要性
研究会・勉強会をつくろう
学会・各種セミナーなどへの参加

第12回イーグル ミーティング

2005/12/26

近田

今日のミーティングの目的

- ・アウトラインの修正
- ・①と②の出だしを固める

基本目標

名大1年生が **scholarly citizen** になることを大学時代の目標として設定し、学習のための態度とスキルを身につけるためにティップスを提供する

- ・「愛知人」(知を愛する人)、「良識ある市民」
- ・4年後のモデルとして **scholarly citizen** になることを目標の一つとする
- ・ **scholarly citizen** になるためには学習を主体的なものに切り替える必要があることを理解する
- ・ **scholarly citizen** に向かって第一歩を踏み出すためのティップスを提供する

冊子の名称

- ・名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド
- ①「大学はどんなところか」(心がまえ編)
- ②「大学でどう学ぶか」(実践編)

基本構成

スタディ・ガイド①「大学はどんなところか」(心がまえ編)

1. あなたが大学で学ぶことの意味

→人類の知的伝統を発見・継承するところ、知の学び方を学ぶところ

はじめに:ようこそ名古屋大学へ

なぜ名古屋大学を選びましたか?
どんなことを期待していますか?

1-1. 大学はどういうところ?

学問を楽しむ、知ることを楽しむ

知を探求し、継承し、創造するところ
人類の知的伝統に対する尊敬
知的好奇心を高める
授業は大学の根幹であり、一部である

1-2. 高校と大学は何が異なるか

教員も学生も学ぶ人＝研究者
生徒と呼ぶのをやめよう→学生
カリキュラムは自分でつくる
自分で問いを立てる
学び方を学ぶ
社会へのコミット

1-3. 大学を最大限に活用しよう

単位をとるだけではさみしい
授業が基本
さまざまなリソース

2. 研究大学とは何か？

→学生が最先端の研究に触れる機会に恵まれている

2-1. 社会にはどんな大学があるか？

研究重点大学	教育重点大学
総合大学	単科大学
都市型大学	郊外型大学

2-2. 名古屋大学はどんな大学か？

研究重点、総合、地域拠点型
旧帝国大学、理工系が大きい
地域密着型（学生の出身、就職先）

2-3. 研究大学にはどんな特徴があるか？

大学院生が多い
教員が多い
研究費・研究成果が多い
授業で最先端の研究に触れる機会がある
学会で中心的な活躍をしている教員が多く集まる

3. 大学にはどんな人がいるか？ ―キャンパスの多様性―

→学生も教授もともに学び、究める存在である

3-1. 多様な学生集団

学部生（全学教育、学部専門教育）
大学院生（博士前期課程、博士後期課程、TA）
留学生
社会人学生

3-2. 多彩な教職員

教員（教授、助教授、講師、助手）
職員（学務系、図書系、庶務系、経理系）

3-3. その他の人々

非常勤の職員、生協の職員など

4. なぜ大学にルールが必要か？

→知への尊敬、他の学習者の尊重、大人としての良識が求められるから

4-1. 知への尊敬

カンニング、ひょうせつは知への冒涇
知的誠実性、知的所有権、教室内での振る舞い

4-2. 他の学習者の生命と人格の尊重

多様性、キャンパス環境を大事にしよう
アルハラ、セクハラ→他者の人格を尊重しよう

4-3. 大人としての良識

あいさつ、他者への配慮、甘えとごり押しをしない
大人としてソフィスティケイテッドされた行動様式

5. 知識人になるためには？

→学問を楽しむマインド、主体的に学ぶ姿勢、専門家としての責任と自覚が必要

5-1. 学問を楽しむマインドをもつ

知ることそのものに喜びを見いだす
先人の知恵、他者の意見に対する敬意

5-2. 主体的に学ぶ

自分を動機づけるための方法論

自分の学習特性を知る
主体的・自律的に学ぶ姿勢を身につける
批判的・論理的な思考法を身につける
多様なものの見方を身につける
読書をする習慣をつける
社会へのコミット

5-3. 知識人としての責任と自覚をもつ

知識人に求められる責任とは？→専門職倫理
教養とは何か（歴史的、空間的相対化の視座）
専攻分野の方法論を学ぼう

スタディ・ガイド②「大学でどう学ぶか」(実践編)

主体的に学ぶための実践方法を知る→「学びのスタイルを変えよう」
(transition : 高校から大学への学習法の切り替え)

1. 授業を最大限に活かそう(10ページ)

ノートの取り方
効果的な質問をする方法
予習・復習をする
授業内の学習活動に参加する
授業改善に参加する

2. 自分の学習スタイルを確立しよう

学習を創造する方針
タイムマネジメント
大学生はどのように発達するのか

3. 思考力を高めよう

論理的・批判的思考力
問いを立てる力
発見、設定、分析、総合、応用（ブルーム）
判断力、行動力

4. 大学のリソースを最大限に活用しよう

教員へのアクセス
他者との出会い
図書館を活用しよう

5. 大学外での学習機会を増やそう

他者と協同して学ぶことの重要性
研究会・勉強会をつくろう

資料 1. ミーティング議事録

学会・各種セミナーなどへの参加
インターンシップの活用

コンテンツ①

1. あなたが大学で学ぶことの意味

→人類の知的伝統を発見・継承するところ、知の学び方を学ぶ

はじめに: ようこそ名古屋大学へ

なぜ名古屋大学を選びましたか？
名古屋大学にどんなことを期待していますか？

1-1. 大学はどういうところか？

大学について、どんな先入観をもっていますか？
大学は何をすることか
学問を楽しむ、知ることを楽しむ
知を探求し、継承し、創造するところ
人類の知的伝統に対する尊敬
自分自身の知的好奇心を高める
授業は大学の根幹であり、一部である

1-2. 高校と大学は何が異なるか？

教員も学生も学ぶ人＝研究者
生徒と呼ぶのをやめよう→学生
カリキュラムは自分でつくる
自分で問いを立てる
知の学び方を学ぶ
自発的に学ぶ姿勢が求められる
社会へのコミット

1-3. 大学を活用するためには？

単位をとるだけではさみしい
授業が基本
さまざまなリソースがある
人的資源、物的資源、情報資源
自分の居場所をつくる
ともに学ぶ仲間をつくる

コンテンツ②

1. 授業を最大限に活かそう(10ページ)

1-1. ノートの取り方(見開き2ページ)

- ・ 高校までどんなノートをとってきましたか
自分のノートの取り方を点検してみよう
- ・ 基礎編：授業の特徴に合わせたノートをとろう
大学の授業方法は多様です
丁寧に板書してくれるとは限らない→口頭でも重要な内容がある
板書をすべて写せばいいというものでもない
プリントをもらっただけで満足しない
視聴覚教材には注意しよう
ノートがとりにくい環境とは(照明、配付資料なし)？
- ・ 基礎編：どんなノートが良いノートか
重要なポイントがわかる
どこまで理解していて、どこがわからないのかが把握できる
あとから活用できる
- ・ 発展編：自分の感想・コメントも残しておこう
何がわからないのかをわかるように
その時に自分がどう感じたのか(賛同、疑問、反対、理解不能)
復習してから補充しよう(成長するノート)

1-2. 効果的な質問をする方法(見開き2ページ)

1-3. 予習・復習をする(見開き2ページ)

1-4. 授業内の学習活動に参加する(見開き2ページ)

1-5. 授業改善に参加する(見開き2ページ)

第13回イーグル ミーティング

2006/02/02

近田

今日の目的

①実践編（仮）の追加部分をチェック

②心がまえ編（仮）の原稿をチェック

第2回イーグル合宿の方針：2月11日（土）～13日（日）

テキスト編集

デザイン・イラスト編集

出版・配布・活用方針

今後の役割分担

今後の進め方（案）

* 2月10日：実践編（仮）の本文、心がまえ編（仮）のドラフトを書き上げる

* 第2回合宿（2月11日・12日）で本文の内容を固める

* 2月20日：本文をすべて完成させる

* 2月28日：本文以外の文章をすべて完成させる

* 3月10日：レイアウト（イラスト含む）を完成させる、入稿

* 4月 3日：納品

* 4月 7日：新入生の学生生活ガイダンスで配布、当日説明

基本目標

名大1年生が scholarly citizen になることを大学時代の目標として設定し、学習のための態度とスキルを身につけるためにティップスを提供する

・「愛知人」（知を愛する人）、「良識ある市民」

・4年後のモデルとして scholarly citizen になることを目標の一つとする

・scholarly citizen になるためには学習を主体的なものに切り替える必要があることを理解する

・scholarly citizen に向かって第一歩を踏み出すためのティップスを提供する

冊子の名称（案）

案1：名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド

①「大学はどんなところか」（心がまえ編）

②「大学でどう学ぶか」（実践編）

第14回イーグル ミーティング(刈谷合宿)

2006/02/11

* 2月11日(土)にやること

戸田山、中井、鳥居で「心がまえ編」(案)のドラフト作成(会議室)

夏目、近田で「実践編」(案)のドラフトをチェック(資料室)

夕方に刈谷に移動

* 2月12日(日)にやること

上記の逆パターンでチェックを行う。

名称の検討・決定

イラスト原案のチェック

今後の編集方針

修正内容

- ・全体を二分し、前半を学習論、後半をコミュニティ論とする
- ・中井さんの資源論を戸田山さんの学習論の中に統合する
- ・鳥居さんの部分は、ルールを守ること自体を強調するよりも(学識ある人になるために必要な)コミュニティ論として修正する
- ・呼びかけ方は「あなた」で統一する
- ・できるだけ外来語・カタカナ語は減らす
- ・内容の重複をチェックする

現在の基本構成(「ママ」は変化なしを示す)

第1部

1. あなたが大学で学ぶことの意味(戸田山+中井)

- ・大学は知の共同体である(ママ)
- ・大学で学ぶことの意味は「学識ある市民」になること(ママ)
- ・学識とはどんな能力か(追加:位置を確認)
- ・学識とはどんな態度か
- ・学識ある市民になるために、大学の資源を最大限に活用すべし(仮称:移動)
 - ・人的資源(教員、学生)
 - ・情報資源(ライブラリーなど)

2. 学識ある市民になるために知っておくべき共同体のルール(仮称)(鳥居)

- ・知への尊敬を払う(ママ)
- ・他者の生命や人格、学習を尊重する(ママ)
- ・良識ある行動をとる(ママ)

第2部

1. 授業から学ぶ

- 1-1. 自分の能力を高めるような時間割をつくろう
- 1-2. 授業時間外の学習を大事にしよう

1-3. よいノートは頭の整理に役立つ

1-4. 自分の理解度、到達度を確認しよう

2. 本から学ぶ

2-1. 本との出会いを大切にしよう

2-2. 読書の習慣をつけよう

3. 他者から学ぶ

3-1. 他者と出会うことの意味を知ろう

3-2. 教員の魅力を探そう

3-3. とともに学ぶ仲間を見つけよう

4. 学習習慣をつける

4-1. 甘い誘惑に負けるな

4-2. 学習する時間を確保しよう

4-3. 自分なりの学習目標を立ててみよう

今後の進め方（案）

- * 第2回合宿（2月11日・12日）で本文の内容を固める
- * 2月20日：本文を修正し、すべて完成させる
- * 2月28日：本文以外の文章をすべて完成させる
- * 3月10日：レイアウト（イラスト含む）を完成させる、入稿
- * 4月 3日：納品
- * 4月 7日：新入生の学生生活ガイダンスで配布、当日説明

基本目標

- ・「学識ある市民」
- ・名大1年生が scholarly citizen（「学識ある市民」）になることを大学時代の目標として設定し、学習のための態度とスキルを身につけるためにティップスを提供する

冊子の名称案

案 1

名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド①：「あなたが大学で学ぶことの意味」

名古屋大学新入生のためのスタディ・ガイド②：「大学でどう学ぶか」

案 2

新「ガクモンのススメ」：大学新入生のための学習指南

案 3

マナビのススメ：大学新入生のための学習指南

案 4

う～ん、出てこない

スタディティップス 2006 年版の広報・普及状況と方針

2006.10 近田メモ

マスコミ

- ・ 読売新聞で紹介 (2006. 4. 6)
- ・ 中日新聞で紹介 (2006. 4. 25)

学内これまで

- ・ 新生ガイダンスの出席者に配布 (約 1900 部) (2006. 4. 7)
- ・ 学内ニューズレター『名大トピックス』で紹介
- ・ 高校生向け名古屋大学案内で紹介
- ・ 高等教育研究センターのニューズレター『かわらばん』で紹介
- ・ 希望する学内教員には無料で配布

学内新規 (10 月から)

- ・ 大学ホームページからリンク
- ・ 大学ポータル MyNU 学生用からリンク
- ・ 大学 OCW (Open Courseware) 『名大の授業』 からリンク予定 (11 月)
- ・ 無料配布 (全学教育棟本館、学生相談総合センター)
- ・ 学生便覧への掲載を教養教育院で検討中

スタディティップス 2007 への改訂方針 (原案)

- ・ 基本方針：マイナーチェンジとする (大幅改訂は隔年)
- ・ 改訂内容：
 - ・ フォント・紙質の再検討 (ダイテックと相談)
 - ・ 表紙デザイン (スコーレと相談)
 - ・ イラスト追加 (スコーレと相談)
 - 時間割、図書館、研究室、T A、人と話が合わない
 - ・ コラム追加 (5 ~ 10 個)
 - カリキュラムって何? (鳥居)
 - 名古屋大学の歴史を知ろう (近田→資料室に依頼)
 - 研究紹介①「赤崎博士の青色ダイオード」(齋藤)
 - 全学教育紹介①「科学技術の倫理」(戸田山)
 - 留学のススメ
 - 学内ニューズレター (名大トピックス) を読もう (近田)
 - 名大サロンをのぞいてみよう (近田)
 - ・ **第 2 号ティップスの新規追加 (10 個ていど) (近田、齋藤)**
 - 第 5 章：「体験から学ぶ」(フィールドワーク、理系実験などを対象)**
 - ・ 開発スタッフ：齋藤さんを追加
- ・ スケジュール
 - 1 2 月：原稿依頼、1 月：執筆、2 月：編集、3 月：校正
- ・ 配布方針：

方法 1	入学手続きで配布 (3 月末)	× 早めに作る
方法 2	新生ガイダンスで配布 (4 月初旬)	× 全員来ない、3 回ある

スタディティップス 2007 への改訂方針(案)

2006/12/11
近田メモ

- ・基本方針：マイナーチェンジとする
体験型授業の学習ノウハウに関するティップスを追加する
名大に関するコラムを追加する
- ・改訂内容
 - ① 実験・実習・語学学習に関するティップス作成
 - 基セミ（フィールドワーク） 近田→高橋先生（国際開発） 4～5個
 - 実験： 齋藤→内藤さんほか 4～5個
 - 語学： 近田→長畑先生（国言） 4～5個
 - ・注意すべきこと：安全の確保（ガイダンス資料などを確認）
 - ・意義・目的の確認
 - ・学習効果を高めるノウハウ（協同学習など）
 - ・上記のアドバイザーからコメントをもらう→教員からのアドバイスに活用
 - ② コラム追加(600～800字、1月末締切)
 - カリキュラムって何？（鳥居）
 - 名大のルーツ（近田→山口さん：大学史資料室）
 - 授業紹介「科学技術の倫理」（戸田山）
 - 留学のススメ（→堀江さん：留学生センター）
 - ピア・サポーターについて（→杉村さん：学生相談総合センター）
 - 名大サロンをのぞいてみよう（齋藤）
 - 名大のオンライン教育サービス（中井 or 基盤センター）
 - ③ イラスト一部追加・差し替え（スコーレと相談）
 - ④ フォント変更など（ダイテックと相談）
- ・制作プロセス
 - 第1段階：勉強会（関連資料を収集・読み込む）、エッセンスの抽出（12月）
コラム執筆依頼（締切1月31日）
 - 第2段階：ドラフト作成、センター内で意見交換（1月）
 - 第3段階：アドバイザーからコメントもらう（2月）
 - 第4段階：近田が最終編集（2～3月上旬）
 - * 3月末の入学手続き、あるいは4月初旬のガイダンスで新入生に配布したい。
 - * 4～5月に、実験・語学・基礎セミナーの授業でアンケートを実施。
 - * 6月9・10日の大学教育学会で発表（「体験型授業の学習ノウハウ」近田・齋藤）
- ・ミーティングの日程：12月26日（火）10時、1月9日（火）10時
- ・ミーティングのメンバー：第1段階は近田と齋藤、第2段階はスタッフ全員
- ・その他

体験型学習のノウハウ案

2006/12/11
近田メモ

* 実験の学習ノウハウ

(作成後、千代先生、浦野先生等にモニターしてもらう)

- ・ 講義と何が違うのかを理解する (作業を伴う、チームで行う、実験レポートを作成)
実験の目的 (Michigan Guidebook より)
 - ①具体的な実験スキルを習得する
 - ②科学的プロセスを理解する (観察、分類、推論、仮説、調査方法など)
 - ③抽象的な概念を具体的な方法によって理解する
- ・ 事前の準備が大事
実験の意義や意味を考える
TA の具体的な説明に耳を傾け、メモをとる
マニュアルに目を通しておく→準備しないと失敗しやすい、時間もかかる
先輩学生の体験談を聞いておく
- ・ 安全の確保、リスク管理
服装上の注意 (白衣、安全ゴーグルなど)、設備の確認、起こりうる事故
- ・ グループワーク、共同学習、マナー
グループワークで大事なことは?
みんなで計画を立てる、役割を決める、自己評価する、片づける
- ・ データの取り方
実験の目的が達成されているかを振り返る
- ・ 実験レポート作成上の留意事項 (齋藤さんの経験から)

* 語学学習のノウハウ

(作成後、長畑先生にモニターしてもらう)

- ・ 大学での語学教育の重要性
高校までの英語教育と何が違うのかを理解する
異文化への理解
専門教育への接続 (英語で論文を読む、英語で発表する、海外の専門家との交流)
- ・ 小テストや発音練習をさぼらない。単位を取ることを目的にするとつまらない。
- ・ 最初は退屈かもしれない。しかし、できるようになるとおもしろくなる。だから、最初は我慢する。
- ・ ネイティブの TA と仲良くなる
- ・ できれば、大学中に選択した未修外国語を使う国に旅行して、実践してみる

* 実習 (フィールドワーク) のノウハウ

- ・ 実習の意味を理解する。どんな理論や仮説を試すための実習なのかということ。
- ・ 現場の環境を熟知する。
- ・ 実習先の機関・組織に迷惑をかけない。マナーを遵守する。よい関係を築く。

資料 1. ミーティング議事録

- 教員からの依頼状を持参する（インタビューなど）
- 実習者と受け入れ機関の同意書を作成する
- 不測の事態の対処方法に留意する（事故、法的トラブルなど）
- 実習における自分の役割を認識する
- ・ 事後のお礼（お礼状を書くなど）
 - よい実習記録の書き方
- ・ 体験内容だけに満足せずに、そこから何を得られたかに留意する

参考文献

<語学>

名古屋大学消費生活協同組合（1992, 1993, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2002, 2003, 2004, 2006）『外国語学習のアドバイス』

<実験>

名古屋大学教養教育院(2006)『全学教育科目実験 安全の手引きー実験を安全に行うために』 37 頁。

<実験>

Black, B, Gach, M., Kotzian, N.(1996), *Guidebook for Teaching Labs: for University of Michigan Graduates Students Instructors*, The Center for Research on Learning and Teaching (CRLT), 35pages.

<フィールド>

Manning, M., Harris, J.A., Maher, W.A., McQueen, K.G.(1998), *Learning in the Field: A Manual for Conducting Field Classes*, HERDSA Gold Guide No.5, 115pages.

<実験><語学>

小笠原正明・西森敏之・瀬名波栄潤編(2006)『TA 実践ガイドブック』玉川大学出版部、154 頁。

<フィールド><協同学習>

バーバラ・グロス・デイビス（香取草之助監訳）(2002)『授業の道具箱』東海大学出版会、179-212 頁（原著の初版は 1993 年）

<協同学習理論>

D.W.ジョンソン、R.T.ジョンソン、K.A.スミス(2001)『学生参加型の大学授業 協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、254 頁（原著の初版は 1991 年）。

<体験学習理論>

Kolb, D.A.(1984), *Experiential Learning: Experience as The Source of Learning and Development*, Prentice-Hall Inc.

語学学習のティップス案

近田メモ 2006/12/22

- ・ 大学での語学教育の重要性
 - 高校までの英語教育と何が違うのか
 - 異文化への理解
 - 専門教育への接続（英語で論文を読む、英語で発表する、海外の専門家との交流）
- ・ 名大生協が毎年制作している『外国語学習のアドバイス』を入手しよう！
 - 名大の言語文化科目の担当教員からのメッセージがある
 - 外国語の勉強法が詳しく紹介されている
 - 辞書を選ぶ際に参考になる

英語

【読む】

- ・ 良い辞書を選ぶ
 - 大学レベルの辞書を買おう。
 - 教員の薦める辞書を買う。電子辞書は？
- ・ 批判的に読む
 - 長所・短所は？ 賛成か、反対か？

【聞く】

- ・ 英語の映画を見る
 - DVD だと英語字幕がついているので、英語字幕と一緒に見る

【話す】

- ・ 英語を話すときの「もう一人の自分」を成長させるという意識をもつ
 - 幼稚園児から人格を持った大人になるように
- ・ ネイティブスピーカーと積極的に会話する
 - 文法や発音にこだわらない。「英語は生きている」
- ・ 「役者になる」、恥を捨てる
 - 有名な台詞を覚える。声に出して話す。
- ・ 英語圏の諸国に旅行する
 - しかし、行けば急にうまくなるわけではない。動機づけにはなるかも

【書く】

- ・ 友人と英語でメールのやりとりをする

未修外国語

- ・ 教員の薦める辞書・参考書を選ぶ
- ・ スキルアップには検定試験を活用する
- ・ いろいろなメディア（テレビ講座、ラジオ講座、インターネット放送）を活用する
- ・ ネイティブの TA と仲良くなる
- ・ その未修外国語を母語とする留学生と友だちになる
- ・ できれば、大学中に選択した未修外国語を使う国に旅行して、実践してみる

<参考資料>

名古屋大学消費生活協同組合（1992, 1993, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2002, 2003, 2004, 2006）『外国語学習のアドバイス』

村田年監修(2006)『大学生のための電子辞書活用ハンドブック 2006』カシオ教育研究所

語学ティップスのドラフト

2007/01/10
近田

課題

- ・ 大学で外国語を学ぶことの意義をどう伝えるか
- ・ 授業時間内の学習ノウハウをもっと増やしたい
- ・ 電子辞書をどのように評価すればよいのか

ティップス① 大学で外国語を学ぶ上で、自分なりの目標を立ててみよう

高校までさんざん英語を勉強したのに、また大学でも必修なのか、とうんざりしている人がいるかもしれません。少なくとも 20 代のうちは英語を使い続けないと、すぐに錆びついてしまいます。あなたの英語能力は社会に出る上でまだ十分ではありません。自分の意見や感情を相手に伝えるスキル、英文の要点を把握するスキル、相手に伝わるような英文を書くスキル、これらのスキルは、エンジニア、ビジネスマン、医師、研究者、法律家、教師など職業を問わず、大学を卒業した後に多くの場面で必要となります。インターネットで使われている言語の大部分は英語です。自分は文学部ではないからといって、理系だからといって、英語を学ぶ必要がないと考えるのは実にもったいないと思いませんか。

人生の中で英語とどのように付き合っていくかを考えて、自分なりの学習目標を立ててみましょう。たとえば、次のような例が考えられます。何について、どのレベルまで習得したいのかを考えてみてください。「話す」「聞く」「読む」「書く」の 4 技能をバランス良く伸ばすことに留意してみてください。

- ・ CNN などの英語ニュースの大意を聞き取ることができる（聞く）
- ・ 英字新聞の概略を把握することができる（読む）
- ・ 日常会話に不自由しないコミュニケーション能力を身につける（聞く、話す）
- ・ 専門分野に関する英語文献を読むことができる（読む）
- ・ シェイクスピアを読めるようになる（読む）
- ・ 英語でスピーチや意見発表ができるようになる（話す）
- ・ 外国人と英語でメールのやりとりができる（書く）

英語以外の外国語の場合も同じです。外国語をゼロから学ぶのは大変なことです、その言語を話す人や国についての理解を深める機会にもなります。言語を学ぶプロセスを通して、これまで経験したことのない社会や文化や歴史に触れることができます。このことは、あなたの人間的な視野を広げる上で貴重な機会となるでしょう。大学時代に、英語以外の外国語についてどの程度の能力を身につけたいのか、自分なりに具体的な目標を立ててみましょう。

ティップス② 教員が薦める辞書を選ぼう

大学での語学学習で最初に行うことは、辞書を選ぶことです。どんな辞書を選んでよいのか見当がつかないかもしれませんが、名古屋大学生協では言語文化科目の担当教員の協力を得て、『外国語学習のアドバイス』という小冊子を作成し、無料で配布しています。まずこの小冊子を手に入れましょう。外国語の勉強法や辞書の選び方が紹介されています。教員が授業で紹介する辞書を購入するのもいいでしょう。

近年では伝統的な書籍版の辞書に加えて、さまざまな電子辞書が発売されています。両者は対

立するものではなく、相補う関係にあります。書籍版の特徴は、単語の意味から用例に至るまで、すべての情報が一覧できることです。また辞書の厚さによってどのくらいの水準、語彙数のものが一目瞭然です。アンダーラインや書き込みも自由自在です。

これに対して、電子辞書は検索速度の速さ、検索方法の多様さ、携帯性、音声機能など、多くの優れた特徴をもっています（電子辞書には携帯用のものと、パソコンにインストールして使用するものがあります）。しかし、検索が便利な分、表示される情報が階層化されているので、一覧することができません。用例などは再度検索する必要があるなど、詳細な情報を調べるには使いづらい点もあります。こうした点から、単語の学習定着度は書籍版に比べて低くなる可能性があります。値段も書籍版よりも割高です。こうした両者の特徴を理解した上で、それぞれの長所を活かした使い方をすることが大事です。

ティップス③ 地道な努力を継続しよう

ともすると、語学の授業は単調に感じられるかもしれません。たしかに、活用形などの複雑な文法、慣れない発音練習の繰り返しはなかなか骨が折れます。しかし、これを一人でやろうと考えると辛いものがあります。授業という場が提供され、教員や TA やともに学ぶ仲間がいることは、大きな励みになります。

スポーツや芸事を問わず、スキル習得のプロセスは S 字曲線を描くと言われています。最初はなかなか成果が上がらないように思っても、そこで諦めずに我慢して継続すれば、ある時期から飛躍的に成長することがあります。これはみなさんも、部活動や稽古ごとで経験したことがあることでしょう。語学も同じです。一定期間は辛抱して、地道な努力を続ける以外に王道はありません。小テストや発音練習がつまらないからといって、放り出してしまわないように我慢しましょう。

ティップス④ さまざまなメディアを活用しよう

とはいえ、授業を履修しているだけでは、外国語学習は十分とは言えません。授業時間外にも、さまざまなメディアを活用して自発的な学習を心がけることが相乗効果をもたらします。英語の場合は、たとえば英語字幕付きで好きな洋画の DVD を鑑賞するという方法があります。気に入った部分を繰り返し観ることができますし、日本語訳と対比させることも可能です。英語の実用スキルアップのためには、TOEIC や TOEFL などの検定試験にチャレンジするという方法もあります。英語以外の外国語の場合は、とくに入門レベルではテレビやラジオの語学講座を活用すると効果的です。

ティップス⑤ 学んだ外国語の母国に旅行しよう

せっかく外国語を学んだのだから、学生時代に一度くらいはその言語を母語とする国に旅行してみてもいいでしょうか。お金はかかりますが、夏休みや春休みを利用して外国旅行をすることで、外国語を学びたいと思う動機が高まるかもしれません。現地のインターネットカフェから、知人に英語メールを送るのもまた楽しいものです。

* 言語文化科目主査の長畑先生のモニター（1月10日）

* 鳥居さんの基礎セミナー受講生のモニター

スタディティップス 2007 改訂方針

2007/01/13

近田メモ

- ・改訂方針: 実験に関するティップスとコラム(体験談)を追加する
入学手続き時に新入生全員に配布し、入学前に読ませる
全学教育担当教員にも配布する
- ・改訂内容
 - ② 実験に関するティップス作成
 - ・ 齋藤さんがドラフト作成→実験主査にモニター (2月5日)
 - ・ 意義・目的の確認
 - ・ 学習効果を高めるノウハウ
 - ・ 安全確保の方法など
 - ⑤ コラム追加
実験に関する経験者(教員、先輩)の体験談をいくつか収集・整理する
 - ⑥ イラスト追加(実験)・差し替え →スコアレに連絡
表紙(イラストはそのまま)、時間割、図書館、TA、実験(2つ)
 - ⑦ フォント変更など →ダイテックに連絡
- ・制作予定(案)
 - 1月 ドラフト作成、センター内で意見交換
 - 2月 リライト、編集作業、入稿、校正
 - 3月 納品、配布
 - * 3月14日・15日・27日の入学手続きで配布する
 - * 4月3日の全学教育FDで担当教員に配布
 - * 4~5月に、実験・語学の授業でアンケートを実施
 - * 6月9・10日の大学教育学会で発表(「語学・実験の学習ノウハウ」近田・齋藤)
- ・ミーティングの日程
 - 1月22日(月) 午後4時すぎ 実験ティップスの第2次ドラフトを検討
- ・ミーティングの進め方
近田と齋藤が随時制作し、企画会議やセンター会議に諮る

実験タイプの追加部分 2007.2.9（原案作成：齋藤、編集：近田）

タイプ 2 つまらないからといって価値のない授業だと決めつけない

大学の授業の価値は一つの尺度では測れません。今はその授業の価値が理解できなくても、あとになってから実感するということも十分にあります。若いときには理解できなくても、歳月を重ねてから気づくことはたくさんあります。全学教育は全人的な教養を磨くところですが、ともすると若いあなたには抽象的で役に立たない話だと感じられるかもしれません。一方、基礎科目は習得すべき知識が非常に多く、苦痛を感じる人がいるかもしれません。

しかし、つまらないからといって、内容がわからないからといって、価値のない授業だとレッテルを貼らないようにしてください。つまらないと感じるのは、ひょっとしたら、あなたにまだその授業を受け止めるだけの力が備わっていないからかもしれません。その授業で学んだ基礎概念がのちのち必要になるかもしれません。そういうことは実際によくあります。「今はわからなくても、いずれわかるようになりたい」という気持ちを持って、しばらく辛抱して取り組んでみてください。実験や実習においては、まずは基本に忠実にこなしてみましよう。答を出すことよりも、そこに至るまでのプロセスを味わうことがより大切なのです。

ティップス 9 授業ごとに異なるルールを確認しよう

大学では、授業のルールの大部分は担当する教員が決めています。もちろん、基本的なことは共通です。当たり前のことですが、カンニングをしてはいけないし、私語をすれば注意されます。友だちの代わりに出席する、いわゆる「代返」も不可です。携帯電話の電源は必ず切ってください。大学では「学問の自由」が保障されている代わりに、大人として他者の人格や学習活動を尊重することが求められます。私語や携帯電話は明らかに他者の学習活動を妨害する行為です。あなたの周囲でそういう行為をしている人がいたら、注意してあげましょう。実験や実習においては、安全や倫理に関するルールが事前に説明されます。まずは、それらをきちんと守ってください。

このほか、授業によって異なるルールもいろいろあります。

- 出欠をとるかどうか、出席点を成績評価に加味するかどうか
- 飲み物(ペットボトルなど)を教室に持ち込んでよいかどうか
- 教室で帽子をかぶってよいかどうか
- やむを得ない理由で授業に出られないとき(災害、急病、葬儀など)、欠席扱いとなるかどうか
- 補講があるかどうか
- 試験の時に教科書・ノート・辞書類を持ち込んでよいかどうか
- 成績評価の方法は試験なのか、レポートなのか、それとも日常の課題なのか

これらの点については、各授業のシラバスを確認してください。もしくは、最初の授業の時に教員から説明があると思いますので、聞き漏らさないように注意してください。

ティップス 12 まずは正確に書き留めよう

まずは、教員が受講生に伝えたいことを正確に書き留めることが大事です。一般的に、教員が強調したい内容を表現するときには、丁寧に板書する、図示する、大きな声で話す、ゆっくり話す、繰り返し話す、事例を挙げる、重要だと考える理由を挙げる、学生に説明させる、などの方法をとることが多いでしょう。こうした教員のサインを見逃さないことが重要です。

ノートをきちんととらないと、せっかくの貴重な情報を逃すことになってしまいます。それは本当にもったいない。教員によってはプリントをたくさん配布する人もいますが、プリントを受け取るだけで満足してしまわないように。自分の頭でノートをとっておかないと、後でプリントを読み返しても、何が重要なのか思い出せなくなってしまいます。

実験の授業において実験記録としてつける実験ノートは、講義のときにとるノートとは違う意味を持っています。実験ノートには、手順、観察したもの、測定データなどを、正確に、そしてすべて記録することが求められます。結果がうまく出ない時でも、その内容をきちんと記録に残さなければなりません。実験ノートは発見や発明を裏付ける証拠資料となるものだからです。試行錯誤の過程をきちんと実験ノートに書く習慣をつけましょう。1年生のうちにこの習慣を身につけておくと、研究室に配属になってから、また、卒業後に研究や開発の仕事をするようになってから、大いに役に立ちます。

ティップス 16 予習・復習をちゃんとやろう

予習課題を地道にこなしましょう。課題に取り組むことで、次回の授業に出席する意欲が出てきます。課題をサボると、授業もサボりがちになります。また、締め切りが近くなってから慌てて片づけようとするとう学習が雑になります。鉄は熱いうちに打ちましょう。

実験や実習の予習では、まず、手順と安全や倫理上の注意事項を確認して下さい。**実際の様子を想像しながら、テキストを読んでみましょう。**「実験台のうえに何をどう並べたら実験が進めやすいか」、「実習中に必要なものをさっと取り出せるようにするにはどうしたらいいか」、など、具体的にイメージするのです。また、「なぜテキストにあるような手順になっているのか」、「違う手順や条件で実験したらどうなるか」など、いろいろと思いを巡らしてみましよう。実験や実習の内容が、より深く理解できます。

復習は授業の記憶が残っているうちに、早めに行うのが効果的です。最も効果的な学習方法は、授業が終わったら、あまり時間が経たないうちに図書館などの自習スペースを使って課題に取り組むことです。人間の記憶はあっという間に薄れていきます。試験の直前にノートを見直すという方法は、実はあまり効果的ではありません。わからないところはできるだけその日のうちにチェックしておきましょう。

ティップス 40 授業でのグループワークに積極的に参加しよう

基礎セミナーや実験・演習系の授業では、グループでの作業が多く取り入れられています。グループ作業には、ディスカッション、プレゼンテーション資料の作成、実験作業の分担、フィールドワーク、社会調査などいろいろあります。こうした活動に積極的に参加して、さまざまな学部の学生と交わり、他者の意見にコメントをしてみましょう。コメントを考えることは、他者の意見と自分の意見の違いを認識するということでもあります。

実験や実習では、複数の人が一つの現象を一緒に確認することが大事です。二人一組で実験するのは、大学の予算が足りないせいでも、どちらかがサボってもいいということでもありません。お互いから学び合う経験をすることに意義があるのです。グループ内で、うまく作業を分担しましょう。お互いがどんな作業をしたのかをきちんと理解・共有しましょう。他の人の実験手技から学び、他のグループが先生や TA に質問している時には積極的に耳を傾けてみましょう。

教員からのアドバイス（実験授業に関する追加分）

・実験の時は、深みにハマる前に教員やTAに質問して軌道修正することをお勧めします。実験には試行錯誤がつきものですが、せっかくなら良い試行錯誤をしてほしいと思います。深みにハマってからでは遅いのです。

・実験では、他のグループの様子や、教員やTAが他のグループにアドバイスしている内容に注意を払ってください。往々にして、うまくいかないところ、進め方がよくわからないところ、というのは共通していることが多いのです。人のやっていることをよく観察してください。逆に、自分の書いた実験レポートを友人にチェックしてもらうのもよいでしょう。

・実験は、五感をはたらかせる、プロセスをきちんと経験する、なぜ・どうしてと考えることが大事です。答を出すことに終始してはもったいないと思います。特に全学教育の実験では結果を予想できる場合がほとんどです。大事なことはプロセスを楽しむことです。

・実験の測定値が教科書通りにならないからといって、まちがっていると決めつけしないで下さい。実験は生き物ですから、誤差が出るのは自然なことです。なぜ誤差が出たのか、それは許容範囲か、間違えたとしたらどこがいけなかったのか、グループで話し合ってみて下さい。

資料2. スタディティップス 2006年版の表紙・裏表紙



資料3. 平成18年度学生生活ガイダンスでのスタディティップス 2006年版の紹介文
(2006年4月7日、持ち時間3分)

だいぶお疲れですね。ちょっと深呼吸しましょうか（深呼吸）。

高等教育研究センターといいます。このたび、『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』という小冊子を制作しました。この冊子です（手に掲げる）。封筒から出してみてください。できたてのホヤホヤです。「ティップス」というのは、コツとか秘訣のことです。緑色とオレンジ色の2冊あります。

この冊子は、みなさんが名古屋大学で学ぶためのヒントをまとめたものです。大学と高校の勉強の方法はかなりちがいます。これまでは答が用意されている勉強でした。しかし、名古屋大学の授業は本当に難しい。自分なりに工夫しないとついていけません。

緑色の冊子の方が第1号です。そもそも大学とはどういうところか、大学で学ぶことにはどんな意味があるのか、大学で学ぶ上で必要なマナーなどについて、わかりやすく紹介しました。

オレンジ色の方は第2号です。大学で学習を始める上で役立ついろいろな実践ヒントをまとめました。この中に、名大の教員や先輩学生からのアドバイスを随所に紹介しました。とても具体的で役に立つと思います。

私が言いたいことは2つだけ。このスタディティップスをぜひ読んでください。そして、実践してください。できれば、本当にためになったかどうか、意見を聞かせてくれるとうれしいです。

『名古屋大学新入生のためのスタディティップス 2006』アンケートのお願い

新入生のみなさん、大学生活には慣れましたか？

名古屋大学高等教育研究センターでは、2006年3月、名古屋大学の新入生用の学習支援教材として『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』（以下、スタディティップスと略す）を制作しました。同センターでは、このアンケートで得られた新入生のみなさんの意見を活かして、スタディティップスを毎年改訂し、新入生に提供していきたいと考えています。みなさんにご迷惑をかけることはありませんので、どうかご協力をお願いします。

平成18年4月25日
名古屋大学高等教育研究センター

*あなたの所属学部を教えてください。

1. 文 2. 教育 3. 法 4. 経済 5. 情報文化 6. 理 7. 医
8. 工 9. 農

*あなたの居住形態を教えてください。

1. 自宅通学 2. 下宿 3. 学生寮 4. その他

1. スタディティップスを読んだ感想はいかがですか。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

1. あてはまる 2. どちらかといえば、あてはまる
3. どちらかといえば、あてはまらない 4. あてはまらない

分量（2冊分）が適切であった	1	2	3	4
文章が読みやすかった	1	2	3	4
コラムがおもしろかった	1	2	3	4
各ティップスを実践してみようと思った	1	2	3	4
名古屋大学固有の情報がためになった	1	2	3	4
先輩からのアドバイスがためになった	1	2	3	4
教員からのアドバイスがためになった	1	2	3	4
各章末のチェックリストが役に立った	1	2	3	4

2. スタディティップスの内容について感想を聞かせて下さい。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください（手元のスタディティップスを確認しながら回答してください）。

1. とても参考になった 2. ある程度、参考になった
3. あまり参考にならなかった 4. 参考にならなかった

第1号：「学識ある市民」をめざして

- | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|
| 1. あなたが大学で学ぶことの意味 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. キャンパスの倫理 | 1 | 2 | 3 | 4 |

資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録

第2号：自発的に学ぼう

1. 授業から学ぶ	1	2	3	4
2. 本から学ぶ	1	2	3	4
3. 人から学ぶ	1	2	3	4
4. 学習習慣をつける	1	2	3	4

3. このスタディティップスを読んで、どのようなことに気づきましたか。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. とても感じた | 2. ある程度、感じた |
| 3. あまり感じなかった | 4. 感じなかった |

高校と大学の学び方の違いを理解できた	1	2	3	4
大学の授業に対して期待感・親しみが増した	1	2	3	4
「学識ある市民」の意味を理解することができた	1	2	3	4
大学で学ぶ上でのルールや倫理の重要性を理解できた	1	2	3	4
大学での学習方法に関するヒントを得られた	1	2	3	4
読書の重要性を理解できた	1	2	3	4
仲間をつくり、互いに学び合うことの重要性を理解した	1	2	3	4
学習目標を立てて、実行するためのヒントを得られた	1	2	3	4
主体的に学ぶことの大事さを理解できた	1	2	3	4
内容に応じて分冊化している点がよいと思った	1	2	3	4

4. このスタディティップスの中で、改善してほしい点がありましたら、自由に書いて下さい。

5. このスタディティップスシリーズは今後も続編を予定しています。取り上げてほしいトピックスがありましたら、自由に書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。

スタディティップス 2006 年版のアンケート結果

実施日：2006（平成 18）年 4 月 25 日

対象：全学教養科目「大学でどう学ぶか」の出席者全員

目的：スタディティップスについての意見・感想を収集

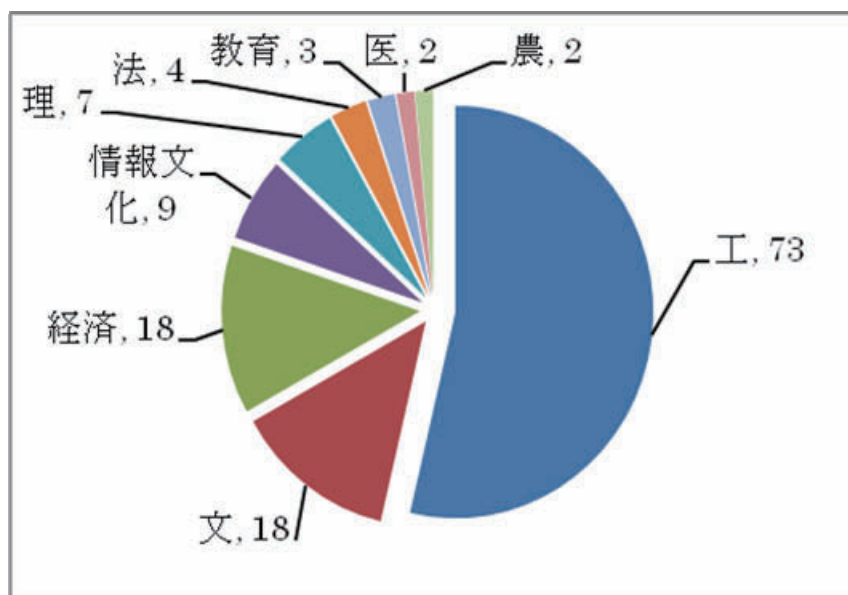
回答者のうち、「スタディティップスを読んでいない」および無回答の人を削除

サンプル数：136

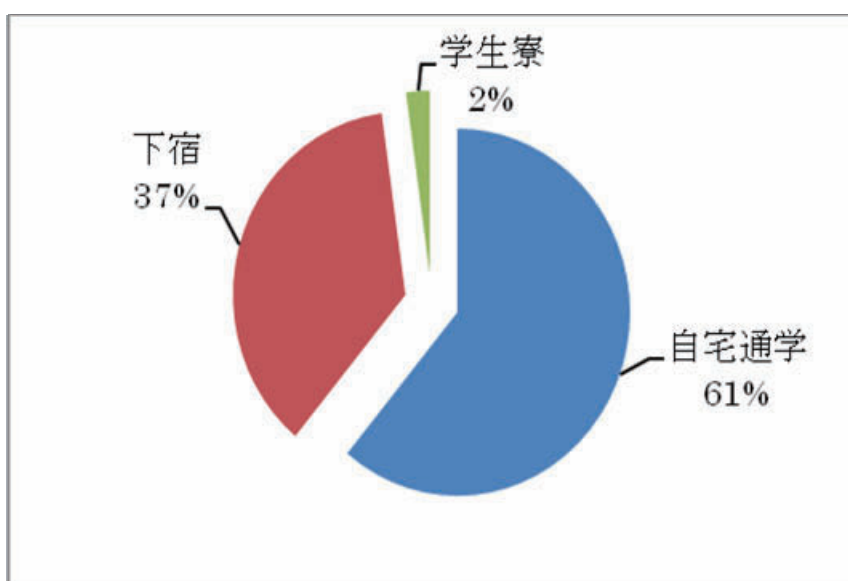
4 択を点数化し、平均値を算出 $0 \leq \text{平均値} \leq 3$

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 肯定 | → 3 点 | 2. やや肯定 | → 2 点 |
| 3. やや否定 | → 1 点 | 4. 否定 | → 0 点 |

回答者の所属学部



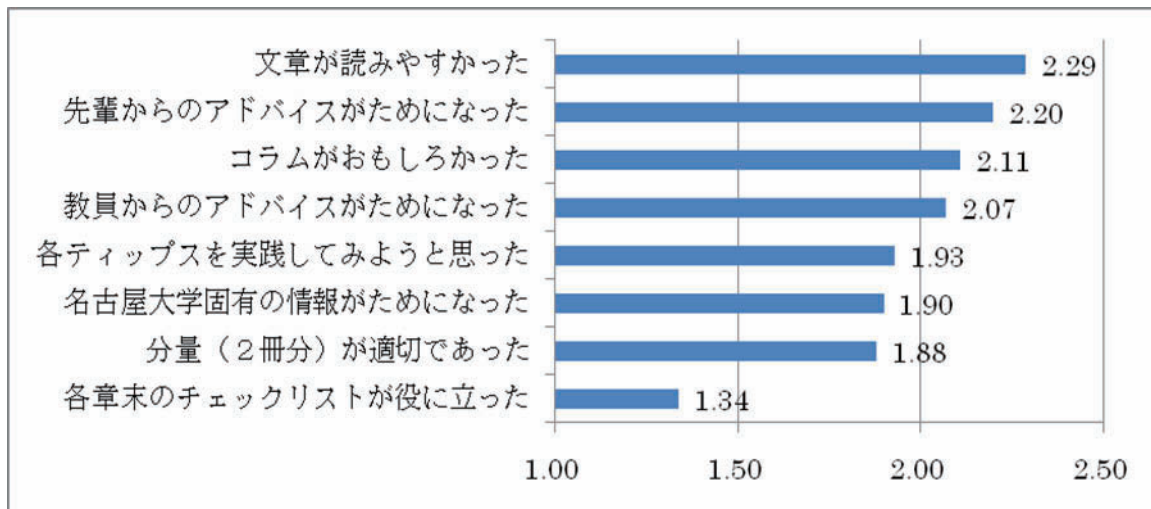
回答者の居住形態



資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録

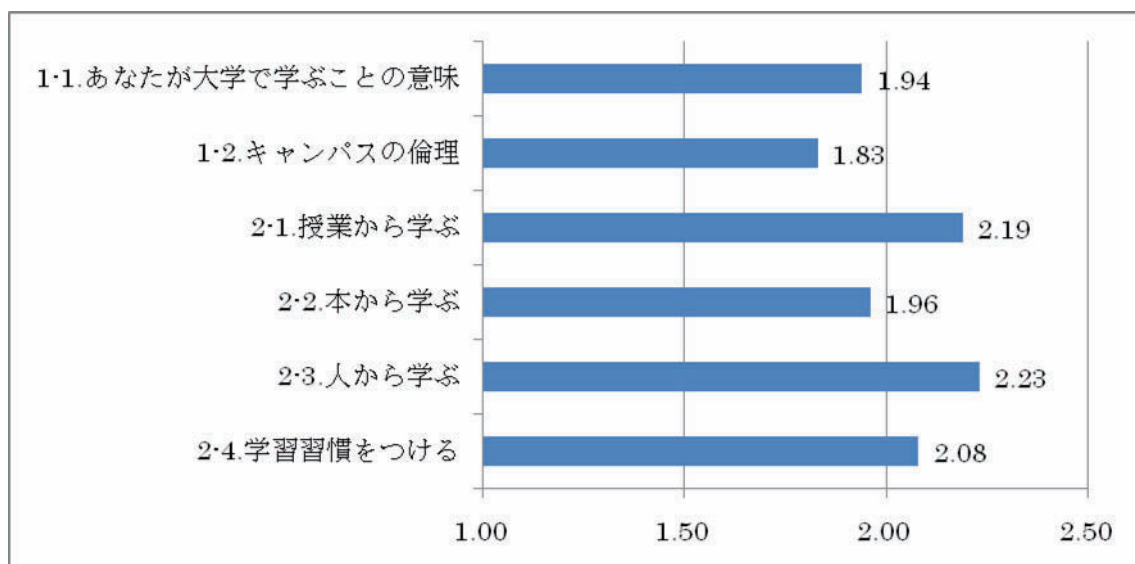
1. スタディティップスを読んだ感想はいかがですか。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. あてはまる | 2. どちらかといえば、あてはまる |
| 3. どちらかといえば、あてはまらない | 4. あてはまらない |



2. スタディティップスの内容について感想を聞かせて下さい。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください（手元のスタディティップスを確認しながら回答してください）。

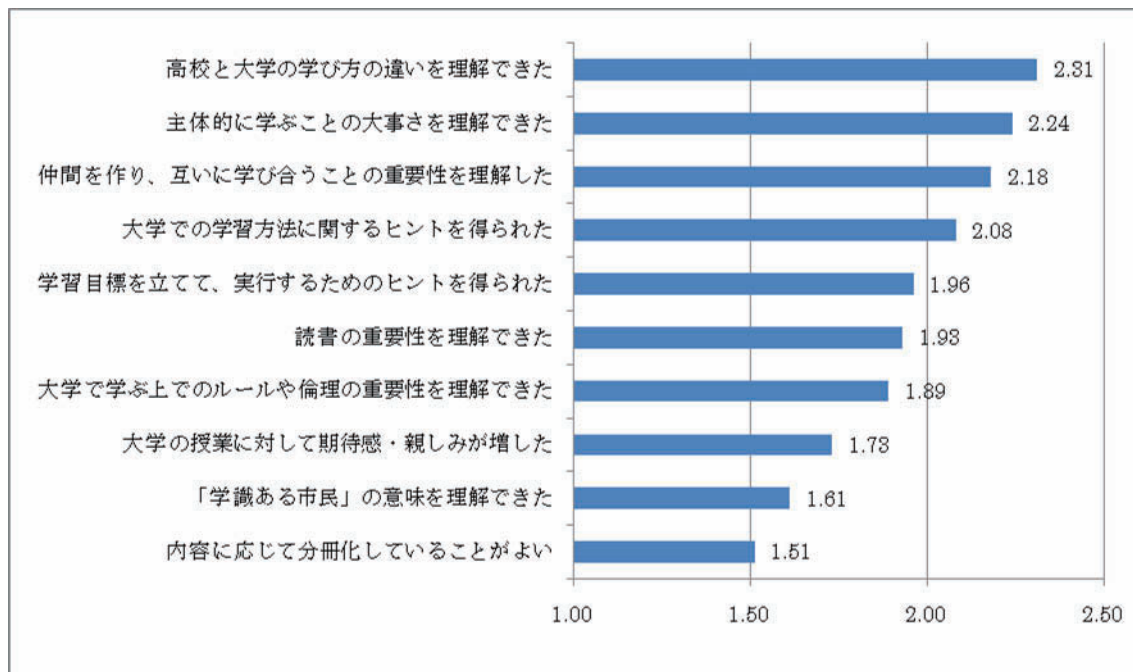
- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. とても参考になった | 2. ある程度、参考になった |
| 3. あまり参考にならなかった | 4. 参考にならなかった |



資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録

3. このスタディティップスを読んで、どのようなことに気づきましたか。次の4つのうちから、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. とても感じた | 2. ある程度、感じた |
| 3. あまり感じなかった | 4. 感じなかった |



4. このスタディティップスの中で、改善してほしい点がありましたら、自由に書いて下さい。

- ・一冊にまとめてもらえるといい。
- ・もう少し凝縮して一冊にまとまるといいと思います。個人的にはチェック項目はなくてもいいと思います。
- ・二冊だと失くしそうなので一冊にしてほしいです。
- ・分冊せずに一冊にした方が良くと思います。持ち運びにも便利です。
- ・一冊でもいいと思います。
- ・A4サイズにして一冊にまとめてほしいです。本棚の中で他の本に紛れてしまいます。文字の大きさも、もう少し小さくても良いと思います。
- ・コラムの前の文が次のページに続くと、ページをめくって、もう一度ページをめくり直してコラムを読むのが少しだけ面倒に感じました。イラストがかわいくて、ほどよく中に入っていて、読んでいて楽しかった。
- ・多少厚くなっても分冊するよりも良いのではないかと思う。内容に踏み入った意見だが、新書100冊・文庫50冊読むといいと書いてあったが、それでは足りない。4年間で少なくともその2倍は読むべきである。
- ・一冊の方が便利だと思う。
- ・先輩の助言のところで、文系学部の先輩の助言が少ないかなと思います。半々ぐらいの割合で載っているとうれしいです。文・理の違いは勉強の仕方でも結構違いがあるみたいなので…
- ・内容が結構漠然としていて、ちょっとわかりづらいです。
- ・絵があんまり可愛くないので、改善してほしい。『国家の品格』を意識しすぎている。
- ・教員・先輩からのコメントに極端なものがあると思う。
- ・一冊にまとめてほしい。

資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録

- ・文章の断定的な言い方の部分に関して、自分に合わない（気に入らない）と思ったところはとばして読んだ。→ 主軸は保ちつつも、複数の選択肢が欲しい。
- ・ちょっと多すぎる感じがします。もう少しスッキリまとめてもよいのでは。この分量なら入学してすぐ全部読むというより、困ったときにちょっとみてるくらいの読み方が適している気がしました。
- ・文が長いので、もう少し読みやすくしてほしい。
- ・ちょっと量が多くて読みにくい。
- ・特にないです。とてもマトモなことが書かれていると思います。
- ・一冊だったら大分厚く感じただろうが、二冊だったから自分でも読めた。今後も二冊がいい。
- ・もっと系統立ててほしい。どれも大切なのは分かるけれど、まずは一年のうちに何が大切か分かる、または考えられるような書き方をしてほしい。良い本なので、ガイダンスで適当に紹介するだけでなく、ちゃんと時間をとって内容にも踏み込んで、多くの人に読む気を起こさせるようにしてほしい。例：「大学生として」というガイダンスの日を設けるなど。
- ・あいさつをしようとか、小学生が教えられるような当たり前すぎることは載せなくていいと思う。
- ・スタディティップスを授業で読む時間がほしい。
- ・二冊に分ける必要はない。内容は最低。接客業であることを忘れているのでは？ 授業がつまらないのは教える側の責任が大きい。
- ・表紙が何か固いイメージがある（→学校のものという感じで手に取りにくい）。アドバイスの人数を増やしてほしい。これができるとさらにいいんじゃないかということを書き加える。
- ・イラストが人間じゃない生命体に見えるのを改善していただきたい。小学校の教材じゃあるまいし。表紙の2006年の表示を平成18年(H18)にしてほしい。無理ならせめて2006年(平成18年)等と表記してほしい。
- ・カラーにしてほしい。
- ・学生の体験談みたいなものがもっと欲しい。例えば人のノートを借りて困ったことについてとかを。
- ・レポートの書き方や、テスト勉強のやり方を具体的に書いてほしかった。
- ・もっと少なくして一冊にまとめてほしい。
- ・「死体」という言葉は使わないでほしい。
- ・もっと短くしてほしい。
- ・輩のアドバイスがよかった。改善点は特にないと思う。
- ・かなり読みやすいし、改善点は無い。
- ・先輩からの助言がよかったので、できるだけ増やしてほしい。
- ・内容を軽くして、さらに読みやすくするとよい。
- ・とてもわかりやすくいいと思いました。第二号は面白かったけど、第一号が難しいよ。
- ・ほぼ完成された内容で、主旨の一貫性・具体性・適切さ・読みやすさは多大に評価できるが、一般社会で一般的に求められる能力の充実のための方法といった、社会に出ることや出た時のことをシビアに考察した内容を加えて、大学がプレ社会として存在している面を見せると、大学生のモラルや現実的な物の考え方への貢献へつながると思う。
- ・名大に限らず、大学でやっている先端研究とはこういうものだ、と若干踏み込んだ領域で、詳しい内容をトピックとして載せて、学生の意欲をあおってほしい。
- ・新入生にとって身近なことから載せたほうが良いと思う。
- ・知の共同体や学識ある市民を意識して学ぶ人がどのくらいいるのか疑問に思った。
- ・「読め」と言われたから読んだのですが、表紙を見て「読んでみたい」と思えるようにしてほしいです。読む価値のあるものだと思います。
- ・チェック項目を前にした方が、取り上げられているテーマに興味を持ちやすい。
- ・各科目に対してやる気を起こす方法と勉強する方法を、もっと具体的に述べる。
- ・勉強に関すること以外の先輩方の大学生活についての体験談をもっと載せてほしい。

資料4. スタディティップス 2006年版の学生アンケート記録

- ・カラーがいい。
- ・学生に、この本の重要さを感じさせればなと思っています。
- ・説教はもうたくさんです。
- ・個人的には分冊していると読む気が失せるので、どれほど厚くなるかと一冊であってほしい(むしろ厚い方が立ち向かう気が出る)。
- ・単位面積あたりの情報をもう少し多くしてほしい。
- ・少々固い場所が何ヶ所かあると思います！ もっとくだけて書いてほしいところもあります。
- ・絵が気に入らない。
- ・一冊の方が良い気がする。もしくは厚さを二冊そろえるとか。
- ・履修の決定前に欲しかった。例を交えて、履修の説明がもっとしてあればよい。
- ・第2号はよかったけど、第1号はよくわからなかった。
- ・やはり抽象的な点があり、わかりにくいところがあると思った。二冊に分化している意味があまりわからない。横文字は減らしたほうがいいのか？
- ・冊子を分けずに一冊にしてしまったほうがいいのか？
- ・一冊でも良いのか？

5. このスタディティップスシリーズは今後も続編を予定しています。取り上げてほしいトピックスがありましたら、自由に書いて下さい。

- ・ノートの取り方についてももっと詳しく書いてほしい。スタディティップスは今後も出すべき。とても分かりやすいし、参考になる。
- ・教員の紹介
- ・サークル・部活などのことについて先輩のコメントも交えながら具体的に書いてほしい。
- ・教授おすすめの本を紹介してもらえると嬉しいです。
- ・単位についても詳しく書いてほしいです。やっぱり不安なので…
- ・先輩のノートの例とかあったり、時間割の例があったら参考になって良いと思います。
- ・レポートの書き方のヒントみたいなもの。人前での上手な話し方。
- ・勉強面について、先輩方のアドバイスをもっと充実したものにし、より具体性の強いケース・スタディをたくさん載せてくれるとありがたい。
- ・恋愛の方法。
- ・恋愛関係。
- ・サークルについてとかアルバイトについて詳しく書いてあるものがほしい。
- ・就職、研究に向けての道のり。
- ・レポートの書き方。
- ・指導教官の先生との接し方。何を話したらいいのかとか。
- ・名大特有の本を一冊作る。例えば学生と教授の考えの違いを対話でぶつけてみるなど。
- ・一人暮らしにおける栄養バランスの取り方について。
- ・レポートの書き方。
- ・部活動、サークル活動について。
- ・人との接し方について。
- ・アルバイトについて、もっと取り上げてほしい。
- ・節約術。
- ・形而上のこと。
- ・レポートの書き方がよくわからないので、できれば詳しく教えてもらいたい。授業は前の方でうけるべき(ノートも取りやすいし、先生に顔を覚えてもらいやすそう)。
- ・将来の職業を選ぶアドバイスとかがあると助かります。

「スタディティップス 2006」 アンケート結果の概要

高等教育研究センター
近田政博
2006.5.2

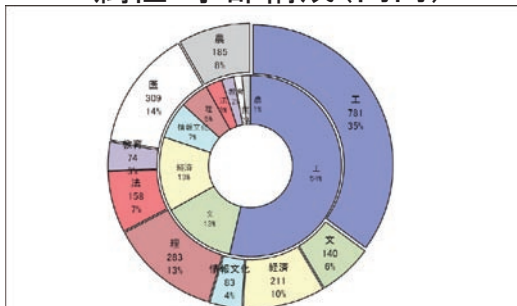
1

調査の概要

- 実施日: 2006(平成18)年4月25日
- 対象: 全学教養科目「大学でどう学ぶか」の出席者全員
- 目的: スタディティップスについての意見・感想を収集
- 回答者のうち、スタディティップスを読んでいないおよび無回答の人を削除→データの信頼性を高めるため
- サンプル数: 136
- 4択を点数化し、平均値を算出 $0 \leq \text{平均値} \leq 3$
 1. 肯定 → 3点
 2. やや肯定 → 2点
 3. やや否定 → 1点
 4. 否定 → 0点

2

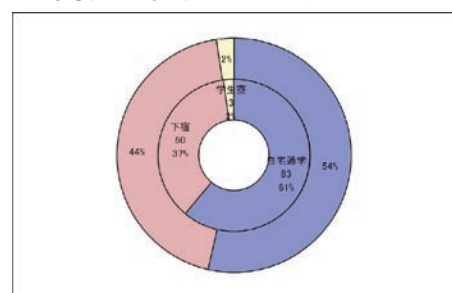
属性: 学部構成(内円)



受講者は工学部の割合が相対的に大きい

3

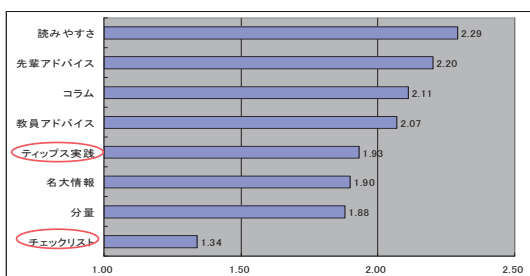
属性: 居住形態(内円)



受講者は自宅通学者の割合が相対的に大きい

4

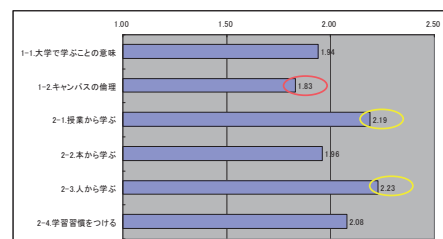
1. ティップスの形態



読みやすさと、実践しようという気持ちは別か？

5

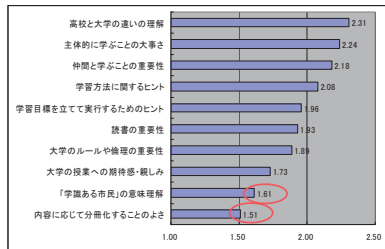
2. ティップスの内容



第1号第2章「キャンパスの倫理」はわかりにくかったか？
「人から学ぶ」と「授業から学ぶ」は、比較的高い評価。

6

3. ティップスの効果

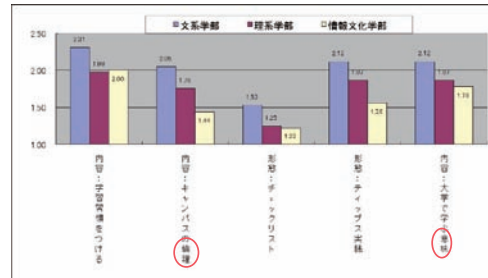


高校と大学の学びの違いは認識できた。

しかし、二分冊にする意味が伝わらない。

「学識ある市民」の意味が十分に理解できていない。

文系と理系のちがいを



全体的には、文系学部の方が理系学部よりも評価が高い。「キャンパスの倫理」や「大学で学ぶ意味」などの理念部分でその傾向が大きい。また、情報文化学部での評価が非常に低いのはなぜか？

改善してほしい点

- 一冊にまとめてほしい。持ち運びに便利(文:他多数)。30-40
- 教員・先輩からのコメントに極端な内容があると思う(経済)。1
- ガイダンスで適当に紹介するだけでなく、ちゃんと時間をとって内容にも踏み込んで、多くの人に読む気を起こさせるようにしてほしい(情報文化:他多数)。2-3
- あいさつをしようとか、小学生が教えられるような当たり前すぎることは載せなくていいと思う(情報文化)。25-30
- イラストが人間じゃない生命体に見えるのを改善していただきたい。小学校の教材じゃあるまいし(理:他多数)。10
- 第2号は面白かったけど、第1号が難しいよ(工:他多数)。5-6
- 勉強に関すること以外の先輩方の大学生活についての体験談をもっと載せてほしい(工:他多数)。25-30
- 名大に限らず、大学でやっている先端研究とはこういうものだと若干踏み込んだ領域で、詳しい内容をトピックとして載せて、学生の意欲をあおってほしい(工)。15-16

9

改善してほしい点(つづき)

- 横文字は減らしたほうがいいのか？(工)5
- 例を交えて、履修の説明がもっとあればよい(工)。15-17
- ちょっと多すぎな感じがします。もう少しスッキリまとめてよいのでは。この分量なら入学してすぐ全部読むというより、困ったときにちょっとみてるくらいの読み方が適している気がしました(経済:他多数)。15
- 先輩の助言のところで、文系学部の先輩の助言が少ないかなと思います(教育)。3
- 一般社会で一般的に求められる能力の充実のための方法といった、社会に出ることや出た時のことをシビアに考察した内容を加えて、大学が社会として存在している面を見せると、大学生のモラルや現実的な物の考え方への貢献へつながると思う(工)。12-13
- 知の共同体や学識ある市民を意識して学ぶ人がどのくらいいるのか疑問に思った(工)。10

10

続編で取り上げてほしいトピックス

- 学習面
 - ノートを取り方
 - 教授お勧めの本
 - 教員の紹介
 - 指導教員との接し方
 - ノートや時間割の事例
 - 単位についての説明
 - レポートの書き方
- 生活面
 - 職業選択・就職についての道のり
 - 恋愛の方法
 - 一人暮らしにおける栄養のバランス
 - 部活動・サークル
 - アルバイト
 - 節約術

11

名古屋大学高等教育研究センター編『かわらばん』2006年春号（2006年4月）
2面

News!

『名古屋大学新入生のための
スタディティップス』を刊行

名古屋大学高等教育研究センターでは、このたび「名古屋大学新入生のためのスタディティップス」シリーズを刊行いたしました。このシリーズは名大の新入生が大学で学ぶことの意味を理解し、大学での学習活動を充実できるようにするためのアイデアや実践方法をまとめたものです。新入生向けの学習支援教材として、4月の新入生ガイダンスで新入生全員に配布しました。今回は、第1号「学識ある市民をめざして」と第2号「自発的に学ぼう」の2冊をリリースしました。第1号では大学で学ぶことはどういうことか、研究大学とは何か、大学時代に何をなすべきか、大学で学ぶ際を守らなければならないルールについてわかりやすく説明しました。第2号では、名古屋大学の新入生が自発的な学習をできるようにするための具体的な方法論をわかりやすく示しました。先輩学生や教員からのアドバイス、コラム、イラスト、内容の要点をまとめたチェックリストなど、新入生が親しみやすい内容になっています。

大学での学習活動にうまく適応できるかどうかは、高校までの受身の学習スタイルから脱皮して主体的・自律的・自発的な学習者になれるかどうかにかかっています。さまざまな研究結果によると、特に入学後の半年間が重要な意味を持つと言われています。名大生は基礎学力の点では比較的恵まれているといえます。しかし、それでも「学ぶことを楽しむ」学習者になりきれない学生は少なくありません。本シリーズが主体的に学ぶためのきっかけを提供できれば幸いです。

名古屋大学の学生・教職員には本冊子を無料で差し上げます。ご希望の方は、高等教育研究センターまでご連絡下さい。

（事務局内線5569 info@stie.nagoya-u.ac.jp）（近田政博）



『読売新聞』（2006年4月6日）朝刊 15面

対人力を磨く

③

「あいさつをしよう」
「質問を恐れるな」

「授業でのグループワークに積極的に参加しよう」

名古屋大学（名古屋市）が今年初めて、入学後のガイダンスで配布する小冊子「名古屋大学新入生のためのスタディティップス」には、大学生活を有意義に過ごすために、こんな「ティップス（秘訣）」が書かれている。

冊子は、大学で学ぶ意味など理念的な内容をまとめたものと、具体的な行動のヒントを集めたものの2冊セット。

編集したのは、同大高等教育研究センターの教員たちだ。もともと教員の指導法を研究するなか、教員支援を行ってきた。効果的に教育するには学生側を支援することも必要と考え、2年前から冊子作りの準備を始めた。

まずアメリカなどの事例を研究し、学生の生活状況を調べてみた。

授業の90%以上で出席してい

る学生が66・4%（2004年）を上り、1992年より20倍以上増えた。ところが、サークルなど課外活動に参加しない学生も34・9%から39・4%に増加。読書量も減る傾向にあり、「1か月ほとんど読まない」という学生が21・6%から33・4%に増えた。

最近の学生は授業には出るが、知的刺激に乏しい生活を送っているようだ。人間を成長させる「肥やし」が不足している

とも言うことでこの冊子では人から学ぶ」といふことを柱のひとつに据えた。

内容は一人と出会うことの意味を知ろうなどと3項目を挙げ、具体的な行動に役立つようなティップスも紹介している。教員や先輩学生から集めたアドバイスも盛り込んだ。「他人から誘われて、何かをしようかどうか迷っているときは「イエス」の方向で考えてみる」など、背中を押してくれる助言も。

こうした冊子を作り、「あいさつ」にまで言及するのは「授業中にメールをする」「事前連絡なしに突然教員を訪ねてく

る」など、基本的なマナーを知らない学生が存在があるからだという。

同センター助教授の近田政博さん（教育学）は「学生の知的発達には、人間関係を築ける能力を育てることが重要。一人で

「あいさつを」「質問恐れず」



教員たちが議論を重ね、学生のための秘訣集をまとめた（名古屋大学高等教育研究センターで）

生活態度冊子に学ぶ

「新しい仲間ばかりでなく、異なる価値観との出会いを大切にしたい。「働く過剰」などの著書がある東京大学助教授の玄田有史さん（労働経済学）も「仲のいい友人も大切だが、たまにしか会わないような弱いつながりの友達も大切にしてほしい。そういう友達は異なる環境で生活し、価値観も違うので、自分の視野を広げ、人間関係の発展につながるでしょう」と話

新入生のためのスタディティップス（冊子から一部を抜粋）
①人と出会うことの意味を知ろう
▽あいさつをしよう▽仲間と議論をしよう▽人と話が合わない経験をするのも大事な▽人と出会うチャンスを積極的に活用しよう
②教員との距離を縮めよう
▽教員に関する情報を集めてみよう▽質問を恐れるな▽教員の研究室を訪問してみよう
③仲間とともに学ぶ大切さを知ろう
▽新しい仲間を作ろう▽授業でのグループワークに積極的に参加しよう▽授業で学んだ内容を仲間と共有しよう

暗記するような高校生までの学習方法と異なり、多様な価値観を持つ人から刺激を受け、自分の考えを発展させてほしいからです」と新入生にエールを送る。

『中日新聞』（2006年4月25日）朝刊15面

新入学生用の学習 ガイドブック刊行

名大の研究センター

名古屋大高等教育研究センターは、新入生用の学習ガイドブック「名古屋大学新入生のためのスタディ・ティップス」を刊行した。大学で学ぶことの意味を理解し、大学での学習活動を充実させるためのアイデアや実践方法をまとめており、二千二百人の新入生全員を対象にガイダンスで配布した。

今回は第一号「学識ある市民をめざして」（A5判三十一ページ）と第二号「自発的に学ぼう」（同七十三ページ）の二冊を同時に発行した。一号では、大学で学ぶことはどういうことか、その際に守らなければならないルールなどについて説明。二号では、新入生が自発的な学習をできるようにするための具体的な方法論を分かりやすく示した。先輩や教員からのアドバイスを、コラム、チェックリストなども盛り込み、読みやすい内容にした。



名古屋大学編『名大トピックス』No.156（2006年5月25日）27頁

「名古屋大学新入生のためのスタディティップス」を制作

●高等教育研究センター

高等教育研究センターから、新入生向けの学習ハンドブック「名古屋大学新入生のためのスタディティップス」シリーズが刊行されました。このシリーズは本学の新入生が大学で学ぶことの意味を理解し、大学での学習活動を充実できるようにするためのアイデアや実践方法がまとめられた冊子です。4月の新入生ガイダンスで学習支援教材として新入生全員に配布されました。

今回は第1号「学識ある市民をめざして」と、第2号「自発的に学ぼう」の2冊がリリースされました。第1号では、大学で学ぶことはどういうことか、大学で学ぶ際に守らな

ければならないルールとはどういうものか、などについてわかりやすく説明されています。第2号では、本学の新入生が学習を自発的にできるようになるための具体的な方法論がわかりやすく示されています。先輩学生や教員からのアドバイス、コラム、イラスト、チェックリストなどが盛り込まれ、新入生が読みやすい内容になっています。

大学での学習活動に適應できるかどうかは、主体性・自律性・自発性を身につけられるかどうかことが重要とされています。さまざまな研究結果によると、特に入学後の半年間が重要な意味を持つとされています。「本学でも学ぶことを楽しめない学習者が多いので、本シリーズにより、主体的に学ぶためのきっかけを提供していきたい」と著者は語っています。

本冊子は本学の学生・教職員には無料で配布されています。ご希望の方は高等教育研究センターまでご連絡下さい。
(連絡先：info@cshe.nagoya-u.ac.jp)



「スタディティップス①」の表紙



「スタディティップス②」の表紙

名古屋大学編『名古屋大学 GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2008』9頁

スタディ ティップス

2008 Nagoya University
STUDY TIPS



名大生になったら最初に読もう!

名古屋大学新入生のためのスタディティップス

大学に入ってしまったら思いっきり遊べるぞと思いませんか?

実際のところは、名古屋大学での勉強はけっこう大変です。でもやりがいがあるということを多くの名大生が証言しています。名大は本気で学ぼうと考えている人にとっては、すばらしい環境がそろっています。ただし、あなたが授業を無断で休んだとしても、大学では誰も叱ってくれません。それは自己責任としてみなされます。1回の授業時間は長いし、勉強する内容は高校までとは比べものにならないくらい難しい。時間割も自分で作らなくてはいけない。そして、キャンパスはとてつもなく広い。食堂はいくつもあるし、教員は1800人もいます。高校とのスケールの違いに、いろいろと戸惑うことがあるかもしれません。でも心配しないでください。『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』という虎の巻があります。この冊子は新入生が大学で学ぶことの意味を理解し、大学での学習活動を充実できるようにするためのアイデアや実践方法をまとめたものです。新入生オリエンテーションで全員に配付しています。この冊子は2冊あります。第1号「学識ある市民をめざして」では大学での学習は高校までの勉強と何が違うのか、大学で学ぶことにどんな意味があるのか、大学で守らなければならないルールやマナーなどについて、わかりやすく説明しました。第2号「自発的に学ぼう」では、新入生が自発的に学習できるようになるための具体的なノウハウをわかりやすく紹介しました。先輩学生や教員からのアドバイス、コラム、イラスト、チェックリストなどがたくさん盛り込まれて、新入生が読みやすい内容になっています。名大生の第一歩は、この冊子を開くことから始まります。

【問い合わせ先:高等教育研究センター 電話052-789-5696】



平成19年度前期 全学教育担当教員FD 話題提供
2007.4.3

名大生の現状と学習支援のあり方

高等教育研究センター 近田政博

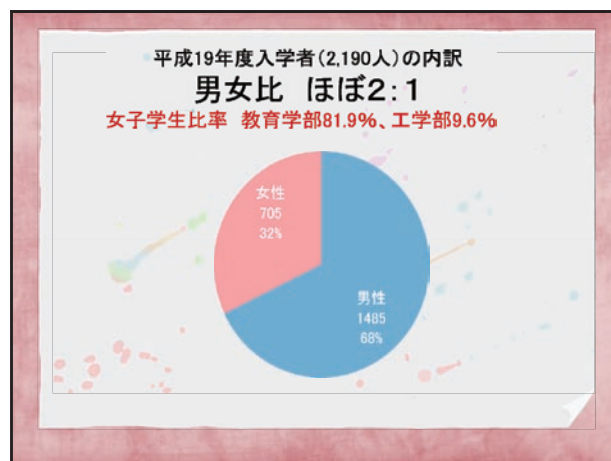
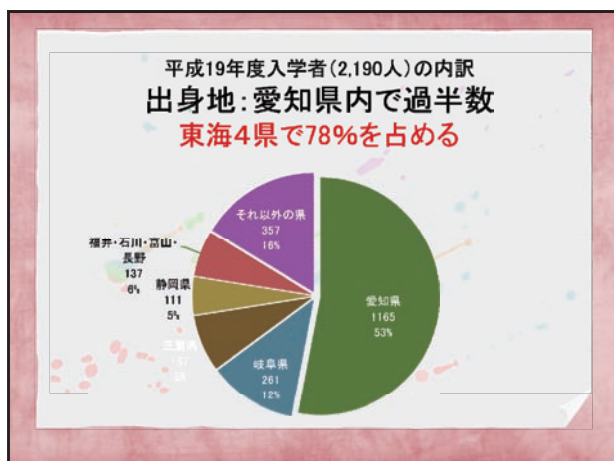
この話題提供のねらい

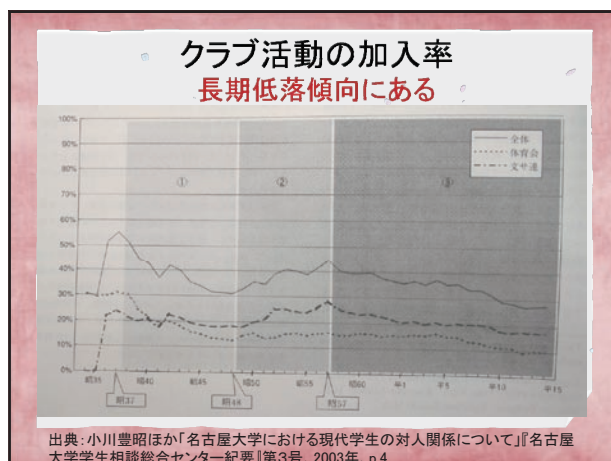
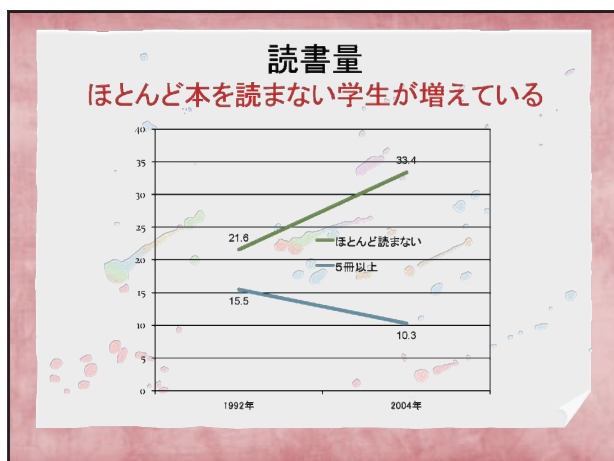
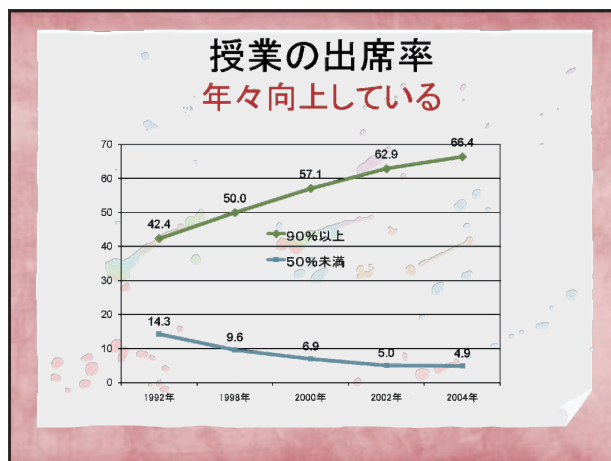
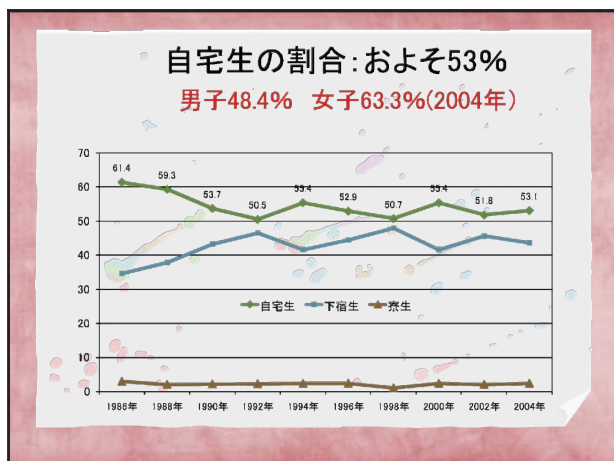
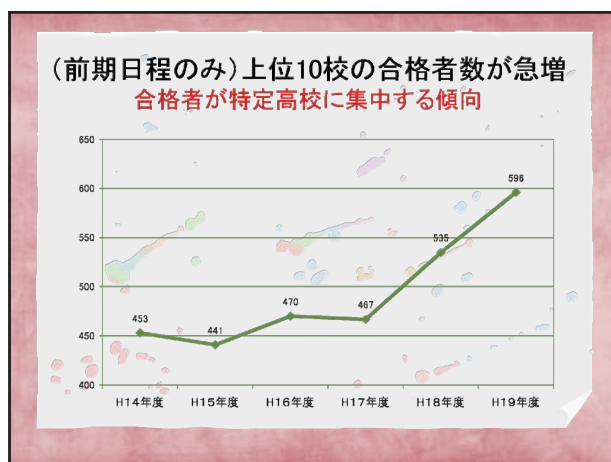
- 学部学生、特に全学教育が対象とする低年次生(1~2年生)に対して、どのような学習支援を行うのが効果的か
- 大学として組織的に取り組む課題とは別に、個々の教員が授業を通して取り組むことのできる方法を考える

4つの提案

- 授業の中で良書をたくさん読ませる
- 学生同士で協同して学ぶ機会を作る
- 既存の学習支援サービスを活用するように勧める
- TAIに活躍してもらおう工夫をする

名大生の現状はどうなっているか





「名大の授業」

-インターネット上への教材の無償公開-

- ・名大の実際に使われている教材を電子化しインターネット上で無償公開する。
- ・名古屋大学の教育の一端を、社会へ広く情報発信する
- ・学生の自学自習教材としての活用だけでなく、教員と学生、教員と学外者、そして教員同士の交流・インタラクションを期待する
(サイトより引用)

<http://ocw.nagoya-u.jp/>



学生パートナーシッププログラム

日本人学生と留学生が交流するきっかけを提供する

- 留学生センターが担当
- <http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/partnership.html>

『名古屋大学新入生のための スタディティップス2007』

大学で学ぶことの意味と基本的方法を伝える

- 「学識ある市民」をめざす
- 48の実践ティップス
 - つまらないからといって価値のない授業だと決めつけない
 - 人がすすめる本を選ぼう
 - 人と話が合わない経験をすることも大事だ
 - 教員に関する情報を集めてみよう
- 先輩学生や教員のアドバイスを掲載
- 新入生全員と全学教育担当教員に配布

名古屋大学新入生のための スタディティップス①

「学識ある市民」をめざして
2007

名古屋大学高等教育研究センター

名古屋大学新入生のための スタディティップス②

自発的に学ぼう
2007

名古屋大学高等教育研究センター

ティップス先生からの7つの提案<学生編>

授業にどうやって主体的に参加するか

- 教員と接する機会を増やす
- 他の学生と協力して学習する
- 主体的に学習を進める
- 学習の進み具合をふりかえる
- 学習に要する時間を大切に
- 意欲的な目標に挑戦する
- 異なる考え方や背景を尊重する

- 各提案に基づいた実践アイデアを提供
- ウェブと冊子の両方

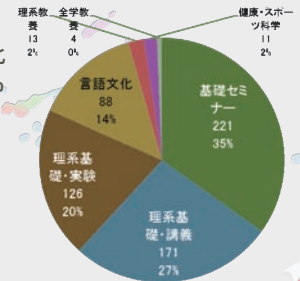
3. 各種学習サービスをどう活用するか

- 大学でどう学んでよいかわからない
 - ➡ スタディティップス、7提案<学生編>
- 先輩学生からアドバイスを聞きたい
 - ➡ ピア・サポート、スタディティップス
- 留学生と交流したいが、きっかけがつかめない
 - ➡ 学生パートナーシッププログラム
- 個人的な悩みがある
 - ➡ 学生相談、メンタルヘルス
- 名大の名物授業について知りたい
 - ➡ 「名大の授業」

TAの採用状況

事例：名古屋大学全学教育のTA
(平成18年度：634人)

- 基礎セミナー、理系基礎科目、言語文化科目の3科目で95%を占める
- 時給はM生1,200円
D生1,300円
- 講義系は約30時間
- 実験系は約60時間



TAの仕事内容

科目によって大きく異なるが、教育補助業務に限定

科目名	授業時間中の職務内容	授業時間外の職務内容
基礎セミナー	・討論への参加 ・担当教員の補佐	・教材の予習 ・資料の準備 ・質問への対応 ・レポートの添削補助 ・情報授業法指導者講習会の受講および附属図書館の利用説明等
理系講義 (基礎科目)	・演習の指導補助 ・レポート採点結果の説明 ・試験監督の補助(数学のみ)	・演習、レポート採点補助 ・演習、レポート問題の作成補助
理系実験 (基礎科目)	・実験内容・装置操作法の説明 ・質問への対応 ・レポートの作成指導	・実験内容の予習 ・実験手順の打ち合わせ ・レポートの採点補助 ・実験教材・器材の準備
言語文化科目	・模範会話の実演 ・発声指導や口頭練習の指導補助 ・リスニング練習、書き取りでの協力 ・机間巡視の分担 ・ディベート参加 ・語法のニュアンスの説明	・視聴覚教材の作成あるいはプログラム作成の補助 ・テスト、宿題、レポート、作文の添削採点と管理の補助 ・電子データ管理等の補助

出典：「平成18年度全学教育科目に係るティーチング・アシスタントの職務内容等について」名古屋大学 教養教育院資料をもとに作成。

それでも多くのTAはやりがいを感じている

TA経験を通して学んだこと	件数
ティーチングの方法や教えることの難しさについて学ぶことができた	36
担当授業の内容を復習することができた	31
教員の視点や立場を知ることができた	22
学生とのコミュニケーション方法、学生の思考方法を学ぶことができた	20
教える経験が自分の研究に役立った	14
自分の専門分野とは異なる考え方を学んだ	5
自分が学部生だった頃を振り返ることができた	5
経済的に助かった	5
教員とコミュニケーションすることができた	5
その他	13

備考：平成18年度前期名古屋大学全学教育科目TA報告書を集計・分類(計156件)

4. TAを活躍させる方法(一例ですが、)

- このあと予定されている科目別FDでTAの職務内容や授業実践方法について議論する
- 授業をモニターしてもらおう
- 学生の反応・意見を聞き出してもらおう
- TAが将来大学教員を目指している場合は、授業ノウハウを伝授する
- たまには授業をさせてみる(?)

結論：4つの提案

- 授業の中で良書をたくさん読ませる
- 学生同士で協同して学ぶ機会を作る
- 既存の学習支援サービスを活用するように勧める
- TAに活躍してもらおう工夫をする

修士論文作成ガイドライン (試作版)

2007.7.18 近田政博

修士論文に求められる水準

→ 学術論文の型をマスターすることが大事。
世界初の発見は必要ない！

- 社会的・学問的に意義のある **課題意識**
- 明確かつ実行可能な **研究目標** の設定
- **先行研究** の整理と特徴把握
- 既存の **理論・分析枠組み** の活用
- 研究目的に即した **調査・実験方法**
- 調査・実験 **結果** と、そこから導き出される **結論**
- **注、参考文献** のリスト

大学院生活で気をつけること

- **指導教員** と定期的に連絡を取る。近況を報告する
- 指導教員の **研究指導** を受ける時はアポイントをとる
- 積極的に各種の **研究会** に参加して、自分の意見をアピールする
- 研究が思うようにはかどらず自己嫌悪に陥った時でも、**コンスタント** に勉強を続ける
- 孤独にならないように、互いに励まし合う **友人**、辛口のコメントしてくれる友人を見つける。
- **社会** との接点を保つ。新聞を毎日読む。
- 時には **気分転換** を図る(スポーツ、趣味、家族など)

大学院の発表で気をつけること

- **重要なことを最初に言う**
- 原稿を読み上げない。説明は **重要な部分** だけに絞る。活字にない部分を補足する
- 相手は **予備知識** がないものと思って話す
- 厳しく突っ込んでくれた相手に **感謝** する
- 未熟でも **言い訳しない**
- 質問では、前置きしない。 **一番聞きたいことを最初に聞く**
- 人の発表にコメントするときは、 **最初に良いところを指摘** する。厳しいコメントはその次に。

課題提出時に注意すること

- **締切** を守る
 - ギリギリ提出を避ける(少なくとも一日前に)
- **分量** を守る
 - 多すぎない
 - 字数、枚数
- **様式** を守る
 - 日付、ページ数を明記
 - 提出方法を確認する
 - ファイル形式(ワード、一太郎など)
- **バックアップ** をとっておく
 - メール添付が届かない場合がある
 - 教員がミスする場合がある

先行研究の探し方

- 著名な研究者、多くの人が **引用** している論文
- **指導教員** が高く評価している論文
- 多くの図書館に **所蔵** されている本
- **著者** に対する学問的な評価が高い文献
- 自分で読んでみて、 **納得** できる部分が多い文献
- 思考・分析の枠組みが **図式化** されている文献

先行研究の読み方

- 読むべき文献を事前に**リストアップ**する
- コピーをとるときは、**奥付**も一緒に
- 本のコピーは半以下にとどめる(**著作権法**)
- **目的、方法、結論**部分に注目する
- **論理展開(ロジック)**の工夫を学ぶ
 - 読み手をどのように説得しようとしているか
- **図表**に注目する
 - 理論・分析枠組みをどう図式化しているか
- **専門用語の定義**に注意する

良い論文とは？

- 研究の意義が伝わってくる
- 構造がシンプル
- 文章がシンプル
- 章・節などのバランスがよい
- 読みやすい
- 熱意を感じる
- 主張が明確
- 感動がある

問題意識の立て方

- 疑問に思うことをhowやwhyで**問いを立てる**
 - なぜ〇〇なのか
 - どうやったら〇〇になるのか
- Howやwhyで立てた問いに対して、自分なりの**仮説**を立ててみる
- 有力な先行研究から**理論・分析枠組み**を見つける
 - 研究の効率化(途中までエレベーターを使う)
 - ねらいを絞る
 - 既存の理論・分析枠組みの問題点・矛盾点・不足を検証する・批判する

テーマの選び方

- 自分にとって最も大事な**キーワード**は何か
- 社会的・学問的な**可能性**があるか
 - 自分のモチベーションを高めてくれる
 - 長持ちする
 - 指導教員とよく相談すること
- 自分の**人生・キャリア**にとって役に立つか
- 目標にしたい**先行研究**があるか
- **実現可能**か
 - 規模が大きすぎると手に負えない
- **個性・インパクト**があるか
 - 概観、一考察、現状と課題などは平板かも

調査・実験で気をつけること

- 調査・実験計画を立てて、事前に**指導教員**の了解を取る(必ず！)
- 調査対象、被験者に迷惑をかけない、**プライバシー**を守る
 - 調査・実験当日
 - 論文にまとめる際の配慮(個人名を出さない)
- 録音、録画、論文化することを相手に**事前了解**をとる
- できるだけ早く**記録**にまとめる

章立ての際に気をつけること

- まず**テーマを固める**
 - テーマがぐらついている時は、章立てを考えても意味がない
- できるだけ**リニア型**(単線的な)の構成にする
 - 問題意識、研究目的、先行研究の整理、研究方法、結果・結論、参考文献という流れ
 - 横に膨らませると冗長になりがち。2年間で書ききれない。
- **構成に必然性**があるかを検証する
 - 書きたいことでも論理的な必然性がなければカットする
- 序章に力を入れすぎない
 - 序章と各章を往復運動で書くのがベター
 - いつまでも序章を書いていると時間が足りなくなる

文章表現で気をつけること

- 曖昧な表現を避ける
- 一文をできるだけ短くする
- 論理的に意味のない読点(、)を極力少なくする
- 主語・述語の対応関係を明確にする
- 指示語、代名詞をできるだけ使わない
- 話し言葉を使わない
- 専門用語・業界用語を慎重に取り扱う
 - 読み手が知らないという前提に立って説明する

リスクへの対策

- 予備の時間を確保しておく
 - 風邪、インフルエンザ
 - 身内のトラブル
 - 指導教員からの急な「ダメ出し」
 - パソコンの故障
 - データの紛失
 - 調査相手のドタキャン
- 作成したファイルのバックアップを定期的にとっておく
(パソコンは不意に故障するもの)
 - 外付けハードディスク
 - USBメモリ
 - 自分あてのメール添付など
- プリンタなどの消耗品を備蓄しておく
- 修論を書くのに必要な段取り・要素を考える
- 残り時間を意識する

名古屋大学高等教育研究センター
2007年度 大学教員準備プログラム資料
2007.9.19

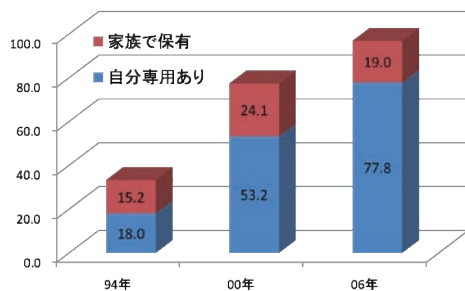
現代の大学生

担当: 近田政博

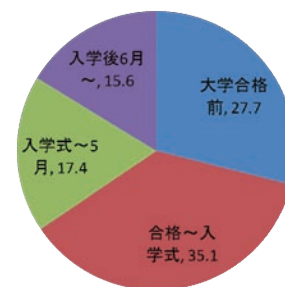
現代の大学生に関するデータ (全国大学生生活協同組合連合会)

- 目的: 大学生の生活、主に経済的な側面と大学生の意識や行動を明らかにし、結果を大学生生活の充実と生協の諸活動の発展に役立てる
- 方法: 郵送留め置き方法・各生協で学生名簿からランダムサンプリングして調査票を郵送(一部手渡し)
- 時期: 2006年10~11月
- 対象: 4年制の国公立・私立大学の学部生
- 回収数: 10,190

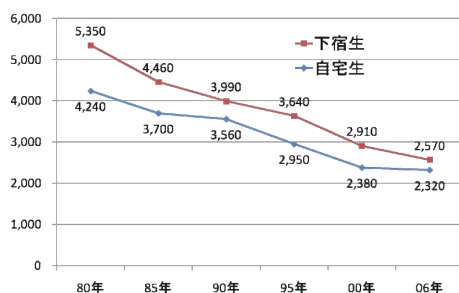
パソコン保有状況 4分の3以上が専用パソコンを保有



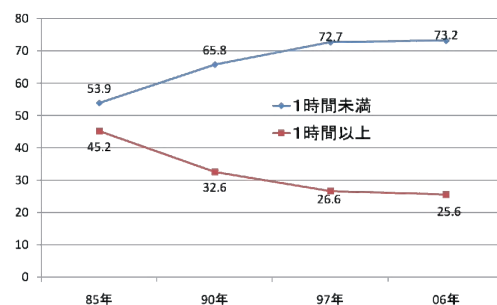
パソコンの購入時期 入学後二ヶ月以内に購入する学生が多い

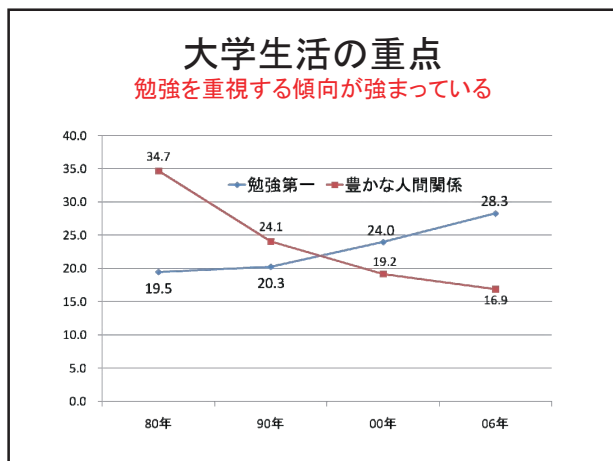
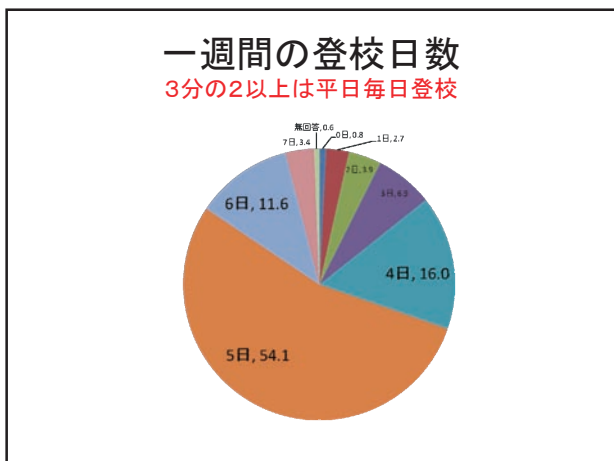
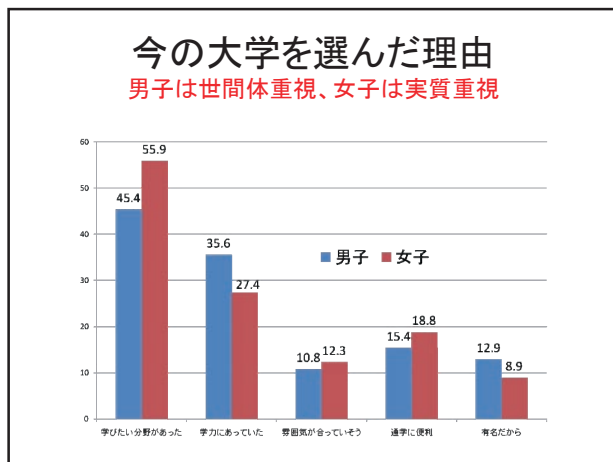
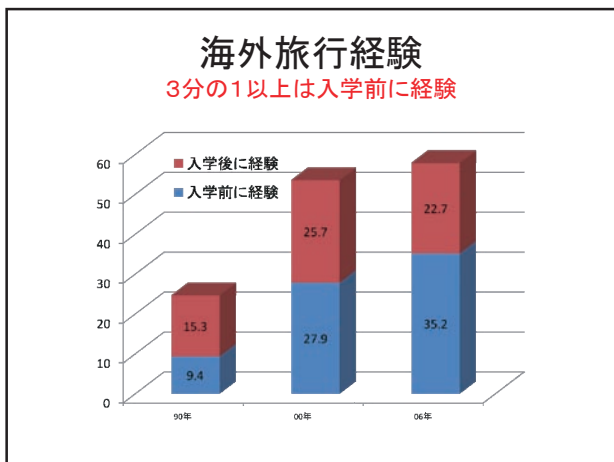
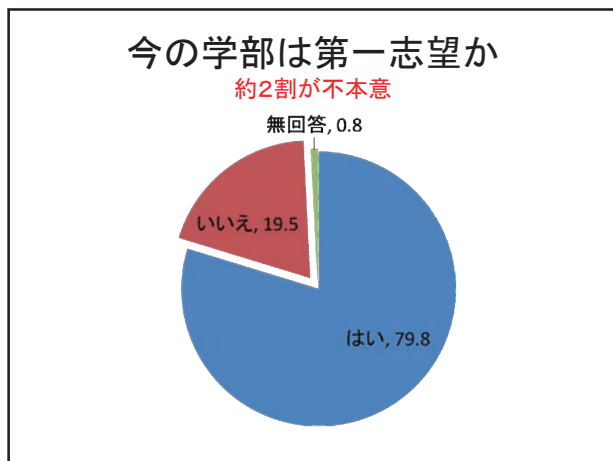
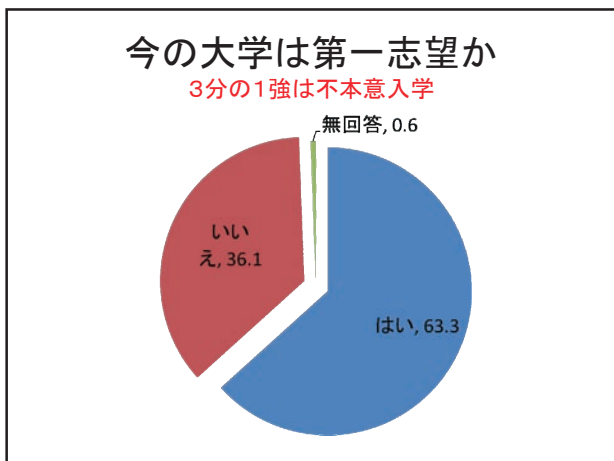


一ヶ月の書籍費 一貫して減り続けている



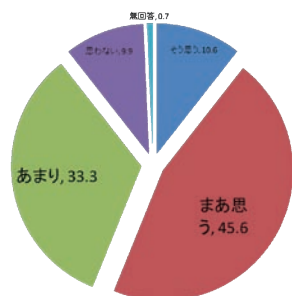
一日の平均読書時間 約4分の3は1時間以下





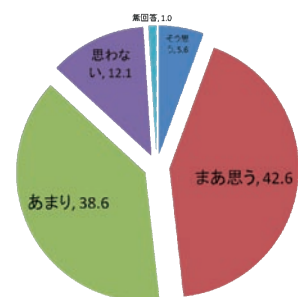
先生が授業に熱心

そう思わない学生が4割を超える



授業全般に満足

半数は満足していない



参考文献

- 全国大学生生活協同組合連合会(2007)
『CAMPUS LIFE DATA 2006 第42回 学生の消費生活に関する実態調査』。

特色GPシリーズ6

『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の開発

2007年10月31日発行

発行 名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町1
TEL 052-789-5696
FAX 052-789-5695
Email info@cshe.nagoya-u.ac.jp
印刷 アインズ株式会社
